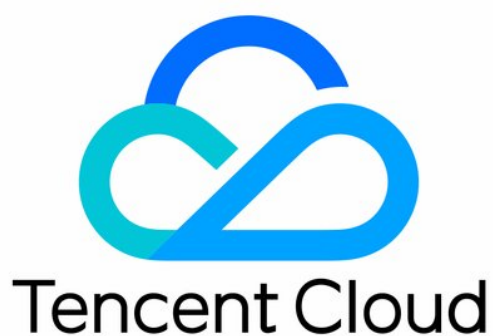


Cloud Object Storage

よくある質問

製品ドキュメント



Copyright Notice

©2013-2024 Tencent Cloud. All rights reserved.

Copyright in this document is exclusively owned by Tencent Cloud. You must not reproduce, modify, copy or distribute in any way, in whole or in part, the contents of this document without Tencent Cloud's the prior written consent.

Trademark Notice



All trademarks associated with Tencent Cloud and its services are owned by Tencent Cloud Computing (Beijing) Company Limited and its affiliated companies. Trademarks of third parties referred to in this document are owned by their respective proprietors.

Service Statement

This document is intended to provide users with general information about Tencent Cloud's products and services only and does not form part of Tencent Cloud's terms and conditions. Tencent Cloud's products or services are subject to change. Specific products and services and the standards applicable to them are exclusively provided for in Tencent Cloud's applicable terms and conditions.

カタログ：

よくある質問

一般的な問題

従量課金に関するご質問

バケット設定に関する質問

ライフサイクル

バッチ処理

back-to-origin

バケットタグ

リンク不正アクセス防止

クロスドメインアクセス

リスト

ドメイン名とCDNに関するご質問

静的ウェブサイト

プライベートネットワークドメイン名

グローバルアクセラレーションドメイン名

カスタムオリジンサーバードメイン名

CDNアクセラレーションドメイン名

ドメイン名に関するその他のご質問

ファイル操作に関するご質問

アップロードとダウンロード

データ管理

ストレージタイプ

権限管理に関するご質問

データ処理に関するご質問

関数の計算

データセキュリティに関するご質問

SDKクラスに関するご質問

ツール類に関するご質問

COSBrowserツール

COS Migrationツール

COSCMDツール

FTP Serverツール

Hadoopツール

APIクラスに関するご質問

よくある質問

一般的な問題

最終更新日：：2023-03-28 16:16:51

COSとは何ですか。

Tencent Cloud COSはクラウド上で提供する無階層構造の分散型ストレージ製品です。低単価かつスピーディーで信頼性の高いデータストレージソリューションをユーザーにご提供します。COSは冗長化方式により、複数のアベイラビリティゾーンにユーザーデータを保存し、複数のクライアントまたはアプリケーションスレッドが同時にこれらのデータの読み取りまたは書き込み操作を行うことを許可します。

ユーザーはCVMインスタンスまたはインターネット経由でWeb APIインターフェースを使用することで、データの保存と検索を行うことができます。COS上のデータは、ユーザーが指定ドメイン名のURLアドレスを使用し、HTTP/HTTPSプロトコルによってそれぞれの独立したデータオブジェクトの内容を保存および検索します。

Tencent Cloud COSに関するその他の情報については、[COS製品ドキュメント](#)をご参照ください。

COSとCloud File Storageの違いは何ですか。

Cloud Object Storage (COS)：ディレクトリ階層がなく、データフォーマットの制限もなく、任意の数量のデータを保存でき、バケットスペースに容量の上限がなく、パーティション管理も必要ありません。データは高可用性アーキテクチャによるデプロイをサポートし、データの最終的な整合性を保障する設計となっており、ファイルロックなどの特性はサポートしていません。APIはHTTP/HTTPSプロトコルを使用してアクセスし、またSDKやツールなどの方式で業務との統合が可能です。COSにアップロードしたオブジェクトはURLアドレスによって直接アクセスまたはダウンロードできます。

Cloud File Storage：通常のネットワークを使用したファイル転送プロトコルです。ファイルシステムの作成と大規模な拡張が可能で、CVMにマウントして使用する必要があります。Cloud File Storageはウェブサイト、オンラインリリース、アーカイブの各種アプリケーションでの保存が可能です。コンピューティングのスループットが高く、極めて高い可用性と持続性を有するほか、同時実行性のニーズが比較的高いケースまたは共有ストレージが必要なケースにも適しています。

COSとCBSの違いは何ですか。

Cloud Object Storage (COS)：ファイルシステム、ディレクトリ構造、ファイル数と容量の上限がないという特性を備え、Web APIインターフェースによってストレージへのアクセスと管理を行う必要があります。SDKやツールなどによる統合が可能で、CVMに依存せず単独で使用できます。COSは大規模データへのアクセスをサポートしますが、ミリ秒レベルのレスポンスやランダムリード/ライトのケースには適しません。

Cloud Block Storage (CBS)：CVMと組み合わせる必要があり、ファイルシステムを使用してパーティションまたはフォーマット化を行ってからでなければマウントして使用することができません。CBSはタイプごとに、

様々なパフォーマンス指標に対応可能な、IOPSとスループット性能の異なる製品を提供しており、スタンドアロンで使用する様々なケースに適応します。

パブリック読み取り権限が設定されたファイルのアクセスリンクが失効する可能性があるのはなぜですか。

アクセス先が臨時署名のあるアクセスリンクであった場合、臨時署名が期限切れになると、そのアクセスリンクは失効します（ファイルがパブリック読み取りかどうかは関係ありません）。

第三者がお客様のパブリック読み取りファイルに直接アクセスできるようにしたい場合は、署名のないアクセスリンクをそのまま使用することをお勧めします。[COSコンソール](#)のオブジェクト詳細ページから署名のないアクセスリンク（すなわちオブジェクトアドレス）を取得することができます。

COSの「フォルダ」または「ディレクトリ」はどのように理解すればよいですか。

COSにはフォルダやディレクトリ概念はありませんが、各ユーザーの使用上の習慣に配慮し、従来のファイル管理のディレクトリ構造を参考にし、コンソールにおけるCOSBrowserツールなどの視覚化インターフェース上で、「フォルダ」を模した表示方法をとっています。詳細については、[フォルダとディレクトリ](#)のドキュメントをご参照ください。

COSファイルは削除後に復元できますか。

COSのデータ冗長化ストレージメカニズムは、サーバーなどのハードウェアに障害が発生した場合にデータを復元する必要があるケースに対応するよう設計されています。バージョン管理機能を有効にしていない状態で、COSのデータを自主的に手動で削除したり、削除するように設定したりした場合は、Tencent Cloudがその指示に従って削除したデータは復元できません。

自主的に削除するケースには次のものがあります。

- COSコンソールで単一ファイルの削除、ファイルの一括削除、フラグメントまたはバケットのクリーンアップを行った場合。
- COSCMD、COSBrowserなどのCOSツールでファイルを削除した場合。
- COS APIまたはSDKでファイルを削除した場合。
- COSライフサイクル管理機能によってファイルが定期的に削除された場合。
- COSの地域間コピーの全量同期機能によって、異なるリージョンのバケット間の新規追加、変更、削除操作が同期されたことで、ターゲットバケット内の同名のファイルが上書き、削除された場合。

誤って削除することを防ぐにはどうすればよいですか。

- バケットのファイルに対し、定期的にバックアップ操作を行います。
 - [COSCMDツール](#)を使用して、COS内のオブジェクトをローカルまたはサードパーティのサーバーにダウンロードします。

- [COS Migrationツール](#)または地域間コピー機能を使用して、同一リージョンまたはリージョン間のバケットデータのバックアップを実現します。
- COS API、SDKを定期的に使用し、データをCOSの他のバケットにバックアップします。
- バージョン管理を使用して過去のバージョンのデータを保存します。
- COS権限を使用して管理します。[アクセス管理の実践](#)をご参照ください。
 - 読み取りと書き込みの権限を分離し、データの読み取りのみが必要な業務については、読み取り権限のみを持つサブアカウントまたは一時キーを使用してアクセスします。
 - バケット（Bucket）の権限を分離し、異なる業務ごとに、対応する業務の範囲内のバケット、ディレクトリおよび操作権限のみを承認します。
 - ルートアカウントを使用せずにCOSにアクセスします。
 - 一時キーを使用してCOSにアクセスします。
 - Tencent Cloudアカウントパスワード、CAMサブアカウントアクセス認証情報、Tencent Cloud APIキーなどの、データアクセスの認証情報を適切に保管します。

COSはデータ統計機能をサポートしていますか。

COSはストレージデータの監視機能を提供しており、ユーザーはデータ監視ウィンドウを通じて各データの状況および傾向を把握できます。全ディスクのデータ傾向を確認したい場合は、[COSコンソールの概要](#)ページで、ストレージタイプの次元ごとに、ストレージ量、リクエスト数、トラフィックなどのデータを確認できます。単一のバケットのデータ統計状況を確認したい場合は、[監視レポートの照会](#)をご参照ください。

このほかに、Tencent Cloudの[BCM](#)ページで各バケットの監視情報を確認し、業務ニーズに応じて異なるアラートポリシーを設定することもできます。

COSは画像処理、画像圧縮、サムネイル、ビデオファイルトランスコーディングなどの機能をサポートしていますか。

COSコンソールはCloud Infiniteを統合しており、画像処理、画像圧縮、サムネイル、ビデオファイルトランスコーディングなどのデータ処理機能を実現できます。詳細については、[データ処理](#)のドキュメントをご参照ください。

COSはどのような形式のオーディオビデオファイルの処理をサポートしていますか。

COSサービスは非構造化データ向けの分散型ストレージサービスであり、サービス自体はオーディオビデオファイルの処理をサポートしていません。mp4、avi、ts、hls、mp3、aacなどのリッチメディアファイルの処理については、[Cloud Infinite \(CI\)](#)をご参照ください。

COSはファイルのアップロード後の自動解凍をサポートしていますか。

COSサービスは非構造化データ向けの分散型ストレージサービスであり、サービス自体はファイル解凍をサポートしていませんが、SCFサービスと組み合わせることで解凍機能を実現できます。詳細については、[ファイル解凍設定](#)をご参照ください。

COSにはどのような仕様と制限がありますか。

詳細については、[仕様と制限](#)のドキュメントをご参照ください。

バケットとは何ですか。

バケット (Bucket) とはオブジェクトのキャリアであり、オブジェクトを入れておくための「容器」と理解することができます。ユーザーはTencent Cloudコンソール、API、SDKなどの複数の方式によってバケットを管理し、属性を設定することができます。例えば、バケットを静的ウェブサイトのホスティング用に設定することや、バケットのアクセス権限設定などを行うことができます。その他の詳細については、[バケット概要](#)をご参照ください。

バケットを作成する際、バケット名の長さについてはどのような制限がありますか。

COSコンソールは2021年9月にバージョンアップを行い、バケット名の長さ制限ポリシーを再調整しました。新しい制限ポリシーでは、バケット名の最大文字数はリージョンの略称およびAPPIDの文字数の影響により、組み合わせたリクエストドメイン名全体の文字数合計が最大60文字までとなります。ユーザーがすでに作成している長いバケット名が業務に影響することはありませんので、調整は不要です。特別な事情によりドメイン名の長さを拡張したい場合は、[お問い合わせ](#)ください。

エラーコード情報を監視するにはどうすればよいですか。

CMを使用して、タイプごとのHTTP戻りコード情報を取得できます。詳細な内容については、[監視とアラーム](#)のドキュメントをご参照ください。CMの使用および関連データの取得方法については、CMの[コンソールガイド](#)または[APIドキュメント](#)をご参照ください。

COSの可用性はどのように計算しますか。

COSは次のような可用性計算の例を、参考までにご提供しています。

明さんはTencent Cloud COSサービスを使用してEC業務に従事しています。2018年11月1日から11月30日のサービス月度内にサービス料金として計100米ドルを消費し、なおかつこのサービス月度内に2回の利用不可の状況が発生したとします。2回の利用不可状況の記録は下表のとおりです。

利用不可イベント番号	持続時間	利用不可イベントの各5分間における記録	HTTP戻りコード	失敗
1	15分間	2018年11月15日10:00～10:05	503	100
		2018年11月15日10:05～10:10	503	99
		2018年11月15日10:10～10:15	503	98
2	15分間	2018年11月20日16:00 - 16:05	500	150
		2018年11月20日16:05～16:10	500	148
		2018年11月20日16:10～16:15	500	140

その他の時間帯では、明さんのリクエストには**すべてリクエスト成功を示すステータスコード200**が返されました。

この場合、このサービス月度全体の可用性は次のようになります。

(1) 当月の各5分間のエラー率数値を計算する

事例の詳細によると、明さんの業務は正常な場合、各5分間のエラー率はすべて0%です。

利用不可イベント1：持続時間は2018年11月15日10:00～10:15であり、各5分間のエラー率はそれぞれ次のとおりでした。

- 10:00～10:05の間のエラー率の計算： $100 / 100 * 100\% = 100\%$
- 10:05～10:10の間のエラー率の計算： $99 / 100 * 100\% = 99\%$
- 10:10～10:15の間のエラー率の計算： $98 / 100 * 100\% = 98\%$

利用不可イベント2：持続時間は2018年11月20日16:00～16:15であり、各5分間のエラー率はそれぞれ次のとおりでした。

- 16:00～16:05の間のエラー率の計算： $150 / 150 * 100\% = 100\%$
- 16:05～16:10の間のエラー率の計算： $148 / 150 * 100\% = 98.67\%$
- 16:10～16:15の間のエラー率の計算： $140 / 150 * 100\% = 93.33\%$

(2) 当該サービス月度のサービス可用性を計算する

この事例において、

- サービス月度の全体時間： $30日 * 24時間/日 * 60分/時間 = 43200分$
- サービス月度内の5分間の総数： $43200分 / 5分 = 8640$
- サービス月度内の利用不可だった5分間の総数： $(15 + 15)分 / 5分 = 6$
- サービス月度内の5分間エラー率の和： $(100\% + 99\% + 98\% + 100\% + 98.67\% + 93.33\%) + (8640 - 6) * 0\% = 589\%$

この月のサービス可用性： $(1 - 589\% / 8640) * 100\% = 99.93\%$

(3) 賠償項目の計算

この事例ではサービス可用性は99.93%であり、99.95%の可用性基準より低く、99.9%より高いです。賠償基準に基づき、Tencent Cloud COSサービスはユーザーに対し、月間サービス料総額の20%、すなわち20米ドルを賠償する必要があります。

明さんがサービス月度終了後六十（60）自然日以内、すなわち2019年1月29日までにチケットを提出して賠償申請を行えば、Tencent Cloudはクーポン配付の形で、明さんの損失に応じた賠償を行います。

COSを利用停止または課金を停止するにはどうすればよいですか。

COSは現時点ではワンクリック停止をサポートしておらず、以下の方式によってCOSを利用停止または課金を停止します。

1. 今後COSサービスを利用しない場合は、COS内の全データ（アップロード未完了のファイルフラグメント、過去のバージョンのオブジェクトなどを含む）を完全に削除することで、それ以上課金されないようにすることが可能です。アカウントを抹消する必要はありません（他のTencent Cloudサービスをご利用の場合、アカウントを抹消すると影響が生じます）。データを削除する操作ガイドについては、[支払い延滞の説明](#)をご参照ください。
2. 長時間（1か月を超える）COSサービスを使用しない場合、ライフサイクルルールを設定してバケット内の標準ストレージタイプのデータを、低頻度ストレージ、アーカイブストレージまたはディープアーカイブストレージなどのコールド化されたストレージタイプに変換することができます。このようにしてストレージ容量料金を節約することができます。詳細については、[ライフサイクルの設定](#)をご参照ください。ストレージタイプの変換には、元のストレージタイプの読み取りリクエストおよびターゲットのストレージタイプの書き込みリクエストが発生します。そのため、ライフサイクルによってストレージタイプを変換すると、読み書きリクエスト料金が発生します。リクエスト課金説明については[リクエスト料金](#)をご参照ください。

注意事項

- バケット内のデータが完全に削除されると復元できません。適時にデータのバックアップを行ってください。
- バケットのバージョン管理機能を有効化している場合、バージョン管理機能を一時的に停止し、もう一度削除操作を実行してください。
- 料金の決済周期に注意し、アカウントに支払い延滞が発生しないようにしてください。課金項目がいずれも日次決済であれば、クリーンアップ当日の請求書はクリーンアップの翌日に生成されます。データの完全なクリーンアップが完了すると、システムに新たな料金は発生しません。詳細については、[課金周期](#)をご参照ください。
- アカウント残高不足により支払い遅延が発生した（アカウント残高が0未満となった）場合、リソースパックの有効期間中かどうかにかかわらず、COSは支払い遅延発生から24時間後にサービスを停止します。
- アカウントが無料利用枠を利用している場合、支払い遅延によるサービス停止後は、このリソースパックは利用できなくなります。
- バケット内のデータが関連する規定に違反し、このデータが二次ロックに属する場合、削除できません。ご不明な点がございましたら、[お問い合わせ](#)ください。

従量課金に関するご質問

最終更新日：2024-05-11 09:27:18

課金方式関連

COSはどの課金方式をサポートしていますか。

Cloud Object Storage (COS) は従量課金（後払い）方式をサポートしています。詳細については、[課金概要](#)をご参照ください。

COSにはどのような課金項目がありますか。

COSの課金項目には、[ストレージ容量料金](#)、[リクエスト料金](#)、[データ取得料金](#)、[トラフィック料金](#)、[管理機能料金](#)が含まれます。COSの価格情報については、[製品価格](#)をご参照ください。

COSでは帯域幅に応じた課金が可能ですか。

COSは帯域幅ピーク値に基づく課金をサポートしていません。現在は従量課金（後払い）方式のみサポートしています。

COSのリクエスト料金はどのように計算されますか。

リクエスト料金はCOSに送信されたリクエストコマンドの回数に応じて計算します。リクエスト回数には、[ユーザーリクエスト回数](#)と、ユーザーが機能を設定した後に発生する[バックエンドリクエスト回数](#)が含まれます。詳細については、[リクエスト料金](#)のドキュメントをご参照ください。

COSの課金項目のうち、調整があったのはどの項目ですか。

2021年9月30日より、COSは公表価格の値下げ調整を実施しています。詳細は次のとおりです。

1. オブジェクトタグ単価

製品価格：値下げ後の価格は、パブリッククラウド中国大陸リージョンは0.00025817米ドル/タグ1万個/日、中国香港および海外リージョンは0.0003098米ドル/タグ1万個/日となります。

課金周期：日次決済とし、毎日、前日の00:00 - 23:59:59に発生した料金を決済します。

請求書の説明：この価格は2021年10月1日付けの請求書から有効になります（すなわち2021年9月30日分の請求）。

2. ディープアーカイブストレージ読み取り/書き込みリクエスト単価

製品価格：値下げ後の価格は、パブリッククラウド中国大陸リージョン、中国香港および海外リージョンで0.07米ドル/1万回となります。

課金周期：月次決済とし、毎月1日に、前月1か月間に発生した料金を決済します。

請求書の説明：この価格は2021年10月1日付けの請求書から有効になります（すなわち9月分の請求）。

COSの低頻度ストレージ容量単価値下げは、どのリージョンに適用されますか。

COSの低頻度ストレージ容量単価値下げは、国際サイトの一部リージョンに適用され、ムンバイ、ソウル、バンコク、シリコンバレー、ジャカルタ、サンパウロリージョンが含まれます。公表価格は0.018米ドル/GB/月から0.015米ドル/GB/月に調整されます。今回の値下げは2022年7月1日から適用されます。

価格関連

COSのどの課金項目が調整されたか？

COSの課金項目の価格調整の記録は以下の通りです：

価格調整時期	価格調整タイプ	価格調整の課金項目	価格調整の詳細
2024年1月15	従量課金（後払い）の価格の値下げ	標準ストレージ容量	<p>課金項目：COS標準ストレージ容量</p> <p>価格：中国国内のパブリッククラウド地域の価格が0.016米ドル/GB/月に、香港および海外地域の価格が0.017米ドル/GB/月まで引き下げられます。</p> <p>課金周期：日ごとに課金し、前日の00:00:00～23:59:59(UTC+8)の使用料を毎日決済します。</p> <p>説明：</p> <p>（1）この価格は2024年1月15日の請求書から適用され、その請求書のリソース使用期間は2024年1月14日00:00:00～23:59:59(UTC+8)です。</p> <p>（2）現在の地域の価格が値下げ後の目標価格より低い場合は、その地域の価格は変わりません。</p>
2024年1月15	従量課金（後払い）の価格の値下げ	標準ストレージ（複数AZ）容量	<p>課金項目：COS標準ストレージ（複数AZ）容量</p> <p>価格：中国国内のパブリッククラウド地域の価格が0.0195米ドル/GB/月に、香港および海外地域の価格が0.002米ドル/GB/月まで引き下げられます。</p> <p>課金周期：日ごとに課金し、前日の00:00:00～23:59:59(UTC+8)の使用料を毎日決済します。</p> <p>説明：</p> <p>（1）この価格は2024年1月15日の請求書から適用され、その請求書のリソース使用期間は2024年1月14日00:00:00～23:59:59(UTC+8)です。</p> <p>（2）現在の地域の価格が値下げ後の目標価格より低い場合は、その地域の価格は変わりません。</p>

2024年1月15	従量課金（後払い）の価格の値下げ	低頻度ストレージ容量	<p>課金項目：COS低頻度ストレージ容量</p> <p>価格：中国国内のパブリッククラウド地域の価格が0.01米ドル／GB／月に、香港および海外地域の価格が0.011米ドル／GB／月まで引き下げられます。</p> <p>課金周期：日ごとに課金し、前日の00:00:00～23:59:59(UTC+8)の使用料を毎日決済します。</p> <p>説明：</p> <p>（1）この価格は2024年1月15日の請求書から適用され、その請求書のリソース使用期間は2024年1月14日00:00:00～23:59:59(UTC+8)です。</p> <p>（2）現在の地域の価格が値下げ後の目標価格より低い場合は、その地域の価格は変わりません。</p>
2024年1月15	従量課金（後払い）の価格の値下げ	低頻度ストレージ（複数AZ）容量	<p>課金項目：COS低頻度（複数AZ）ストレージ容量</p> <p>価格：中国国内のパブリッククラウド地域の価格が0.0132米ドル／GB／月に、香港および海外地域の価格が0.0138米ドル／GB／月まで引き下げられます。</p> <p>課金周期：日ごとに課金し、前日の00:00:00～23:59:59(UTC+8)の使用料を毎日決済します。</p> <p>説明：</p> <p>（1）この価格は2024年1月15日の請求書から適用され、その請求書のリソース使用期間は2024年1月14日00:00:00～23:59:59(UTC+8)です。</p> <p>（2）現在の地域の価格が値下げ後の目標価格より低い場合は、その地域の価格は変わりません。</p>
2024年1月15	従量課金（後払い）の価格の値下げ	アーカイブストレージ容量	<p>課金項目：COSアーカイブストレージ容量</p> <p>価格：中国国内のパブリッククラウド地域の価格が0.004米ドル／GB／月に、香港および海外地域の価格が0.0045米ドル／GB／月まで引き下げられます。</p> <p>課金周期：日ごとに課金し、前日の00:00:00～23:59:59(UTC+8)の使用料を毎日決済します。</p> <p>説明：</p> <p>（1）この価格は2024年1月15日の請求書から適用され、その請求書のリソース使用期間は2024年1月14日00:00:00～23:59:59(UTC+8)です。</p> <p>（2）現在の地域の価格が値下げ後の目標価格より低い場合は、その地域の価格は変わりません。</p>
2024年1月15	従量課金（後払い）の価格の値下げ	インテリジェントティアリングストレージ容量	<p>課金項目：COSインテリジェントティアリングストレージ容量</p> <p>価格：香港および海外地域のパブリッククラウドの価格は、変換後のストレージタイプの価格と一致します。</p> <p>課金周期：日ごとに課金し、前日の00:00:00～23:59:59(UTC+8)の使用料を毎日決済します。</p> <p>説明：</p>

			<p>(1) この価格は2024年1月15日の請求書から適用され、その請求書のリソース使用期間は2024年1月14日00:00:00～23:59:59(UTC+8)です。</p> <p>(2) 現在の地域の価格が値下げ後の目標価格より低い場合は、その地域の価格は変わりません。</p>
2023年11月15日	従量課金（後払い）の価格の値下げ	管理機能-検索料金	<p>課金項目：COS標準ストレージ検索機能料金、低頻度ストレージ検索機能料金、複数AZ標準ストレージ検索機能料金、複数AZ低頻度ストレージ検索機能料金</p> <p>価格：フランクフルト地域のパブリッククラウド価格が0.0025米ドル/GBから0.00225米ドル/GBまで引き下げられます。</p> <p>課金周期：日ごとに課金し、前日の00:00:00～23:59:59(UTC+8)の使用料を毎日決済します。</p> <p>説明：この価格は2023年11月15日の請求書から適用され、その請求書のリソース使用期間は2023年11月14日00:00:00～23:59:59(UTC+8)です。</p>

COSの最新価格はどうのように確認できるか？

COSの最新価格は、[製品価格](#)、[料金見積もりツール](#)、および[トラフィック料金](#)、[ストレージ料金](#)、[リクエスト料金](#)、[データ検索料金](#)、[管理機能料金](#)の公式サイトドキュメントでご確認いただけます。

COSの従量課金（後払い）の価格調整はどうのように発効するか？

COSの後払い課金項目の価格調整後、新しい価格が発効するかどうかは、アカウントの割引設定状況によります。

発効のロジック

1. 割引価格：価格調整後、顧客は自動的に最新価格をお楽しみいただけます。

2. 契約価格：

価格調整後-契約価格が設定されている顧客：元の契約価格で発効、最新価格は適用されません。

価格調整後-契約価格が設定されていない顧客：最新価格で発効、自動的に最新の価格をお楽しみいただけます。

発効のシナリオ

価格調整された課金項目の割引設定状況に基づいて、価格調整後の価格が適用されるかどうかを判断します。以下のいくつかのシナリオを参照してください：

課金項目の割引設定	説明
価格調整の課金項目：割引なし、契約価格なし	価格調整の発効日から、請求書の課金項目の 価格が自動的に更新され 、手がける必要はありません。
価格調整の課金項目：割引なし、契約価格あり	価格調整の発効日から、 契約価格は変わらず、影響を受けません 。請求書の課金項目の割引後の価格は変わりません。

価格調整の課金項目：割引あり、 契約価格なし	価格調整の発効日から、請求書の課金項目の 価格と割引後の単価が自動的に更新され 、手がける必要はありません。
価格調整の課金項目：割引あり、 契約価格あり	価格調整の発効日から、 契約価格は変わらず、影響を受けません 。請求書の課金項目の割引後の価格は変わりません。

COS リソースパック（前払い）の価格調整はどのように発効するか？

COS リソースパックの価格が調整された後、新しい価格は即時に発効します。

リソースパックが最新価格であるかどうかは、リソースパックが価格調整後に注文（新規購入、更新、アップグレード）されたかどうかによります。詳細は以下の通りです：

シナリオ	説明
アカウントにはリソースパックがない	新規購入のリソースパックは、価格調整後の最新価格が適用されます。
アカウントにはリソースパックがある	価格調整前に、新規購入、アップグレード、更新されたリソースパックは、元の価格のままとなります。 価格調整後に、新規購入、アップグレード、更新されたリソースパックは、最新価格となります。

無料利用枠関連

COSには無料利用枠がありますか。

Cloud Object Storage（COS）は全新規ユーザー（COSサービスを初めてアクティブ化した個人および企業ユーザー）向けに一定量の無料利用枠を提供しています。標準ストレージタイプのデータによって発生する標準ストレージ容量料金に充当できます。詳細については、[無料利用枠](#)をご参照ください。

COSは中国香港および中国本土以外リージョンで無料利用枠を設けていますか。

はい。リージョンの範囲に応じた無料利用枠が**パブリッククラウドリージョン**（中国香港および中国本土以外リージョンを含む）に適用されます。リージョンの区分については、[リージョンとアクセスドメイン名](#)でお調べください。

充当可能な**課金項目**の範囲に従い、COSが提供する無料利用枠リソースパックは**標準ストレージ容量**にのみ充当することができ、**標準ストレージ容量以外**の課金項目、例えば低頻度ストレージ容量、アーカイブストレージ容量、リクエスト回数、トラフィックなどには充当できません。課金項目に関するその他の説明については、[課金項目](#)のドキュメントをご参照ください。

無料利用枠を利用しているのに料金が未払いとなっている（差し引かれている）のはなぜですか。

ユーザーがすでに無料利用枠リソースパックを受け取っており、なおかつ無料利用枠リソースパックが有効期間内にもかかわらず、料金が差し引かれたり未払いになったりしている場合は、次の原因が考えられます。

1. COSのご利用中に複数の課金項目が発生し、その一方でCOSから提供された無料利用枠リソースパックには適用対象外のものがあり、すべての課金項目には充当できない場合です。

標準ストレージタイプを選択してデータをCOSにアップロードすると、**データストレージ料金**が発生します。これはCOSがご提供する無料利用枠リソースパックから差し引くことができます。COSには複数のストレージタイプがあり、それぞれのストレージタイプの料金はすべて個別に計算されます。COSがご提供するのは標準ストレージ容量の無料利用枠であり、標準ストレージ容量以外（低頻度ストレージ容量など）には充当できません。COSで、お客様のデータを第三者がアクセスまたはダウンロード可能な状態にしておく必要がある場合は、**データトラフィック料金**および**データリクエスト料金**が発生します。COSがご提供する無料利用枠リソースパックは、この使用量への充当をサポートしていません。

同一リージョンのCOSとCVMの間でデータのアップロードおよびダウンロードを行う場合、トラフィック料金は発生しません（リージョン間のプライベートネットワークアクセスの場合は、クロスリージョントラフィック料金が発生します）。データがコンソール、APIインターフェース、COSツールなどの手段でローカルにダウンロードされる場合は、パブリックネットワークのダウンストリームトラフィック料金が発生します。

COSには複数のストレージタイプがあり、各ストレージタイプに対応するタイプのリクエストが発生します。例えば、低頻度ストレージデータをダウンロードすると低頻度リクエストが発生し、従量課金方式が適用されます。COSとCDNを併用している場合は、そのほかにCDN back-to-originトラフィック料金が発生する可能性があります。COSとCDNを組み合わせて使用する場合に発生する料金の構成については、**COSをCDNオリジンサーバーとする場合に発生するトラフィック**をご参照ください。

グローバルアクセラレーション機能を有効にしている場合は、さらにグローバルアクセラレーション料金が発生します。

2. 利用枠を超過したリソース使用料金：

例えば、COSからの無料標準ストレージ容量が50GBで、実際のストレージデータ量がこれを超過して60GBとなった場合は、超過分の10GBについて従量課金されるため、料金引き落としが発生します。

3. 無料利用枠の期限切れ：

COSはサービスを初めてアクティブ化したユーザー向けに有効期間6か月間の標準ストレージ容量無料利用枠を提供しています。無料利用枠リソースパックが期限切れとなった後は、ストレージ料金は従量課金となります。

COSのINTELLIGENT_TIERINGストレージタイプのデータには無料利用枠を使用できますか。

できません。無料利用枠リソースパックは**標準ストレージ容量**への充当のみサポートしています。低頻度ストレージ/アーカイブストレージ容量、リクエスト、トラフィックなどの**標準ストレージ容量以外**の課金項目は、無料の範囲に含まれません。

INTELLIGENT_TIERINGストレージタイプは独立したストレージタイプであり、使用する際にINTELLIGENT_TIERINGストレージ容量料金が発生します。そのため、INTELLIGENT_TIERINGストレージは標準ストレージの無料利用枠には該当せず、発生する料金についても無料利用枠リソースパックからの充当はサポート

されません。無料利用枠リソースパックの詳細な説明については、[無料利用枠](#)のドキュメントをご参照ください。

COSでCDNを有効にしている場合、無料利用枠はありますか。

ありません。COSとCDNは異なるクラウド製品であり、COSにはCDNを対象とした無料利用枠はありません。CDNを使用する際に発生したCDN back-to-originトラフィックの料金はCOSから請求され、従量課金方式が適用されます。発生したCDNトラフィック料金はCDNクラウド製品から請求されます。CDN back-to-originトラフィックとCDNトラフィックの違いに関する説明については、[COSをCDNオリジンサーバーとする場合に発生するトラフィック](#)をご参照ください。

リソースパック

リソースパック（前払い）方式とは？

COSの課金方式には従量課金（後払い）とリソースパック（前払い）方式があります。リソースパック（前払い）方式はそのうちの一つの課金方式です。従量課金（後払い）方式に比べて、リソースパック（前払い）方式はより多くの割引を享受できます。サポートされるリソースパックのタイプについては[リソースパック紹介](#)をご参照ください。

リソースパックの購入方法は？

[リソースパック購入](#)に従って、リソースパックを購入できます。

COSのデータパックの規格は、毎月の利用可能枠なのか、それとも有効期間内の合計利用可能枠なのか？

データパックの規格は、**毎月差し引くことができる枠**を指します。超過した部分はアカウント残高から料金が引かれ、当月に使い切れなかった枠は翌月に繰り越されません。もし一度に同じ有効期間のデータパックを2つ購入した場合、リソースパックの規格は積み重なり、毎月の差し引き枠は2つのデータパックの合計枠になります。超過部分はアカウント残高から料金が引かれます。

リソースパックを購入したにも関わらず、なぜ料金滞納になる（または料金が引かれる）のか？

リソースパックを購入した後に料金が引かれたり料金滞納になったりする可能性のある理由は以下の通りです。

1. COSの使用過程で、複数の課金項目が発生し、購入したリソースパックは種類が不足してすべての課金項目を差し引くことができない場合：

データをCOSにアップロードすると[データストレージ料金](#)が発生します。これを差し引くために[ストレージ容量パック](#)を購入する必要があります。COSには複数のストレージタイプがあり、各ストレージタイプには対応する

ストレージ容量パックがあります。異なるストレージタイプ間でストレージ容量パックを混用することはできません。例えば、標準ストレージ容量パックは低頻度ストレージタイプが発生するストレージ料金を差し引くことはできません。

COSでデータを人がアクセスしたりダウンロードしたりする場合、[データトラフィック料金](#)と[データリクエスト料金](#)が発生します。[外部ネットワークダウンロードデータパック](#)と[データリクエストパック](#)を購入して差し引く必要があります。

もし同じ地域におけるCOSとCVMとの間でデータのアップロードとダウンロードを行っている場合、それは同じ地域内の内部ネットワークアクセスに該当し、トラフィック料金は発生しません（異なる地域間の内部ネットワークアクセスは地域間トラフィック料金が発生します）。データがコントロールパネル、APIインターフェース、COSツールなどを通じてローカルにダウンロードされる場合、外部ネットワークダウンロードトラフィック料金が発生します。

COSには複数のストレージタイプがあり、各ストレージタイプは対応するリクエストタイプを発生させます。例えば、低頻度ストレージデータのダウンロードは低頻度リクエストを発生させます。異なるリクエストタイプ間でリクエストパックを混用することはできません。現在、標準リクエストパックと低頻度リクエストパックのみが提供されており、他のストレージタイプのリクエストは従量課金方式でのみ使用可能です。

もしCOSをCDN/EdgeOneと組み合わせて使用している場合、CDNオリジントラフィック料金が発生する可能性があります。[CDNオリジンデータパック](#)を購入して差し引く必要があります。COSとCDN/EdgeOneを組み合わせて使用する際に発生する料金構成については、[COSがCDNオリジンとして使用される際のトラフィック](#)をご参照ください。

もしグローバルブースト機能を有効にしている場合、グローバルブースト料金が発生します。[グローバルブーストデータパック](#)を購入して差し引く必要があります。

2. 購入したリソースパックがストレージバケットの所在地域と一致せず、リソースパックで料金を差し引くことができない場合：

リソースパックを購入する際にはリソースパックの地域を選択する必要があります。異なる地域のリソースパックは混用することはできません。例えば、中国本土一般（金融クラウド地域を除く）の標準ストレージ容量パックを購入したけど、データはシンガポールのストレージバケットに保存されている場合、シンガポールのストレージバケットは別途料金が発生し、中国本土一般のリソースパックで差し引くことはできません。

COSは現在、[中国本土一般](#)、[中国香港および海外一般](#)のリソースパックのみを提供しており、他の地域のストレージバケット（例えば金融クラウド地域のストレージバケット）で発生する料金は従量課金されます。地域説明については[地域とアクセスドメイン名](#)をご参照ください。

3. データの使用量が購入したリソースパックの規格を超えた場合：

例えば、100GBの標準ストレージ容量パックを購入したけど、実際の使用量が105GBに達した場合、超過した5GBは従量課金で支払う必要があり、そのため料金が引かれます。このような状況を解決するためにリソースパックをアップグレードすることができます。

COSリソースパックを購入した後、自動で差し引かれるのか、それとも他の設定操作が必要か？

COSリソースパックを購入した後、選択した有効時間から自動的に差し引かれます。他の設定操作は必要ありません。

アカウントに複数のリソースパックがある場合、一つが期限切れになった場合、自動的に他のリソースパックを使用しますか？

リソースパックが期限切れになったり使い切ったりした場合、システムは自動的に他の利用可能なリソースパックを優先して差し引きます。設定やデータ移行操作は必要ありません。利用可能なリソースパックがない場合は、デフォルトではアカウント残高から料金が引かれます。アカウント残高が0未満の場合、タイムリーにチャージしなければ、料金滞納によりサービスが停止されます。

COSリソースパックは積み重ねて使用できるか？

COSリソースパックは積み重ねて使用できます。ただし、リソースパックの規格のみが積み重ねられ、有効期間は積み重ねられません。リソースパックの購入例、有効期間、および有効範囲については[リソースパック紹介](#)をご参照ください。

すでに外部ネットワークダウンロードデータパックを購入している場合、CDNオリジンデータパックを購入する必要があるか？

CDNを有効にしてCDNブーストドメイン名を使用してCOSにアクセスする場合のみ、CDN/EdgeOneオリジントラフィックが発生します。外部ネットワークダウンロードデータパックにはCDN/EdgeOneオリジントラフィックは含まれていません。CDN加速機能を有効にしている場合は、CDNオリジンデータパックを購入することをお勧めします。

COSリソースパックの更新と再購入の違いは？

更新：リソースパックの有効期間を延長することを指します。例えば、3ヶ月有効で50GBの外部ネットワークダウンロードデータパックを購入し、それを手動で3ヶ月更新した場合、そのデータパックの有効期間は3ヶ月延長され、有効期間内に毎月50GBのトラフィックを得ることができます。

再購入：[COSリソースパック購入ページ](#)にアクセスして、必要なリソースパックを再購入することを指します。

説明

リソースパックの価格が変動する場合（例えば値下げ）、以前に購入したリソースパックは更新できなくなります。再購入する必要があります。

リソースパック管理ページに表示される**無料**リソースパックは更新できません。再購入する必要があります。

なぜCOSの一部のリソースパックは更新またはアップグレードできない？

以下の状況ではリソースパックは更新またはアップグレードできません。新たにリソースパックを購入してください。[COSリソースパック購入ページ](#)にアクセスしてください。

1. 新規ユーザーに**無料進呈**される標準ストレージ容量パックは、更新／アップグレードできません（リソースパック管理ページに表示される全地域標準ストレージリソースパック50GBまたは1TBは、無料の標準ストレージ容量パックです）。
2. リソースパックの価格が変動する場合（例えば値下げ）、以前に購入したリソースパックは更新／アップグレードできません。新たに選択して購入する必要があります。

3. ストレージ容量パックはアップグレード操作が可能です。データパックとリクエストパックはアップグレード操作ができません。もしアップグレード（より高い規格の）データパックやリクエストパックが必要な場合は、[COSリソースパック購入ページ](#)にアクセスして新たにリソースパックを選択してください。データパックとリクエストパックは積み重ねて使用できます。

説明

更新とアップグレードは[リソースパック更新](#)と[リソースパックアップグレード](#)をご参照ください。

リソースパックの使用状況を確認する方法は？

COSコントロールパネル > [リソースパック管理-有料リソースパック](#)にアクセスして、購入したリソースパックの発効時間、期限切れ時間、および使用量を確認できます。

COSリソースパックは更新またはアップグレードが可能なのか？

可能です。関連する操作ガイドは[リソースパック更新](#)と[リソースパックアップグレード](#)をご参照ください。

COSリソースパックの更新とアップグレードの違いは？

リソースパックの更新はリソースパックの有効期間を延長することを指します。

リソースパックの更新の適用シナリオ：以前に購入したリソースパックの有効期間が終了しようとしており、リソースパックの利用可能時間を延長する必要がある場合。

ケース：3ヶ月有効で50GBの外部ネットワークダウンロードデータパックを購入し、それを手動で3ヶ月更新した場合、そのデータパックの有効期間は3ヶ月延長され、有効期間内に毎月50GBのトラフィックを得ることができます。

リソースパックのアップグレードはリソースパックの規格を拡大することを指します。

リソースパックのアップグレードの適用シナリオ：以前に購入したリソースパックの規格が実際のビジネスニーズを満たさなくなり、より大きな規格のリソースパックが必要な場合。

ケース：3ヶ月有効で50GBの外部ネットワークダウンロードデータパックを購入したとします。アップグレードページでリソースパックを100GBにアップグレードした場合、そのリソースパックは毎月100GBの外部ネットワークダウンロードトラフィックを差し引くことができ、有効期限は変わりません。

COSリソースパックの返金は可能なのか？

返金条件を満たすリソースパックについては、セルフサービスでの返金をサポートしています。詳細は[リソースパックの返金](#)をご覧ください。

COSリソースパックの有効期限が切れた後、データは失われるか？データを移行する必要があるか？

リソースパックは使用過程で発生する費用を差し引くためにのみ使用され、データの保存には使用されません。

リソースパックが使い切られた場合やリソースパックの有効期限が切れた場合は、**自動的に後払いモードに切り替わり**、アカウントの残高から料金が差し引かれるため、データが失われることはなく、**データの移行操作を行う必**

要はありません。ただし、15日間料金滞納が続く場合、データは破棄されます。詳細は[料金滞納の説明](#)をご覧ください。

COS リソースパックとストレージバケットの関係は？

COS ストレージバケットはデータを保存するためのストレージスペースであり、リソースパックは事前に支払いを行う方法であり、課金項目と地域に応じて差し引かれるもので、ストレージバケットとは直接の対応関係はありません。詳細は[リソースパック紹介](#)をご覧ください。

例えば、アカウントに「中国本土一般、50GB、3ヶ月有効」の標準ストレージ容量パックがある場合、アカウント下のすべての「中国本土」地域のストレージバケットで発生する「標準ストレージ」容量料金は、そのリソースパックで差し引くことができます。

COSでグローバルブースト機能を開始すると発生する費用は、どのリソースパックで差し引く？

グローバルブースト機能を使用して発生する通信料金は、[グローバルブーストデータパック](#)で差し引くことができます。グローバルブーストの紹介と料金説明については、[グローバルブースト概要](#)をご覧ください。

COSで購入したリソースパックの有効期限が切れるとサービスが停止しますか？

リソースパックの有効期限が切れた後は、**従量課金**で決済されます。アカウントに料金滞納が発生した場合、オブジェクトストレージCOSは24時間後にサービスを停止し、それからデータは15日間保持されます。この期間内にアカウントの残高を0以上にしない場合、データは破棄されます。詳細は[料金滞納の説明](#)をご覧ください。

COS リソースパックは他のTencent Cloudアカウントに移行できるか？

COS リソースパックは他のアカウントに移行することはできず、リソースパックに対応する購入アカウントでのみ使用できます。

COS リソースパックにはリクエスト料金は含まれているか？

COSの異なる課金項目には異なるタイプのリソースパックが対応しています。リクエスト料金は別途リクエストパックを購入する必要があります。現在、**標準ストレージリクエストパック**と**低頻度ストレージリクエストパック**があります。必要に応じて、[COS リソースパック購入ページ](#)にアクセスしてください。

COSではデータパックを購入する必要があるか？

実際の使用シナリオに応じてデータパックを選択して購入することができます。COSには複数の課金項目があり、無料のリソースパックは標準ストレージ容量のみを差し引くことができますが、使用過程でトラフィック料金やリクエスト料金などが発生することは避けられません。料金の発生を避けるため、使用前に**外部ネットワークダウンロードデータパック**と**リクエストパック**を購入することをお勧めします。[COS リソースパック購入ページ](#)にアクセスしてください。

COS リソースパックの購入は、既に発生している未払い料金を差し引くことができるか？

リソースパックを購入する際に**今すぐ適用**を選択した場合、その日の消費請求書はリソースパックで差し引くことができますが、購入当日以前に発生した消費は差し引かれません。したがって、リソースパックは既に発生している未払い料金を差し引くことはできません。

COSリソースパックはどのように差し引かる？

COSリソースパックの有効期間内に、請求書の決済時には以下の方針に従って差し引かれます。

リソースパックの分類：「無料リソースパック」は「有料リソースパック」よりも優先して差し引かれます。無料のリソースパックと有料のリソースパックを超える使用量については、超過部分は従量課金で決済されます。

リソースパックの有効期限：先に期限が切れるリソースパックが先に差し引かれます。特別注意：**ここでの有効期限とは、リソースパックの有効期間中の期限を指し、リソースパックの現在の周期の期限を指すものではありません。**

リソースパックの使用量：残りの使用量が多いリソースパックが先に差し引かれます。

リソースパックの購入時間：先に購入されたリソースパックが先に差し引かれます。

差し引きルールに関する詳細な説明については、リソースパック紹介のリソースパックの種類の章の[差し引きルール](#)をご覧ください。

COSリソースパックはどのように単位を換算するのか？

COSはストレージ容量パック、データパック、読み書きリクエストパックをサポートしています。その中で：

1. ストレージ容量の課金項目および容量パックの課金単位はGBで、容量単位の換算は1024進法です。例えば：標準ストレージ容量1TB=1024GB。1TB標準ストレージ容量パックは、換算後は1024GB標準ストレージ容量です。
2. トラフィックの課金項目およびデータパックの課金単位はGBで、トラフィック単位の換算は1000進法です。例えば：外部ネットワークダウンロードトラフィック1TB=1000GB。1TB外部ネットワークダウンロードデータパックは、換算後は1000GB外部ネットワークダウンロードトラフィックです。
3. 読み書きリクエストおよびリクエストパックの課金単位は万回リクエストで、リクエスト単位の換算は10000です。例えば：1万回標準ストレージ書き込みリクエスト=10000回。10万回標準ストレージリクエストパックは、換算後は100000回標準ストレージリクエストです。

COSリソースパックの有効期限切れ、隔離、破棄とは？

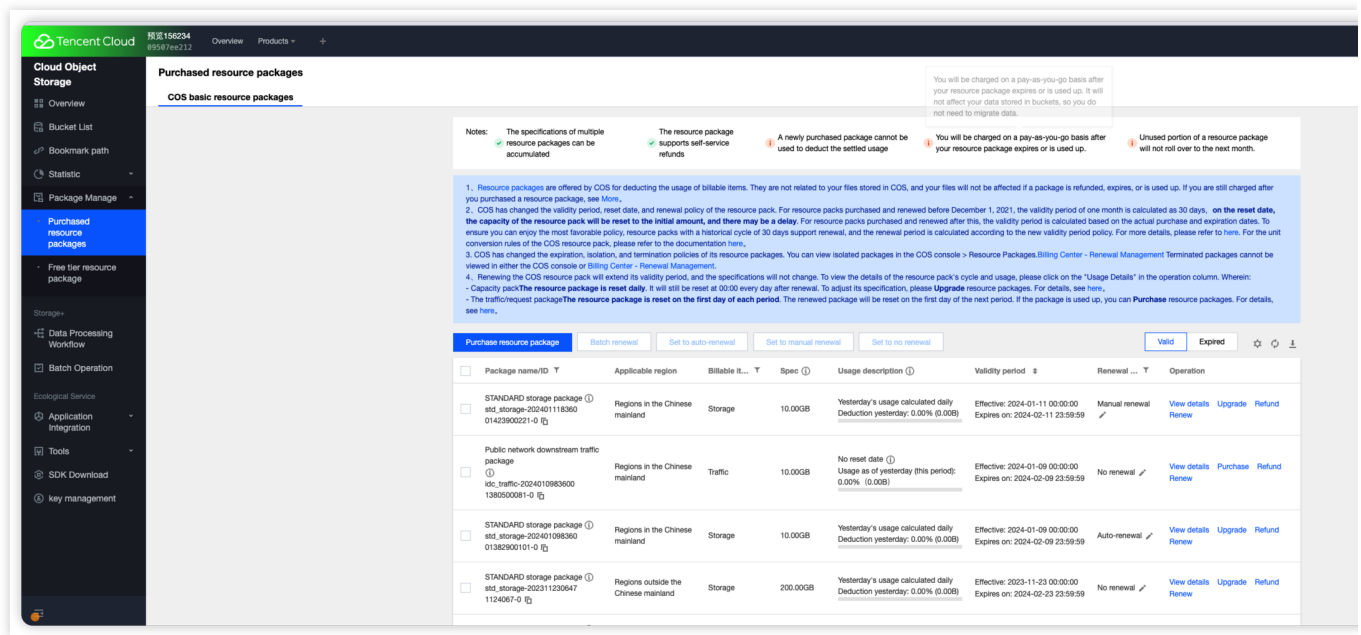
1. 適用範囲

COSリソースパックの有効期限切れ、隔離、破棄の方針は、リソースパックの購入（即ち[有料リソースパック](#)リスト内のリソースパック）にのみ適用し、無料で提供されるリソースパック（即ち[無料リソースパック](#)リスト内のリソースパック）には適用されません。COSコントロールパネル-[リソースパック管理](#)で、現在のリソースパックが属する分類を確認することができます。

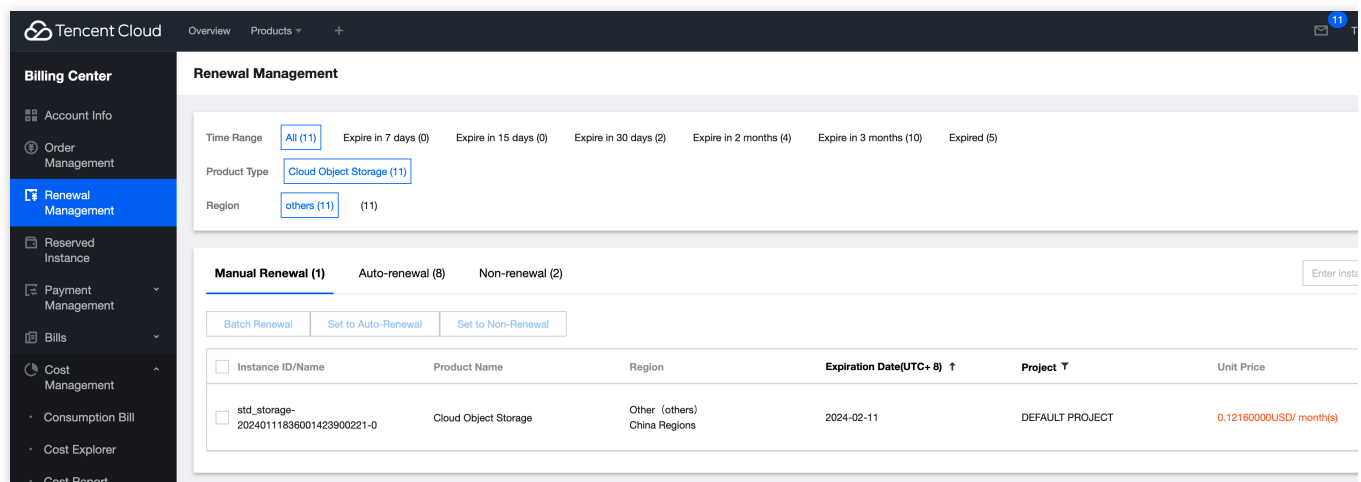
2. 用語の説明

有効期限切れ：リソースパックが有効期限が切れたことを指します。

COSコントロールパネル-[リソースパック管理](#)ページ：リソースパックの有効期限を確認できます。ここで、発効とはリソースパックの適用開始時間を指し、期限とはリソースパックが切れる期限を指します。

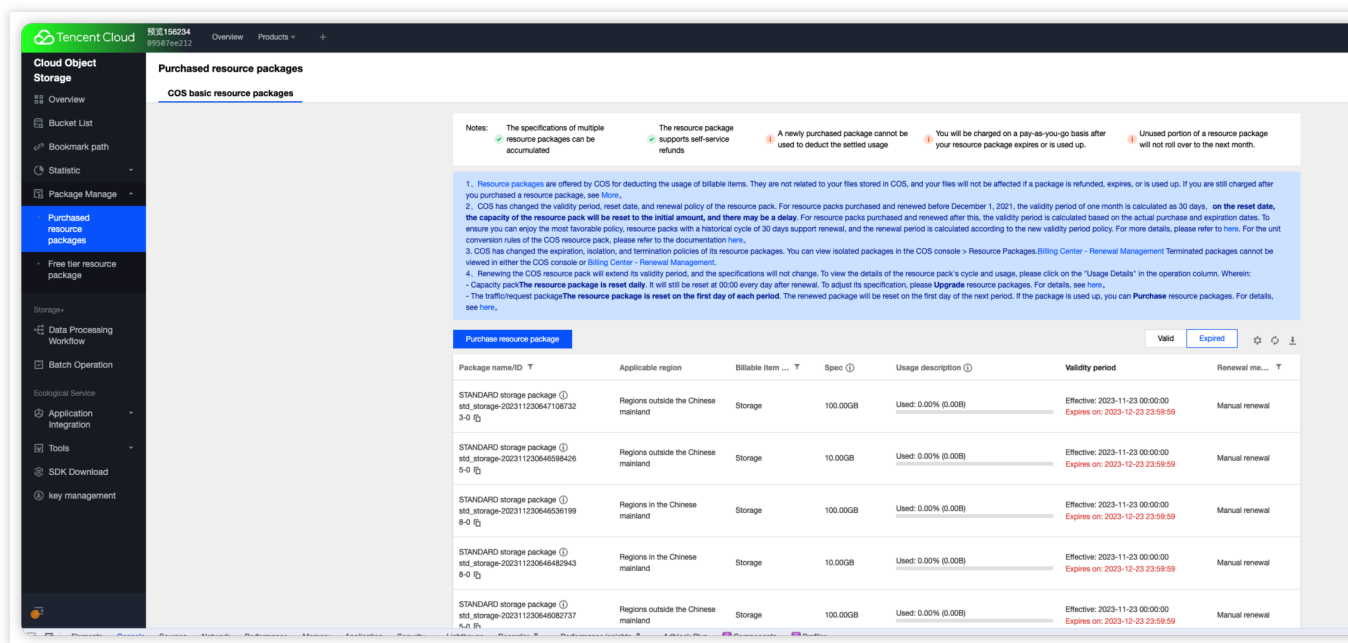


料金センター-[更新管理](#)ページ：リソースパックの期限日を確認できます。



隔離：リソースパックの有効期限が切れてから1日後に、隔離状態に入ることを指します。

COSコントロールパネル-[リソースパック管理](#)ページ：期限切れリソースパックリストで、隔離中のリソースパックを確認できます。



料金センター-[更新管理](#)ページ：隔離中のリソースパックは表示されず、更新などの操作はサポートされていません。同等のリソースパックを引き続き使用する場合は、[再購入](#)を行ってください。

破棄：リソースパックの有効期限が切れてから1日後に隔離状態に入り、隔離から365日後にリソースパックが破棄されます。

COSコントロールパネル-[リソースパック管理](#)ページ：破棄されたリソースパックは表示されません。

料金センター-[更新管理](#)ページ：破棄されたリソースパックは表示されません。

COS リソースパックの有効期限切れ、隔離、廃棄ポリシー変更通知

詳細：

1. 適用範囲

今回の隔離廃棄ポリシーの変更は、購入したリソースパック（即ち[有料リソースパック](#)リストにあるリソースパック）にのみ適用しており、無料のリソースパック（すなわち[無料リソースパック](#)リストにあるリソースパック）には適用されません。COSコントロールパネル-[リソースパック管理](#)で、現在のリソースパックが属するカテゴリを確認することができます。

2. ポリシー説明

ポリシー	変更前	変更後
COS リソースパックの有効期限切れ	リソースパックの有効期限が切れる前に、期限切れのリマインダーを送信します。リソースパックの有効期限が切れた後に、期限切れの通知を送信します。	期限切れのリマインダーと期限切れの通知の送信ポリシーは変わらず、通知文面が更新されます。

COSリソースパックの隔離	隔離ポリシーはありません	リソースパックの有効期限が切れてから1日後に、隔離状態に入ります。隔離中のリソースパックは、COSコントロールパネル- リソースパック管理 ページで見ることができますが、料金センター- 更新管理 ページでは見ることができません。
COSリソースパックの廃棄	廃棄ポリシーはありません	リソースパックの有効期限が切れてから1日後に、隔離状態に入ります。隔離から365日後に、リソースパックが廃棄されます。廃棄されたリソースパックは、COSコントロールパネル- リソースパック管理 ページと料金センター- 更新管理 ページの両方で見ることができません。

3. 典型的なケース

例えば、2023年1月1日 (UTC+8)に1ヶ月の期間と10GBの容量を持つ標準ストレージ容量パックを購入した場合、そのリソースパックは2023年1月31日 (UTC+8)に有効期限が切れます。リソースパックの有効期限が切れる前に、リソースパックの期限切れのリマインダーを受け取ります。リソースパックの有効期限が切れた後に、リソースパックの期限切れの通知を受け取ります。

変更前：リソースパックの有効期限が切れた後、COSコントロールパネル-リソースパック管理、料金センター-更新管理でこのリソースパックを見ることができ、このリソースパックは長期間存在し、廃棄はされません。

変更後：リソースパックの有効期限が切れた翌日、リソースパックは隔離状態に入ります。COSコントロールパネル-リソースパック管理でこのリソースパックを見ることができますが、料金センター-更新管理では見ることができません。リソースパックが隔離されてから365日後に、リソースパックは廃棄されます。COSコントロールパネル-リソースパック管理と料金センター-更新管理の両方でこのリソースパックを見ることはできません。

通知関連

COSの通知にはどのようなものがありますか。

COSの通知は新機能のリリース、製品の変更、製品の有効期限/回収および製品のアラートなどを含みます。詳細についてはお客様が受信した通知のとおりです。

サブスクリプションメッセージ、非サブスクリプションメッセージとは何ですか。

サブスクリプションメッセージ：メッセージセンターで受信者および通知方式をカスタマイズできます。デフォルトのシーンで使用するメッセージに属します。

非サブスクリプションメッセージ：受信者および受信方式を変更できず、受動的に受信することしかできません。特殊なシーンで使用するメッセージに属します。

ルートアカウント、サブアカウントがCOS通知を受信するかどうか設定するにはどうすればよいですか。

COS通知は受信者のカスタマイズをサポートしています。メッセージセンターの[サブスクリプション管理](#)でメッセージ受信者を設定することができます。

トラフィック関連

COSパブリックネットワークダウンストリームトラフィック、CDN back-to-originトラフィック、グローバルアクセラレーショントラフィックはどう違うのですか。

パブリックネットワークダウンストリームトラフィック：例えば、ブラウザを直接使用してCOSのドメイン名でリソースにアクセスすることにより発生するトラフィックなど、データがインターネットでCOSからクライアントに伝送されることにより発生するトラフィックです。

CDN back-to-originトラフィック：CDNアクセラレーションを有効化し、CDNドメイン名を使用してアクセスし、データをCOSからTencent Cloud CDNエッジノードに伝送することによって発生するトラフィックです。

グローバルアクセラレーショントラフィック：グローバルアクセラレーション機能を有効化し、アクセラレーションドメイン名を使用してデータ伝送を行うと発生するトラフィックです。

COSのパブリックネットワークダウンストリームトラフィックはどのように発生し、どのように課金されますか。

パブリックネットワークダウンストリームトラフィックとは、インターネットを通じてデータをCOSからクライアントに転送する際に発生するトラフィックを指します。ユーザーが[オブジェクトリンク](#)からオブジェクトを直接ダウンロードした場合、または[静的ウェブサイト](#)のオリジンサーバーを介してオブジェクトを閲覧した場合に発生するトラフィックがパブリックネットワークダウンストリームトラフィックに該当し、それに対応する料金がパブリックネットワークダウンストリームトラフィック料金です。パブリックネットワークダウンストリームトラフィック課金の詳細な情報については、[課金項目](#)および[製品価格](#)をご参照ください。

COSコンソール、ツール、API、SDKなどの方式でファイルをダウンロードした場合、パブリックネットワークダウンストリームトラフィック料金は発生しますか。

COSへのアクセスによって発生するトラフィック（プライベートネットワークトラフィックまたはパブリックネットワークトラフィック）はご利用の方式に関係なく、同一リージョンのクラウド製品からのCOSアクセスの場合のみ、デフォルトでプライベートネットワークを使用するため、パブリックネットワークダウンストリームトラフィック料金が発生しません。プライベートネットワークアクセスかどうかの判断については、[プライベートネットワークとパブリックネットワークアクセス](#)のドキュメントをご参照ください。

COSはパブリックネットワークトラフィックをどのように区別していますか。

パブリックネットワークダウンストリームトラフィックとは、インターネットを通じてデータをCOSからクライアントに転送する際に発生するトラフィックを指します。例えば、COSに保存されているファイルをCOSコンソール経由でダウンロードする場合、ツールによってオブジェクトへのアクセスやダウンロードを行う場合、またはブラウザを使用してオブジェクトのプレビューを行う場合、オブジェクトアドレスまたはカスタムドメイン名を使用してオブジェクトにアクセスおよびダウンロードを行う場合などは、いずれもパブリックネットワークダウンストリームトラフィックが発生します。詳細については、[プライベートネットワークとパブリックネットワークアクセスの判断](#)のドキュメントをご参照ください。

プライベートネットワークを使用してCOSにアクセスする場合、料金は発生しますか。

プライベートネットワーク経由でCOSにアクセスする場合、トラフィック料金は無料です。ただし、ストレージ容量とリクエスト回数については関連の料金が発生します。詳細な説明については、[課金項目](#)をご参照ください。

COSからCDNに接続すると、どのように課金されますか。

COSからCDNに接続した場合、COSとCDNによって発生する料金がそれぞれ課金されます。

COS料金には、ストレージ料金、リクエスト料金、CDN back-to-originトラフィック料金が含まれます。

CDN料金には、CDNトラフィック料金が含まれます。

CDNアクセラレーションを有効化するとパブリックネットワークダウンストリームトラフィックが発生するのはなぜですか。

CDNを有効化した後も、引き続きCOSのオリジンサーバードメイン名（形式は `<BucketName-APPID>.cos.<region>.myqcloud.com` など）を使用してCOS上のファイルにアクセスした場合は、引き続きパブリックネットワークダウンストリームトラフィック料金が発生します。COSではCDNアクセラレーションドメイン名を使用したファイルアクセスをお勧めしています。この場合はCDN back-to-originトラフィックのみが発生します。

COSのCDN back-to-originトラフィックとは何ですか。どのように発生しますか。

CDN back-to-originとは、CDNドメイン名によってファイルにアクセスする際に、ファイルがCDNエッジノード上にキャッシュされていない場合、CDNがCOSからキャッシュノードまでデータをプルするアクションを指します。

説明：

CDN back-to-originにはback-to-originトラフィック料金がかかります。具体的な単価については、[トラフィック料金](#)のドキュメントをご参照ください。

COSのCDN back-to-originトラフィックはどのように課金されますか。

CDN back-to-originトラフィックとは、データをCOSからTencent Cloudエッジノードに転送する際に発生するトラフィックを指します。ユーザーがCDNアクセラレーションを有効化した後、**Tencent Cloud CDNアクセラレーションドメイン名**を通じてCOSデータをクライアントから閲覧またはダウンロードした場合に発生するトラフィックがCDN back-to-originトラフィックに該当し、それに対応する料金がCDN back-to-originトラフィック料金

です。COSのCDN back-to-originトラフィック課金の詳細な情報については、[課金概要](#)および[製品価格](#)をご参照ください。

CDN back-to-originトラフィックとCDNトラフィックにはどのような違いがありますか。

CDN back-to-originトラフィックはCOSの課金項目の1つであり、ユーザーがCOSをCDNオリジンサーバーとして使用する場合、データをCOSからTencent Cloud CDNエッジノードに転送する際に発生するback-to-originトラフィックです。

CDNトラフィックはTencent Cloud Content Delivery Network（略称CDN）の課金項目の1つであり、データをTencent Cloud CDNエッジノードからユーザー側に転送する際のトラフィックです。

COSとCVM間のデータ転送について、トラフィックとリクエスト数は有料ですか。

同一リージョンのCOSとCVM間のデータ転送はプライベートネットワーク転送に該当し、トラフィックは無料ですが、リクエストは有料となります。プライベートネットワークアクセスかどうかの判断については、[プライベートネットワークアクセスの判断方法](#)をご参照ください。異なるリージョンのCOSとCVM間のデータ転送については、トラフィックとリクエストのいずれも有料となります。

ファイルをCOSバケットにアップロードするとトラフィック料金は発生しますか。

発生しません。ユーザーがファイルをアップロードする際に発生するアップストリームトラフィックには料金はかかりません。

同一リージョン内のTencent Cloud製品間の相互アクセスにトラフィック料金は発生しますか。

同一リージョン内では、Tencent Cloud製品間のアクセスは自動的にプライベートネットワークを使用した接続となるため、トラフィック料金は発生しません。詳細については、[プライベートネットワークアクセスの判断方法](#)をご参照ください。

トラフィック盗用防止とは？

1. 機能概要

COSはトラフィック盗用防止機能をサポートし、システムはインテリジェントに検出し、お客様はポリシーを設定する必要はありません。異常が検出された場合、そのバケットをブロックし、通知を送信します。通知を受け取った後、異常なトラフィックによるブロックであれ、予期内の予トラフィック増加であれ、ブロック解除をリクエストするように[お問い合わせ](#)ください。

2. 適用範囲

トラフィック盗用防止機能は、デフォルトで各ユーザーに対してインテリジェント検出を行うシステムポリシーです。

3. ホワイトリスト

トラフィック盗用防止機能が不要な場合は、関連するリスクを評価し、そのリスクが手頃であることを確認した後、ストレージバケット名を提供し、ビジネスまたは[お問い合わせ](#)に連絡し、トラフィック盗用防止ホワイトリ

ストを申請してください。ホワイトリストを追加した後、お客様のストレージバケットは盗用防止を検知されなくなります。

4. 通知ロジック

システムがストレージバケットの当日の合計トラフィックの異常な増加を検出した場合、インターネットからの予期外の下りトラフィックによって発生する高いトラフィック料金を削減するために、COS はストレージバケットをブロックし、通知を送信します。

説明：

1. ストレージバケットの当日の合計トラフィック：当日の 00:00 から検出時刻までのストレージバケットの合計トラフィックを指します。
2. トラフィック盗用防止におけるトラフィック：[インターネットの下りトラフィック](#) の課金項目を指します。

5. 処理対策

ストレージバケットが盗用によってブロックされた場合、以下のようにストレージバケットへの正常なアクセスを確保することができます。

現在、セルフアンブロックはサポートされていません。『COS トラフィック盗用防止のブロック通知』を受信した後、そのバケットに正常にアクセスすることを確保するために、ブロック解除を申請するように速やかに[お問い合わせ](#)ください。

[COS コンソール](#)にログインして、そのバケットのトラフィックモニタリングを確認し、実際のニーズに応じてストレージバケットの権限やアラートポリシーを設定することができます。

請求書関連


どのように請求書を確認できますか。



アカウントがCOSサービスを利用したことによって発生した料金の情報は、コンソールの料金センターで確認できます。照会方法の詳細については、[請求書の確認とダウンロード](#)をご参照ください。バケットレベルの請求書明細については、コンソールの[料金センター](#)から使用量の明細をダウンロードして確認できます。

請求書をダウンロードするにはどうすればよいですか。

Tencent Cloudコンソールにログインし、料金センターの[請求書ダウンロードセンター](#)から必要な請求書パッケージ、L0-PDF請求書、L1-マルチレベル集計請求書、L2-リソース請求書、L3-請求明細書をダウンロードできます。詳細については[請求書ダウンロードセンター](#)をご参照ください。

L0: PDF Bills L1: Bill Summary L2: Bill by Instance L3: Bill Details

 L0 bills are in PDF format and can be used for payment requesting or archiving.

Period  to 

Account No

Download

バケットごとの請求書発行、タグごとの請求書分割とは何ですか。

バケットごとの請求書発行：請求書のリソースIDがバケット名+APPIDを指すもの、インスタンス名がバケット名を指すもの、すなわちバケットレベルでの請求書発行を指します。各バケットに対応する課金項目の料金と使用量を確認できます。

タグごとの請求書分割：請求書分割タグによってリソースのすべての所有権を区別することを指します。請求書分割タグの設定方法については、[請求書分割タグ](#)をご参照ください。

バケットごとの請求書発行、タグごとの請求書分割を設定するにはどうすればよいですか。

COSではバケットごとの請求書発行およびタグごとの請求書分割をサポートしています。

バケットごとに請求書を発行する場合は担当者にご連絡の上、バケットごとの請求書発行のためのホワイトリストを申請する必要があります。ホワイトリストがアクティブ化された日の翌日に請求書が有効になります。それ以前の請求書は変更されません。

タグごとに請求書を分割する場合は、先にバケットにタグを付与してから請求書分割タグを設定し、かつバケットごとの請求書発行を申請する必要があります。バケットごとの請求書発行は現在ホワイトリスト形式で開放しています。この機能が必要な場合は、担当者までご連絡ください。

説明：

ホワイトリストのアクティブ化後、バケットごとの請求書発行が有効となるのはそれ以降の請求書のみであり、発行済みの請求書は変更されません。また、バケットごとの請求書発行のためのホワイトリストはアクティブ化するとキャンセルできず、請求書を元に戻すことはできません。

請求書がバケットごとに発行されているかどうかを判断するにはどうすればよいですか。

(1) リソースID請求書

(2) 請求明細書

Bill by Instance
Bill Details

i The current month's final bill for resource consumption will be generated on the 3rd day of the upcoming month. Expense figures in Bill Details are accurate up to 8 decimal places. Expense figures in Bill by Instance are rounded o

Cloud Object Storage
All Subproducts
Please choose one subproduct
All Pro

All Billing Modes
All transaction types
☐ Do not display \$0 transactions

Total Cost (Including Tax) 0.00 USD = Total Amount After Discount (Excluding Tax) 0.00 USD - Vouch

Instance ID	Instance Name	Transaction Time	Usage Start Time
kiwi-sz-125f	kiwi-sz	2022-12-07 08:08:19	2022-12-06 00:00:00
kiwi-sz-125f	kiwi-sz	2022-12-06 08:08:29	2022-12-05 00:00:00
kiwi-sz-125f	kiwi-sz	2022-12-05 08:08:24	2022-12-04 00:00:00

(3) L3-請求明細書

ProductName	BillingM	ProjectN	Region	Availabi	InstanceID
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go	default	North China Beijing Zone 1	bj-test-1258535	
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go	default	North China Beijing Zone 1	bj-test-1258535	
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go	default	North China Beijing Zone 1	bj-test-1258535	
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go	default	North China Beijing Zone 1	bj-test-1258535	
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go	default	North China Beijing Zone 1	bj-test-1258535	
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go	default	North China Beijing Zone 1	bj-test-1258535	

注意：COSのバケットごとの請求書発行機能がフルリリースされると、使用量請求明細書の料金割り当て-月ごとのsheetはバケットの割り当てを表示せず、その他の情報に変更はありません。バケットの具体的な料金については、L2またはL3請求書をダウンロードして確認してください。

COSのバケットごとの請求書発行のリリース計画とは何ですか。

COSのバケットごとの請求書発行機能は2022年10月28日から、ホワイトリストの形式で開放されています。詳細は以下のとおりです。

UINがバケットごとの請求書発行のホワイトリストを申請している場合、請求書のリソース ID列およびインスタンス名列が変更されます。このうち、リソースID列はバケット名+APPIDであり、インスタンス名はバケット名で

す。

UINがバケットごとの請求書発行のホワイトリストを申請していないユーザーは、請求書に変更はありません。
2023年2月1日から、**UINの末尾番号に従ってバッチごとにリリースされています**。詳細は次のとおりです。

リリース時間	リリース説明	請求書説明
2022年10月28日	機能リリース - ホワイトリスト開放	(1) ホワイトリストを申請していないユーザーは、請求書に変更はありません (2) ホワイトリストを申請したユーザーは、請求書に変更があり、バケットごとに発行されます。
2023年2月1日	フルリリース前-ホワイトリストアカウント検証	(1) ホワイトリストを申請していないユーザーは、請求書に変更はありません (2) ホワイトリストを申請したユーザーは、請求書に変更があり、バケットごとに発行されます。
2023年2月6日	第1バッチのリリース-UIN末尾番号が9	(1) ホワイトリストを申請したユーザー、UIN末尾番号が9のユーザーは、請求書に変更があり、バケットごとに発行されます (2) その他のユーザーは、請求書に変更はありません
2023年2月20日	第2バッチのリリース-UIN末尾番号が2	(1) ホワイトリストを申請したユーザー、UIN末尾番号が9、2のユーザーは、請求書に変更があり、バケットごとに発行されます (2) その他のユーザーは、請求書に変更はありません
2023年3月7日	第3バッチのリリース-UIN末尾番号が3	(1) ホワイトリストを申請したユーザー、UIN末尾番号が9、2、3のユーザーは、請求書に変更があり、バケットごとに発行されます (2) その他のユーザーは、請求書に変更はありません
2023年3月14日	第4バッチのリリース-UIN末尾番号が4	(1) ホワイトリストを申請したユーザー、UIN末尾番号が9、2、3、4のユーザーは、請求書に変更があり、バケットごとに発行されます (2) その他のユーザーは、請求書に変更はありません
2023年3月21日	第5バッチのリリース-UIN末尾番号が5	(1) ホワイトリストを申請したユーザー、UIN末尾番号が9、2、3、4、5のユーザーは、請求書に変更があり、バケットごとに発行されます (2) その他のユーザーは、請求書に変更はありません

請求書の統計周期を確認するにはどうすればよいですか。

Tencent Cloudコンソールにログインし、料金センターの[請求書概要](#)でアカウントの請求書統計周期を確認できます。

引き落とし周期に基づく請求書発行とは何ですか、課金周期に基づく請求書発行とは何ですか。

引き落とし周期に基づく請求書発行：システムがすべてリソースの料金引き落とし時間に基づいて1か月分の請求を統計することを指します。

課金周期に基づく請求書発行：システムがリソースの実際の使用時間に基づいて1か月分の請求を統計することを指します。

課金モデルと請求書統計周期はどのような関係ですか。

COSの課金モデルは従量課金（後払い）です。

従量課金リソース（後払い）

日次決済のリソース：1月31日00:00～23:59に発生した消費額が実際に差し引かれる日は2月1日です。引き落とし周期に基づく請求書発行の場合、この記録は2月分の請求書のものとなり、課金周期に基づく請求書発行の場合は1月分の請求書のものとなります。

月次決済のリソース：1月1日00:00～1月31日23:59に発生した消費額が実際に差し引かれる日は2月1日です。引き落とし周期に基づく請求書発行の場合、この記録は2月分の請求書のものとなり、課金周期に基づく請求書発行の場合は1月分の請求書のものとなります。

請求書統計周期に関するその他の説明は、[請求書統計周期](#)をご参照ください。

COSが月次決済から日次決済にアップグレードされましたが、アップグレード後、最初月の請求書（引き落とし周期に基づく請求書発行）の金額がアップグレード前の金額よりも「高く」なったのはなぜですか。

ご自身で料金の詳細を管理できるようにするため、2022年7月1日より、COSのストレージ容量、リクエストおよびデータ取得などの課金項目は月次決済から日次決済にアップグレードされました。今回のリリースはグループ別のリリースとなり、かつ2か月間のカナリアリリース期間を設けています。リリース時間と請求書統計周期の関係については次の表をご覧ください。その他の詳細については、[COSストレージ容量、リクエストおよびデータ取得の日次決済に関するお知らせ](#)、[請求書統計周期](#)をご参照ください。

リリース時間	リリース説明	請求書説明
2022年7月1日	一次リリース、グループ1ユーザー向けカナリアリリース	(1) 2022年7月1日より前は月次決済です。6月1日00:00～6月30日23:59に発生した消費額が実際に差し引かれる日は7月1日です。引き落とし周期に基づく場合、この記録は7月分の請求書のものとなり、課金周期に基づく場合は6月分の請求書のものとなります。

		(2) 2022年7月1日以降は日次決済です。7月1日00:00～23:59に発生した消費額が実際に差し引かれる日は7月2日です。引き落とし周期に基づく場合、この記録は7月2日の請求書のものとなり、課金周期に基づく場合は7月1日の請求書のものとなります。
2022年8月1日	二次リリース、グループ2ユーザー向けカナリアリリース	<p>(1) 2022年8月1日より前は月次決済です。7月1日00:00～7月31日23:59に発生した消費額が実際に差し引かれる日は8月1日です。引き落とし周期に基づく場合、この記録は8月分の請求書のものとなり、課金周期に基づく場合は7月分の請求書のものとなります。</p> <p>(2) 2022年8月1日以降は日次決済です。8月1日00:00～23:59に発生した消費額が実際に差し引かれる日は8月2日です。引き落とし周期に基づく場合、この記録は8月2日の請求書のものとなり、課金周期に基づく場合は8月1日の請求書のものとなります。</p>
2022年9月1日	三次リリース、全ユーザー向けフルリリース	<p>(1) 2022年9月1日より前は月次決済です。8月1日00:00～8月31日23:59に発生した消費額が実際に差し引かれる日は9月1日です。引き落とし周期に基づく場合、この記録は9月分の請求書のものとなり、課金周期に基づく場合は8月分の請求書のものとなります。</p> <p>(2) 2022年9月1日以降は日次決済です。9月1日00:00～23:59に発生した消費額が実際に差し引かれる日は9月2日です。引き落とし周期に基づく場合、この記録は9月2日の請求書のものとなり、課金周期に基づく場合は9月1日の請求書のものとなります。</p>

このため、毎月の使用量が変わらない場合、月次決済から日次決済にアップグレードしたことにより、請求書統計周期と課金項目によって請求書の内容に違いが生じます。詳細は次のとおりです。

課金周期に基づく請求書発行：請求書のアップグレード前後で、ストレージ容量、リクエストおよびデータ取得課金項目の毎月の料金は基本的に一致します。

引き落とし周期に基づく請求書発行：請求書のアップグレード前後で、ストレージ容量料金は「上昇」し、リクエストおよびデータ取得課金項目の毎月の料金は基本的に一致します。

月次決済から日次決済への変更最初の月は、ストレージ料金が「上がった」ように見えます。これは、引き落とし周期に基づいて2枚の請求書を受け取ることになるためです。1枚目の請求書は前月の月次決済請求書です。2枚目の請求書は当月の日次決済請求書です。このため、請求金額が大幅に上がったように見えますが、実際は追加の引き落としではなく、正常な決済と請求書発行のロジックに基づいています。

月次決済から日次決済への変更2か月目は、請求がすでに日次決済になっているため、1か月目に比べて料金は「下がります」。これも正常な決済と請求書発行のロジックに基づくものです。

例：

アカウントが引き落とし周期に基づく請求書発行の対象であり、かつ2022年9月1日に月次決済から日次決済にアップグレードした場合です。9月30日にコンソールの[料金センター](#)でCOSの**L3-請求明細書**をダウンロードしたとします。

COS標準ストレージのストレージ容量課金項目の例では、この請求書は8月の「月次決済請求書」と9月の「日次決済請求書」になります。詳細は次のとおりです。

従量課金月次決済：9月1日に「月次決済請求書」が発行されます。この請求書は8月全体のリソース使用料金（すなわち8月1日00:00～8月31日23:59に発生したリソース使用料金）のものです。

ProductName	BillingMode	ProjectN	Region	Availability Zone	Inst	Instance	Subproduct	TransactionType	Transact	TransactionTime	Usage Start Time	Usage End Time	Com
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		Western U.S. (Silicon Valley Zone 1)	100009C	-		cos standard	Monthly settlement	202209013	2022/9/1 8:14	2022/8/1 0:00	2022/8/31 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		East China (Nanjing Zone 1)	100009C	-		cos standard	Monthly settlement	202209013	2022/9/1 8:14	2022/8/1 0:00	2022/8/31 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		Southeast Asia (Singapore Zone 1)	100009C	-		cos standard	Monthly settlement	202209013	2022/9/1 8:14	2022/8/1 0:00	2022/8/31 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		North China (Beijing Zone 2)	100009C	-		cos standard	Monthly settlement	202209013	2022/9/1 8:14	2022/8/1 0:00	2022/8/31 23:59	stanc

従量課金日次決済：9月1日に「月次決済から日次決済へ変更」が有効化された後、9月2日から毎日「日次決済請求書」が発行されます。この請求書は9月全体の各日のリソース使用料金で、9月2日に9月1日のリソース使用料金を計算し、9月3日に9月2日のリソース使用料金を計算し、以降も同様に、9月30日に9月29日のリソース使用料金を計算します（すなわち9月1日00:00～23:59、9月2日00:00～23:59、...、9月29日00:00～23:59に発生したリソース使用料金）。

請求書に記載されるデータが多いため、9月2日から9月3日の各日の請求書を参考までに下図に表示します。

ProductName	BillingMode	ProjectN	Region	Availability Zone	Inst	Instance	Subproduct	TransactionType	Transact	TransactionTime	Usage Start Time	Usage End Time	Com
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		North China (Beijing Zone 2)	10000904	-		cos standard	Daily settlement	20220902	2022/9/2 7:39	2022/9/1 0:00	2022/9/1 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		East China (Nanjing Zone 1)	10000904	-		cos standard	Daily settlement	20220902	2022/9/2 7:39	2022/9/1 0:00	2022/9/1 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		Southeast Asia (Singapore Zone 1)	10000904	-		cos standard	Daily settlement	20220902	2022/9/2 7:39	2022/9/1 0:00	2022/9/1 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		Western U.S. (Silicon Valley Zone 1)	10000904	-		cos standard	Daily settlement	20220902	2022/9/2 7:39	2022/9/1 0:00	2022/9/1 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		Southeast Asia (Singapore Zone 1)	10000904	-		cos standard	Daily settlement	20220903	2022/9/3 7:52	2022/9/2 0:00	2022/9/2 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		North China (Beijing Zone 2)	10000904	-		cos standard	Daily settlement	20220903	2022/9/3 7:52	2022/9/2 0:00	2022/9/2 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		East China (Nanjing Zone 1)	10000904	-		cos standard	Daily settlement	20220903	2022/9/3 7:52	2022/9/2 0:00	2022/9/2 23:59	stanc
Cloud Object Storage	Pay-As-You-Go resou default		Western U.S. (Silicon Valley Zone 1)	10000904	-		cos standard	Daily settlement	20220903	2022/9/3 7:52	2022/9/2 0:00	2022/9/2 23:59	stanc

このため、請求書が引き落とし周期に基づく発行の場合で、かつ月次決済から日次決済への変更した最初の月は、当月の料金が「上がった」ように見えますが、この変化は正常な決済と請求書発行のロジックに基づくもので、追加の引き落としが発生したわけではありませんのでご理解ください。その他のご質問がありましたら、[お問い合わせ](#)いただければお答えいたします。

収支明細に日次決済と月次決済の2種類の課金方式があるのはなぜですか。

COSストレージ容量料金、リクエスト料金、低頻度データ取得料金、アーカイブデータ取得料金はアップグレード前は月次決済で、ディープアーカイブデータ取得料金、トラフィック料金、管理機能料金の日次決済に変更はなく、収支明細では日次決済明細のままです。アップグレード後、COSのすべての課金項目はいずれも日次決済です。詳細については、[課金周期](#)のドキュメントをご参照ください。

また、L3請求書を確認し、課金項目の決済周期が日次または月次であるかを確認することができます。詳細については、[請求書の確認方法](#)をご参照ください。

課金関連

COSはアクティブ化すると有料になりますか。

COSサービスをアクティブ化しただけでは料金はかかりませんが、使用を開始して初めて料金が発生します。COSの料金については、[課金概要](#)のドキュメントをご参照ください。

例：COSサービスを有効化した後、複数の標準ストレージタイプのファイルをアップロードし、ファイルサイズは1GBだとします。また、上記のファイルに確認およびダウンロードを行うと、約1GBのパブリックネットワークダウンストリームトラフィックが発生します。この時、標準ストレージ容量、標準ストレージ書き込みリクエスト、パブリックネットワーク/プライベートネットワークアップストリームトラフィック、パブリックネットワークダウンストリームトラフィックが発生します。このため、翌日の請求書では、標準ストレージ容量料金、標準ストレージ書き込みリクエスト料金、パブリックネットワークダウンストリームトラフィック料金を確認できます。パブリックネットワーク/プライベートネットワークアップストリームトラフィックは無料のため、請求書には反映されません。

COSへのアップロードは有料ですか。

ファイルをアップロードする際に発生するトラフィック料金は無料ですが、書き込みリクエストは有料となります。COSに保存する場合は、ファイルのサイズに応じてストレージ料金が計算されます。パブリックネットワークを使用してアクセスした場合、またはオブジェクトをダウンロードした場合は、パブリックネットワークダウンストリームトラフィック料金が発生します。課金の詳細については、[課金概要](#)および[製品価格](#)をご参照ください。

データをCOSから削除したのに、まだ料金が差し引かれているのはなぜですか。

COSサービスを利用しなくなった場合は、アカウント下のすべてのバケットを削除する必要があります。バケットがすべて削除されているかどうかを再度ご確認ください。すべて削除しているにもかかわらず料金が発生している場合は、昨日のご利用によって発生した日次決済料金の可能性があります。COSのストレージ料金およびリクエスト料金は日次決済であり、すなわち今日発行される請求書は昨日のご利用状況となります。[収支明細](#)にログインし、引き落とし項目右側の詳細**をクリックすると、引き落としの詳細を確認することができます。

月次決済が日時決済に変更されたことに関連する背景については、以下をご参照ください。ご自身で料金の詳細を管理できるようにするため、2022年7月1日より、COSのストレージ容量、リクエストおよびデータ取得などの課金項目は月次決済から日次決済にアップグレードされました。今回のリリースはグループ別のリリースとなり、かつ2か月間のカナリアリリース期間を設けています。リリース時間と請求書統計周期の関係については次の表をご覧ください。その他の詳細については、[COSストレージ容量、リクエストおよびデータ取得の日次決済に関するお知らせ](#)、[請求書統計周期](#)をご参照ください。

COSを利用停止または課金を停止するにはどうすればよいですか。

COSは現時点ではワンクリック停止をサポートしておらず、以下の方式によってCOSを利用停止または課金を停止します。

1. 今後COSサービスを利用しない場合は、COS内の全データ（アップロード未完了のファイルフラグメント、過去のバージョンのオブジェクトなどを含む）を完全に削除することで、それ以上課金されないようにすることが可能です。アカウントを抹消する必要はありません（他のTencent Cloudサービスをご利用の場合、アカウントを

抹消すると影響が生じます）。データを削除する操作ガイドについては、「[お支払い遅れについて](#)」をご参照ください。

2. 長時間（1か月を超える）COSサービスを使用しない場合、ライフサイクルルールを設定してバケット内の標準ストレージタイプのデータを、低頻度ストレージ、アーカイブストレージまたはディープアーカイブストレージなどのコールド化されたストレージタイプに変換することができます。このようにしてストレージ容量料金を節約することができます。詳細については、[ライフサイクルの設定](#)をご参照ください。ストレージタイプの変換には、元のストレージタイプの読み取りリクエストおよびターゲットのストレージタイプの書き込みリクエストが発生します。そのため、ライフサイクルによってストレージタイプを変換すると、読み書きリクエスト料金が発生します。リクエスト課金説明については[リクエスト料金](#)をご参照ください。

注意事項

バケット内のデータが完全に削除されると復元できません。適時にデータのバックアップを行ってください。

バケットのバージョン管理機能を有効化している場合、バージョン管理機能を一時的に停止し、もう一度削除操作を実行してください。

料金の決済周期に注意し、アカウントに支払い延滞が発生しないようにしてください。課金項目がいずれも日次決済であれば、クリーンアップ当日の請求書はクリーンアップの翌日に生成されます。データの完全なクリーンアップが完了すると、システムに新たな料金は発生しません。詳細については、[課金周期](#)をご参照ください。

アカウント残高不足により支払い遅延が発生した（アカウント残高が0未満となった）場合、リソースパックの有効期間中かどうかにかかわらず、COSは支払い遅延発生から24時間後にサービスを停止します。

アカウントが無料利用枠を利用している場合、支払い遅延によるサービス停止後は、このリソースパックは利用できなくなります。

バケット内のデータが関連する規定に違反し、このデータが二次ロックに属する場合、削除できません。ご不明な点がございましたら、[お問い合わせ](#)ください。

COSの低頻度ストレージデータの保存期間が30日未満の場合はどのように課金されますか。

低頻度ストレージタイプのデータには、最短保存期間（30日）の制限があります。

ロジックは次のとおりです。

保存期間が30日未満ならば、30日として計算します。具体的な課金ルールは、[事前削除に関する説明](#)をご参照ください。

保存期間が30日以上ならば、実際の保存期間に応じて計算されます。

詳細については、[低頻度ストレージ容量料金](#)および[ストレージ容量料金の課金方式と計算方法](#)をご参照ください。

COSのアーカイブストレージデータの保存期間が90日未満の場合はどのように課金されますか。

アーカイブストレージタイプのデータには、最短保存期間（90日）の制限があります。

ロジックは次のとおりです。

保存期間が90日未満ならば、90日として計算します。具体的な課金ルールは、[事前削除に関する説明](#)をご参照ください。

保存期間が90日以上ならば、実際の保存期間に応じて計算されます。

詳細については、[アーカイブストレージ容量料金](#)および[ストレージ容量料金の課金方式と計算方法](#)をご参照ください。

COSのディープアーカイブストレージデータの保存期間が180日未満の場合はどのように課金されますか。

ディープアーカイブストレージタイプのデータには、最短保存期間（180日）の制限があります。

ロジックは次のとおりです。

保存期間が180日未満ならば、180日として計算します。具体的な課金ルールは、[事前削除に関する説明](#)をご参照ください。

保存期間が180日以上ならば、実際の保存期間に応じて計算されます。

詳細については、[ディープアーカイブストレージ容量料金](#)および[ストレージ容量料金の課金方式と計算方法](#)をご参照ください。

COSの取得料金とは何ですか。

データ取得料金とは、[低頻度ストレージ（マルチ AZ）/低頻度ストレージタイプ](#)をダウンロードする場合、または[アーカイブストレージタイプ](#)、[ディープアーカイブストレージタイプ](#)のデータを標準ストレージに復元する場合に発生する料金です。データ取得料金はデータ取得量に基づいて計算します。料金は、読み取りデータ量が大きいほど高くなり、読み取りデータ量が小さいほど安くなります。特別なストレージを必要とするケースでなければ、標準ストレージをそのまま使用するとデータ取得料金がかかりません。

低頻度ストレージ（マルチ AZ）/低頻度ストレージタイプのデータのレプリケーションにはどのような料金がかかりますか。

低頻度タイプのデータのレプリケーションには、リクエスト料金、データ取得料金がかかるほか、トラフィック料金がかかる場合もあります（ターゲットの場所とソースファイルが異なるリージョンにある場合は、クロスリージョンレプリケーショントラフィック料金が発生します）。

上記の料金の計算の詳細については、[リクエスト料金](#)、[データ取得料金](#)、[トラフィック料金](#)のドキュメントをご参照ください。

COSのアーカイブストレージタイプとディープアーカイブストレージタイプのデータの解凍後のレプリカに料金はかかりますか。

アーカイブストレージ、ディープアーカイブストレージタイプのデータの解凍後のレプリカは[標準ストレージタイプ](#)となり、それに応じた標準ストレージ容量料金がかかります。

COSの読み取り/書き込みリクエスト回数が1万回未満の場合は、どのように課金されますか。

当月の実際の読み取り/書き込みリクエスト回数に応じて課金されます。読み取り/書き込みリクエスト料金は1万回を最小計数単位とし、読み取り/書き込みリクエストの価格はストレージタイプによって異なります。詳細については、[製品価格-リクエスト料金](#)および[読み取り/書き込みリクエスト料金](#)のドキュメントをご参照ください。

COSの読み取り/書き込みリクエスト料金の請求金額が0米ドルでしたが、なぜですか。

当月のリクエスト回数が少なく、料金が最低引き落とし額に満たなかった場合、リクエスト料金の請求金額は0米ドルとなります。

事例分析：雲さんは北京リージョンのバケットを1つ所有し、標準ストレージタイプのデータを保存しています。このバケット内のデータには、2021年12月に0.0023万回の標準ストレージ読み取りリクエストが発生しました。標準ストレージの読み取り/書き込みリクエスト単価は0.002米ドル/1万回です。このアカウントに割引が適用されない場合、雲さんが12月に支払うべき標準ストレージ読み取りリクエスト料金は $0.0023 \times 0.002 = 0.0000046$ 米ドルとなります。引き落とし額は小数点以下2桁までしかサポートされないため、課金項目の請求金額は0米ドルとなります。

原因：請求書明細料金（課金）は小数点以下8桁までサポートされますが、アカウント支払金額（引き落とし額）は小数点以下2桁までしかサポートされません。このため、高精度の課金と低精度の引き落とし額との間に差異が発生しますが、システムがそれらの差額について自動的に精度差調整を実施します。詳細については、[アカウント請求書に関するよくあるご質問](#)をご参照ください。

COS標準ストレージ（複数AZ）のストレージタイプを使用する場合、なぜ請求書に標準ストレージの読み書きリクエスト料金が発生するのか？

COS標準ストレージと標準ストレージ（複数AZ）は同じ地域で、ストレージ容量の価格は異なりますが、読み書きリクエストの価格は同じです。標準ストレージ（複数AZ）を使用する過程で、バケット関連のリクエストが発生した場合、システムは標準ストレージの読み書きリクエストとして用量を集計します。したがって、請求書には標準ストレージの読み書きリクエストの課金項目が表示されます。

支払い遅延によるサービス停止関連

支払い遅延によるサービス停止後、COSコンソールからのファイルへのアクセスおよびダウンロードは可能ですか。

支払い遅延によるサービス停止後、COSデータは読み取り/書き込みができなくなり、コンソールではチャージ操作のみ行うことができます。その他の詳細については、「[お支払い遅れについて](#)」をご参照ください。

COSの未払い料金をチャージしましたが、まだ使用できないのはなぜですか。

未払い料金のチャージを行うと、10分以内に自動的にロックが解除されます。チャージ後もページにロック状態の表示がある場合は、ブラウザが過去のページをキャッシュしたことによる可能性があります。[ブラウザの更新](#)または[ブラウザキャッシュのクリア](#)を行ってから再度確認することをお勧めします。

COS 従量課金（後払い）の支払い遅延によるサービス停止ポリシーの変更に関する通知

詳細については、[COS 従量課金（後払い）の支払い遅延によるサービス停止ポリシーの変更に関する通知](#)を参照してください。

データ処理関連

COSドキュメントサービスでPPTを画像に変換すると、どのように課金されますか。アクセスしたコンテンツに再度アクセスした場合、料金は計算されますか。

ドキュメント処理サービスはCloud Infiniteによって提供され、発生する料金はCloud Infiniteによって課金されます。リクエストごとに料金が差し引かれ、すなわちリンクを1回更新すると料金が1回差し引かれます。詳細については、[ドキュメント処理料金](#)ドキュメントをご参照ください。

課金に関するその他のご質問

他のクラウドからCOSに移行する場合、料金はどのように計算されますか。

他のクラウドベンダーからTencent Cloud COSにデータを移行する場合、移行元のCOSでアウトバウンドトラフィック料金が発生します。具体的な料金については移行元のストレージクラウドベンダーの価格をご参照ください。Tencent Cloudに移行する際の書き込みトラフィックは無料ですが、ストレージ容量料金とリクエスト料金が発生します。COSの課金の詳細については、[課金概要](#)のドキュメントをご参照ください。

URLからCOSにアクセスすると、どのような料金が発生しますか。

[パブリックネットワークダウンストリームトラフィック料金](#)、[リクエスト料金](#)が発生する可能性があります。CDNを有効にしている、CDNドメイン名によってデータにアクセスした場合は、さらにCDNトラフィック料金、[CDN back-to-originトラフィック料金](#)が発生します。

COSのIOPS、遅延、スループットは、価格によって異なりますか。

COSの価格とIOPS、遅延、スループットに関連はありません。詳細な仕様制限については、[仕様と制限](#)のドキュメントをご参照ください。

バケット設定に関する質問 ライフサイクル

最終更新日：：2024-04-24 16:42:39

COSでファイルのストレージタイプを変更するにはどうすればよいですか。

次の方法でストレージタイプを変更することができます。

1. コンソールで単一または複数のファイルのストレージタイプを変更します。詳細な操作については、[ストレージタイプの変更](#)をご参照ください。
2. [ライフサイクルの設定](#)により、特定のバケットまたは指定のプレフィックスのファイルを、他のストレージタイプに切り替えます。

COSでファイルを削除できず、削除後もファイルが残っているのですが、どのように対処すればよいですか。

この場合はファイルに特殊文字が含まれていることが原因の可能性があります。[ライフサイクルの設定](#)で削除することができます。

COSではデータストレージの有効期限を設定することはできますか。

ライフサイクルルールを設定することで、ファイルのアップロード後、指定の日数が経過した後にアーカイブストレージに移行させるか、または直接削除することが可能です。操作ガイドについては、[ライフサイクルの設定](#)をご参照ください。また、例えば[Android SDKによるライフサイクルの設定](#)、[Java SDKによるライフサイクルの設定](#)のように、SDKによってライフサイクルを設定することもできます。

COSにアップロードされたファイルは定期的に自動でクリーンアップされますか。

[ライフサイクルの設定](#)により、指定のオブジェクトに対してストレージタイプの自動切り替えまたは自動削除を行うことができます。

COSでバージョン管理を有効にした場合、過去のバージョンのデータはどのように管理されますか。

過去のバージョンのファイルを管理する必要がある場合は、[ライフサイクルの設定](#)で過去バージョンオブジェクト管理オプションを有効にすることで、オブジェクトを移行したり、過去のバージョンのオブジェクトを削除したりすることができます。

COSのライフサイクルは最大でいくつまで設定可能ですか。

ライフサイクルルールは各バケットにつき最大で1000個まで追加できます。ライフサイクルに関するその他の説明は、[ライフサイクルの概要](#)をご参照ください。

注意：

Tencent Cloud COSでは、同一グループのオブジェクトに対し、複数の競合条件を含むライフサイクルルールを設定しないよう注意喚起しています。競合がある状態で実行すると、料金が変わる可能性があります。

ライフサイクルルールは設定後、いつ有効になりますか。

どの時刻で設定したルールであっても、Tencent Cloud COSは本地時間の翌日0時を基準として操作の実行を開始します。非同期キューでの実行のため、設定後にアップロードしたオブジェクトがルールにマッチしている場合は、通常遅くとも翌日の24時までに操作が完了します。

例えば、1日の午後3時に、ファイルを変更から1日後に削除するというライフサイクルルールを設定したとします。その場合、ライフサイクルタスクは2日0時から、2日0時以前の時点で最終変更時刻から1日以上過ぎているファイルのスキャンを開始し、削除タスクを実行します。1日当日にアップロードしたファイルは、最終変更時刻から1日経っていないため削除されず、3日0時になってからスキャンと記録が行われ、削除が実行されます。

COSのライフサイクルにおけるフラグメントの削除とは何ですか。

ライフサイクルにおけるフラグメントの削除機能は、主にファイルフラグメントの削除に用いられます。COSのファイルフラグメントはマルチパートアップロードによって発生します。マルチパートアップロードの過程では、アップロード済みで、まだ結合されていないパートがファイルフラグメントの形で存在します。ファイルフラグメントはストレージ容量を占有しますが、ダウンロードできないファイル形式で存在しています。業務の必要性に応じてフラグメントの削除オプションにチェックを入れることで、システムがルールに基づいて自動的にフラグメントの削除を行うことが可能です。

バッチ処理

最終更新日：2022-04-26 17:04:34

大量のCOSアーカイブファイルを標準ストレージタイプに一括復元するにはどうすればよいですか。

アーカイブストレージファイルを標準ストレージに一括復元する方法は次のとおりです。

1. まず初めに [リスト機能](#) を有効にし、標準ストレージタイプに復元したいオブジェクトのリストファイルを生成し、リストファイルの生成を待機します。
2. 「アーカイブオブジェクトの一括復元」タスクを作成し、タスクの設定でリストファイルを選択し、レプリカの有効期間（例えば7日間など）を設定します。その他の操作ガイドについては、[バッチ操作](#) のドキュメントをご参照ください。
3. データ量が非常に大きいため、一括復元には時間がかかります。一括復元タスクを作成してから48時間待機し、リトリーブが完了するまでお待ちください。続いてリストを生成およびダウンロードしてフィルタリングし、リスト内の標準ストレージタイプオブジェクトを除去し、アーカイブストレージタイプのオブジェクトのみを保持した上で、変更後のリストファイルを現在のCOSにアップロードします。
4. 一括コピータスクを作成し、タスクの設定で新たにアップロードしたリストファイルを選択します。ストレージタイプは標準ストレージを選択し、タスクの実行完了を待ちます。

COSにはファイルの一括パッケージング機能がありますか。

COSは現時点では一括パッケージングをサポートしていません。現時点ではSCFをベースにしてバケットにファイル解凍ルールを追加することで、ファイルを指定のバケットおよびパスに自動的に解凍することだけが可能です。詳細については、[ファイル解凍設定](#) をご参照ください。

バッチ処理タスクに必要なリストはどこから取得しますか。

バッチ処理タスクに必要なリストには次の2つの取得方法があります。

- [COSリスト機能](#) でリストを生成し、リストファイルが生成されてから、指定のバケットで `manifest.json` ファイルをプルすることができます。
- ローカルで、処理したいファイル名を `CSV` ファイルに記録し、これをCOSにアップロードします。記録が必要なフィールドには次の部分が含まれます。その他の説明については [リスト機能の概要](#) をご参照ください。

```
Bucket,Key,VersionId  
examplebucket-1250000000,testFile.txt,testVersionId
```

アーカイブファイルの一括復元タスクが完了しましたが、データがまだリトリーブされないのはなぜですか。

アーカイブファイル復元のリクエスト成功後、バックエンドはリトリートモード（復元モード）でリトリートファイルのスケジューリングを行うため、ファイルのリトリートが完了するまでにある程度の時間差があります。ファイル一括復元のリクエストが送信されると、選択したリトリートモードに基づいて、バックエンドが順次標準ストレージにリトリートします。フロントエンドが表示する実行完了とは、すべてのリトリートリクエストの送信が完了したことを指しており、ファイルのリトリートが完了したことを意味するものではありません。しばらく経ってから再度コンソールにログインし、ファイルのステータスを確認することができます。

back-to-origin

最終更新日：2022-04-26 17:04:34

COSのback-to-originとはどのような機能ですか。

back-to-origin機能は、ユーザーがアクセスしたCOS上にファイルが存在しない場合に、COSにユーザーが指定するオリジンサーバー（ローカルIDCでも、他のクラウドベンダーのオブジェクトが存在するオリジンサーバー、バケットなどでも可）からデータをプルさせるものです。

back-to-origin設定は主にデータのホットマイグレーション、特定のリクエストのリダイレクトなどのケースに用いられます。ご自身の実際のニーズに応じて設定することができます。操作ガイドについては[back-to-originの設定](#)をご参照ください。

back-to-originルールを設定すると、リクエストしたオブジェクトがバケット内にない場合に、back-to-originルールによって、設定したソースアドレスから正しいデータを取得してユーザーに返すことができます。あるいは、特定のリクエストに対しリダイレクトを行う必要がある場合に、back-to-originルールによって、オリジンサーバーの対応するデータにCOSからアクセスすることができます。

クライアントは、COSをリクエストした際にback-to-origin操作が行われたかどうかをどのように確認できますか。

非同期的back-to-originであれば、back-to-originを設定後の最初のCOSリクエストにはステータスコード302が返され、クライアントが2回目のリクエストを送信した際にオリジンサーバーにリンクされます。同期的back-to-originであれば、COSはオリジンサーバーからデータをプルし、リアルタイムでクライアントに返します。COSは同時にデータを最下層のサーバーに転送して保存します。

オフラインback-to-originによるアップロードに成功後、通知を受け取るにはどうすればよいですか。

オフラインback-to-originモジュールのSLAは100%の成功を保証していません。オフラインback-to-originのアップロードが成功したかどうかを知る必要がある場合は、SCFコンソールでオフラインback-to-originのコールバックをトリガーするよう設定することができます。SCFのCOSトリガーに関する説明は、[COSトリガー](#)をご参照ください。

back-to-originアドレスにはどのような役割がありますか。

back-to-originアドレスはプルしたいデータのストレージアドレスを指定するために用いられ、通常はIPまたはドメイン名です。COSにユーザーがアクセスしたいリソースがない場合に、back-to-originアドレスによってリソースをリアルタイムでプルします。

back-to-originを設定後、COS上にback-to-originアドレスに対応するリソースまたはパスが存在しない場合、COSはユーザーの初回アクセス後に自動的にリソースのアップロードとパスの作成を行いますか。

はい。COSは自動的にリソースをプルし、パスを作成します。

バケットタグ

最終更新日：：2022-04-26 17:04:34

バケットタグは最大いくつまで追加できますか。

1つのバケットにはバケットタグキーを最大50個まで追加することができます。1つのタグキーには最大1000個のタグ値を設定でき、かつ1つのルートアカウントは最大1000個のタグキーを持つことができます。バケットタグに関するその他の制限の説明については、[バケットタグの概要](#)をご参照ください。

バケットタグを使用して請求書を分割するにはどうすればよいですか。

バケットに対し、[バケットタグの追加](#)を行うと、毎月の課金の[使用量請求明細書](#)にバケットタグが自動的に記録されます。請求書をダウンロードした後、[請求書分割タグ](#)ドキュメントを参照してピボットテーブルを作成し、バケットタグごとのリソース消費状況を分析することができます。

バケットタグを使用してアクセス権限を管理するにはどうすればよいですか。

次の手順を参照し、バケットタグを使用してアクセス権限を管理することができます。

1. ルートアカウントに連絡し、バケット作成（`PutBucket`）の権限および指定のタグ下でのリソース操作権限を取得します。
2. バケットを作成し、バケットに指定のタグを設定します。
3. 権限を承認したインターフェースを通じてCOS内のファイルを操作します。

リンク不正アクセス防止

最終更新日：2022-04-26 17:04:35

COSでファイルのリンク不正アクセスを防止するにはどうすればよいですか。

1. ブラウザからファイルにアクセスするケースでは、リンク不正アクセス防止設定を行うことで、ブラックリストまたはホワイトリストを設定できます。操作ガイドは[リンク不正アクセス防止の設定](#)を参照することができます。
2. アドレスから直接オブジェクトにアクセスするケースでは、匿名リクエストの場合は、アクセスポリシーを設定することでIPのブラックリストまたはホワイトリストを設定できます。操作ガイドは[バケットポリシーの追加](#)を参照することができます。アクセスポリシーに関するその他の説明については、[アクセスポリシーの言語概要](#)をご参照ください。
3. 署名リクエストについては、現時点ではブラックリストまたはホワイトリストの設定をサポートしていません。

CDNアクセラレーションを有効にし、かつCDNアクセラレーションドメイン名を使用してリソースにアクセスする際、リンク不正アクセス防止設定が有効にならないのですが、どうすればよいですか。

CDNアクセラレーションドメイン名を使用してリソースにアクセスする場合、CDNキャッシュなどの要素がCOSリンク不正アクセス防止の安定性に影響している可能性があります。[CDNコンソール](#)でリンク不正アクセス防止の設定を行うことをお勧めします。操作ガイドは[CDNリンク不正アクセス防止の設定](#)をご参照ください。

ホワイトリストを設定してファイルへのアクセスを許可し、さらにブラウザでリンクを単独で開いてもアクセスを許可するようにできますか。

リンク不正アクセス防止の設定時に空のreferrerの許可を選択すると、ホワイトリストを設定した状態で、ブラウザでリンクを単独で開いてもファイルへのアクセスを許可することができます。

バケットtestのリンク不正アクセス防止ホワイトリストを設定し、a.comのアクセスを許可しましたが、a.com下のウェブプレーヤーでバケットtest下のビデオファイルを再生できません。

WebページでWindows Media Player、Flash Playerなどのプレーヤーを利用してビデオリンクを再生する場合は、リクエストの中のreferrerが空のため、ホワイトリストにヒットしなくなります。ホワイトリストを設定する際に空のreferrerを許可するよう選択することをお勧めします。

COSに保存したファイルについて、自社のネットワークだけにアクセスを許可するよう設定するにはどうすればよいですか。

バケットにリンク不正アクセス防止を設定し、ブラックリストまたはホワイトリストを設定してアクセス元を制限することができます。現在はドメイン名、IPおよびワイルドカード*などの形式のアドレスをサポートしています。

す。リンク不正アクセス防止の詳細な説明と操作ガイドについては、[リンク不正アクセス防止の設定](#)を参照することができます。

説明：

- CDNドメイン名アクセラレーションによるアクセスの場合は、CDNのリンク不正アクセス防止ルールが優先的に適用され、その後COSのリンク不正アクセス防止ルールが適用されます。
- オブジェクトへのアクセスの際に署名（URLとHeaderのどちらでも）があれば、リンク不正アクセス防止の検証は行われません。

COSにブラウザからアクセスした際に「You are denied by bucket referer rule」というエラーが発生しましたが、どのように対処すればよいですか。

このエラーメッセージは「バケットのリンク不正アクセス防止ルールによってアクセスが拒否された」という意味です。バケット内のリンク不正アクセス防止ルールがお客様のユースケースに合っているかどうかをチェックすることができます。ブラウザからアクセスする場合は、空のrefererを許可するよう設定する必要があります。空のrefererのアクセスを拒否する設定にした場合、ブラウザから直接アクセスすることはできません。

COSで、指定したIPだけにCOS内のリソースへのアクセスを許可するよう設定するにはどうすればよいですか。

リンク不正アクセス防止機能を使用して、IPホワイトリストを設定する方法で実現できます。設定後、ホワイトリスト以外のIPはお客様のCOS内のリソースにアクセスできなくなります。操作ガイドは[リンク不正アクセス防止の設定](#)を参照することができます。

クロスドメインアクセス

最終更新日：2022-04-26 17:04:35

クロスドメインアクセスとは何ですか。どのように設定しますか。

クロスドメインアクセスとはHTTPリクエストによって、1つのドメインから別のドメインのリソースをリクエストすることであり、プロトコル、ドメイン名、ポートのうちいずれかが異なる場合は、すべて異なるドメインとみなされます。コンソールでの操作手順については、[クロスドメインアクセスの設定](#)または[クロスドメインアクセスのベストプラクティスドキュメント](#)をご参照ください。

クロスドメインアクセスを設定すると、ホワイトリストに含まれているヘッダーのCOSへのアクセスが拒否されましたが、どのように対処すればよいですか。

アクセスが拒否された原因として考えられるものは次のとおりです。

1. 含まれるヘッダーが設定と一致しているかをチェックし、スペースなどの見えない文字が存在しないかどうかを確認します。
2. リクエストを送信したドメイン名の情報をチェックします。CDNアクセラレーションドメイン名を使用したアクセスの場合は、CDNコンソールでクロスドメイン設定を行う必要があります。[カスタマイズレスポンスヘッダーの設定](#)をご参照ください。
3. バケットの権限の状態をチェックし、アクセスがバケットの権限承認に適合しているかどうか判断します。
4. ブラウザキャッシュの状況をチェックします。ブラウザキャッシュによって起こったエラーである可能性がある場合は、Ctrl+F5によってブラウザを強制的に更新するか、またはブラウザの【Network】オプションタブでDisable cacheにチェックを入れると解決できます。

バケット内のファイルのheadersが「Access-Control-Allow-Origin:*」を返すように設定するにはどうすればよいですか。

クロスドメインの設定を行い、Originを * に設定します。詳細については、[クロスドメインアクセスの設定](#)のベストプラクティスドキュメントをご参照ください。

アップロードの際に「get ETag error, please add "ETag" to CORS ExposeHeader setting.」というエラーが表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

下図に従ってクロスドメインルールを設定し、ブラウザの切り替えを試し、実行可能かどうかのテストを行ってください。詳細については、[クロスドメインアクセスの設定](#)をご参照ください。

Add CORS Rule

Origin *

*

Domain begins with http:// or https://. One domain per line. Up to one wildcard character * is allowed in a line

Allow-Methods *

☒ PUT ☒ GET ☒ POST ☒ DELETE ☒ HEAD

Allow-Headers

*

Expose-Headers

Etag

Max-age *

300

Submit

Cancel

Tencent Cloud COSとCDNを同時に使用すると、COSのクロスドメインが正常に動作しないのですが、どのように対処すればよいですか。

使用しているドメイン名がCDNアクセラレーションドメイン名の場合は、CDNコンソールでクロスドメインの設定を行ってください。詳細については、[HTTPレスポンスヘッダーの設定](#)のドキュメントをご参照ください。

クロスドメイン設定はソースOriginのあいまい一致をサポートしていますか。

コンソールはセカンドレベルドメイン名のあいまい一致をサポートしています。

COSのクロスドメインアクセスでエラーが発生しましたが、どのように対処すればよいですか。

次の手順に従ってチェックを実施してください。

1. COSコンソールにクロスドメインルールが設定されているかをチェックします。詳細な操作については、[クロスドメインアクセスの設定](#)をご参照ください。
2. CDNアクセラレーションドメイン名を使用しているかどうかを確認します。CDNアクセラレーションドメイン名を使用している場合は、CDN側でクロスドメインルールを設定する必要があります。[HTTPレスポンスヘッ](#)

[ダーの設定](#)をご参照ください。

3. クロスドメインルールを設定済みの場合は、コマンドラインを使用してルールが有効になっているかどうかをテストしてください。コマンドの形式は、`curl -Lvo /dev/null "<オブジェクトアドレス>" -H "origin:<ドメイン名>"` です。業務の状況に応じて<>の中の値を置き換えてください。例えば、`curl -Lvo /dev/null "https://bucketname-1250000000.cos.ap-guangzhou.myqcloud.com/test.png" -H "origin:https://www.baidu.com"` などとします。ステータスコード200が返された場合、ルールは有効になっています。ブラウザキャッシュを削除してからリトライしてください。
4. それでも解決できない場合は、クロスドメインアクセスルールにmax-age=0を設定してみてください。

クロスドメインのCORSアクセスルールにIPアドレスを追加することはできますか。

クロスドメインルールはIPアドレスの形式での設定をサポートしておらず、ドメイン名形式のみサポートしています。詳細な説明については、[クロスドメインアクセスの設定](#)のドキュメントをご参照ください。

COSでCDNを設定し、CDNを通じてCOS内のファイルにアクセスしたところ、クロスドメインエラーが発生しましたが、どのように対処すればよいですか。

CDNを使用してCOSにアクセスした際にクロスドメインエラーとなった場合は、[HTTPレスポンスヘッダーの設定](#)のドキュメントを参照し、CDNコンソールでクロスドメインを許可するよう設定してください。

ファイルのURLにアクセスした際にクロスドメインアクセスエラーが発生しましたが、解決するにはどうすればよいですか。

クロスドメインアクセスを設定しているかどうかをチェックし、正しく設定されていれば、ブラウザキャッシュをクリアしてからリトライすることをお勧めします。それでも解決できない場合は、クロスドメインアクセスルールにmax-age=0を設定してみてください。クロスドメインアクセスの設定ガイドについては、[クロスドメインアクセスの設定](#)をご参照ください。

リスト

最終更新日：2022-07-26 15:34:25

リストが正常に配信されたことを確認するにはどうすればよいですか。

リストファイルの生成時間は設定に関係しています。毎日生成を選択すると、リストは一般的に設定翌日の現地時間の未明の時間帯に配信されます。毎週生成を選択すると、リストは一般的にその週の最終日の未明から生成と配信を開始します。

リストが正常に配信された後に通知を受信したい場合は、SCFコンソールでCOSトリガーを設定し、イベントタイプをファイルリストレポート配信完了イベントに設定します。

リストファイルレポートを分析するにはどうすればよいですか。

リストファイルレポートを生成後、COSのCOS Select機能を使用してリストファイル内の情報をフィルタリングすることができます。一部の操作の例を次に示します。

1. ストレージタイプが標準ストレージのファイルをフィルタリングします。

```
select * from cosobject s where s._7 = TO_STRING('Standard')
```

2. 5GBより小さいファイルをフィルタリングします。

```
select * from cosobject s where s._4<5*1024*1024
```

3. 5GBより大きく、かつ標準ストレージタイプのファイルをフィルタリングします。

```
select * from cosobject s where s._4>5*1024*1024 AND s._7=TO_STRING('Standard')
```

4. コピーステータスが「replica」である（コピーが完了している）ファイルをフィルタリングします。

```
select * from cosobject s where s._9=TO_STRING('replica')
```

5. リストレポートの中の最初の100ファイルのレコードを確認します。

```
select * from cosobject s limit 100
```

COSから全ファイルの情報をエクスポートするにはどうすればよいですか。

バケットのリスト機能をアクティブ化すると、COSは毎日または毎週定期的に、オブジェクトの属性、設定の詳細に関するリストレポートをお客様のバケットに出力します。詳細な説明および操作ガイドについては、[リスト機能のアクティブ化](#)のドキュメントをご確認ください。

説明：

- リスト機能は現時点では金融クラウドリージョンをサポートしていません。
- リスト機能を使用すると、それに対応する**管理機能料金**が発生します。価格の情報は[製品価格](#)をご確認ください。

COSでファイルリストを取得するにはどうすればよいですか。

COS内のファイルリストは次のいずれかの方法で取得できます。

1. COSコンソールで、バケットの[リスト機能のアクティブ化](#)を行います。リスト機能をアクティブ化すると、毎日または毎週定期的に、オブジェクトの属性、設定の詳細に関するリストレポートをお客様のバケットに出力することができます。リストに関するその他の詳細については、[リスト機能の概要](#)をご参照ください。
2. APIを使用して、[GET Bucket \(List Objects\)](#) インターフェースを呼び出してすべてのオブジェクトを取得します。インターフェースから返されるのはXML形式のため、ご自身で処理する必要があります。

COSリスト機能の設定にミスがありました。すぐに手動で再起動してよいですか。

COSのリスト機能は毎日未明に定期的に最新設定を読み取り、それからタスクの実行を開始しており、現時点では即時の手動でのトリガーはサポートしていません。リスト設定を変更した後、翌日の未明にタスクが再実行されるまでお待ちください。

COSはファイルタイプによって数量を集計することができますか。

[リスト機能](#)を使用して、毎日または毎週一定の時刻にバケット内のユーザーが指定したオブジェクトまたは同一のオブジェクトプレフィックスを持つオブジェクトのスキャンを行い、リストレポートを出力して、CSV形式のファイルをユーザーが指定したバケットに保存することができます。さらに「fileFormat」で、目的のファイル形式のファイル数をフィルタリングして集計します。

ローカルファイルとCOS内のファイルが一致しているかを比較するにはどうすればよいですか。

HEAD Object、List Objectリクエストによって単一または複数のオブジェクトのMD5を取得し、ローカルファイルのMD5と比較することができます。非常に大量のバケットについては、[リスト機能](#)を使用して、オブジェクトリストおよびそのMD5値を非同期的に取得することができます。操作ガイドについては、[リスト機能のアクティブ化](#)コンソールドキュメントをご参照ください。

COSで「ファイル名」、「サイズ」、「オブジェクトアドレス」を取得し、XLSファイルとして保存してエクスポートするにはどうすればよいですか。

リスト機能をアクティブ化し、リスト機能によってリストレポートを自動的に出力し、CSV形式のファイルを指定したバケットに保存することができます。リスト機能によって、「ファイルパス」、「ファイルサイズ」、「オブジェクトの直近の変更日」、「ETag」、「ストレージタイプ」などの情報を取得できます。オブジェクトアドレスを取得する必要がある場合は、バケットドメイン名によってファイルパスをスプライシングする方法で取得できます。詳細については、[リスト機能の概要](#)をご参照ください。

COSで、特定のフォルダ内にファイルがいくつあり、どのくらいの容量を占有しているかを確認するにはどうすればよいですか。

ファイルが少量であれば、コンソールでフォルダの詳細を確認することで、フォルダ内のファイル数およびファイルの占有容量を確認できます。バケット内のオブジェクト数が10000個を超えている場合は、[リスト機能](#)を使用して照会することをお勧めします。

ドメイン名とCDNに関するご質問 静的ウェブサイト

最終更新日：2023-03-06 16:03:37

COSコンソールでのカスタムドメイン名の設定に失敗しましたが、どのように対処すればよいですか。

1. ドメイン名がICP登録済みであることを確認します。
2. ドメイン名のDNSが正しく解決されていることを確認します。CDNアクセラレーションを無効にしている場合は、あらかじめDNS解決コンソールでドメイン名のCNAMEをバケットのデフォルトドメイン名に解決しておく必要があります。

ユーザーが独自ドメイン名をバインドする際、CDNアクセラレーションを有効化するか無効化するかの違いは何ですか。

- **CDNアクセラレーションを有効化：**ドメイン名はCDNによって管理され、COSコンソールでCDNアクセラレーションを有効化することとCDNコンソールでドメイン名を追加（オリジンサーバーはCOSを選択）することの効果は同じになります。ユーザーはドメイン名を解決する際に、CDNによって割り当てられたCNAMEレコードを使用する必要があります。設定の際は、先にドメイン名を追加し、その後ドメイン名を解決します。ドメイン名の解決については、ドメイン名のクイック追加と解決をご参照ください。
- **CDNアクセラレーションを無効化：**ドメイン名はCOSによって管理され、ドメイン名を設定すると対応するバケットの所属リージョンのすべてのダウンロード接続マシンに配信されます。ユーザーはドメイン名を解決する際に、バケットのデフォルトドメイン名をCNAMEレコードとして使用する必要があります。設定の際は、先にドメイン名を解決し、その後カスタムドメイン名を追加する必要があります。

オブジェクトのカスタムヘッダーContent-Dispositionを設定しても有効にならないのはなぜですか。

カスタムヘッダーのうち、他のカスタムヘッダーは設定するとすぐに有効になりますが、Content-Dispositionヘッダーは特殊で、静的ウェブサイト機能が有効かつカスタムドメイン名を使用してアクセスする場合にのみ、ヘッダーが有効になります。

設定した静的ウェブサイトCDNドメイン名を使用してアクセスできない場合はどうすればよいですか。

次の手順に従ってCDNアクセラレーションドメイン名設定のトラブルシューティングと確認を行ってください。

1. オリジンサーバーのタイプについて、静的ウェブサイトオリジンサーバーとして選択しているかに注意してください。

2. back-to-origin認証、CDNサービス権限認証はバケットの権限に基づき、それに応じた設定を行う必要があります。

- バケットの権限がプライベート読み取りの場合は、CDNサービス権限を承認し、back-to-origin認証を有効にする必要があります。
- バケットの権限がパブリック読み取りの場合は、CDNサービス権限を承認してback-to-origin認証を有効にする必要はありません。

3. CDN認証はバケットの権限に基づき、それに応じた設定を行う必要があります。

(1) バケットの権限がプライベート読み取りの場合：

CDN認証設定	CDNアクセラレーションドメイン名アクセス	COSドメイン名アクセス	一般的なケース
無効（デフォルト）	アクセス不可	COSを使用した認証が必要	CDNドメイン名に直接アクセス可能、オリジンサーバーデータ保護
有効	URLを使用した認証が必要	COSを使用した認証が必要	全リンクのアクセスを保護、CDN認証リンク不正アクセス防止をサポート

(2) バケットの権限がパブリック読み取りの場合：

CDN認証設定	CDNアクセラレーションドメイン名アクセス	COSドメイン名アクセス	一般的なケース
無効（デフォルト）	アクセス可	アクセス可	全サーバーパブリックアクセス許可、CDNとオリジンサーバーどちらからのアクセスも可能
有効	URLを使用した認証が必要	アクセス可	CDNアクセスに対してはリンク不正アクセス防止が有効、ただしオリジンサーバーアクセスは許可

			スは保護さ いため非推
--	--	--	----------------

4. 上記の設定に誤りがないことを確認した後、CDNアクセラレーションドメイン名へのアクセスに使用するプロトコルおよび静的ウェブサイトの**強制HTTPS**設定を確認してください。

- CDNアクセラレーションドメイン名へのアクセスにHTTPプロトコルを使用している場合は、**強制HTTPSオプションを有効にしないでください**。
- CDNアクセラレーションドメイン名へのアクセスにHTTPSプロトコルを使用している場合は、CDNアクセラレーションドメイン名に対し**back-to-originの301/302リダイレクトを有効にする**よう設定することをお勧めします。詳細については、[back-to-originの301/302リダイレクト設定](#)をご参照ください。

5. 上記の手順に従ってトラブルシューティングを行っても問題が解決しない場合は、[お問い合わせ](#)ください。さらに詳細なトラブルシューティングを行うことができます。

静的ウェブサイト機能をフロントエンドのVueフレームワークと一緒に使用し、ルーティングをHistoryモードに設定しています。ページを更新すると404エラーが発生しましたが、どうすればよいですか。

バケットの静的ウェブサイト設定ページで、エラードキュメントをWebアプリケーションのポータルとして設定し（一般的には index.html）、エラードキュメントのレスポンスコードを200に設定してください。静的ウェブサイトの設定ガイドは、[静的ウェブサイトの設定](#)をご参照ください。

注意：

上記の方法で設定を完了した後、さらに正常な404レスポンス機能を実現する必要がある場合、ユーザーはご自身で、Vueのフロントエンドルーティングで最下層の設定を行うことができます（一般的にはワイルドカードでカスタム404コンポーネントにマッチングさせます）。

プライベートネットワークドメイン名

最終更新日：：2023-04-27 15:36:02

COSにはプライベートネットワークドメイン名がありますか。

Cloud Object Storage (COS) のデフォルトオリジンサーバードメイン名の形式は、<BucketName-APPID>.cos.

<Region>.myqcloud.comです。例えば `examplebucket-1250000000.cos.ap-`

`guangzhou.myqcloud.com` というように、デフォルトでパブリックネットワークアクセスおよび同一リージョン内のプライベートネットワークアクセスをサポートしています。その他ドメイン名に関する内容については[リージョンとアクセスドメイン名](#)をご参照ください。

プライベートネットワーク環境で、そのドメイン名でCOSにアクセスすると、COSはプライベートネットワークIP上にインテリジェントに解決します。

このとき発生するもの

- プライベートネットワークトラフィック：プライベートネットワークアップストリームトラフィック、プライベートネットワークダウンストリームトラフィックはどちらも無料です。詳しくは[トラフィック料金説明](#)をご参照ください。
- リクエスト：リクエストコマンドの回数に応じて計算し、1万回を最小計数単位とします。毎日読み取りリクエスト、書き込みリクエストの総リクエスト回数を統計します。詳しくは[読み取り/書き込みリクエスト料金の説明](#)をご参照ください。

グローバルアクセラレーションドメイン名

最終更新日：2022-10-08 17:58:14

COSでグローバルアクセラレーションドメイン名を使用する際にはどのような注意事項がありますか。

COSでグローバルアクセラレーションドメイン名を使用する際は、次の事項に注意する必要があります。

- グローバルアクセラレーションドメイン名を有効にした後、実際に有効になるまでに15分前後かかると見込まれます。ドメイン名が有効になるまでしばらくお待ちください。
- グローバルアクセラレーションドメイン名を有効にすると、単一のバケットのアクセラレーションドメイン名を使用したアクセスにおける最大の帯域幅は、ネットワーク全体の業務量に応じて割り当てられます。
- グローバルアクセラレーションドメイン名を有効にした後、アクセラレーション効果が得られるのはアクセラレーションドメイン名を使用したリクエストのみとなります。バケットのデフォルトドメイン名は引き続き通常どおり使用できます。
- アクセラレーションドメイン名を使用する場合、リクエストリンクがアクセラレーションリンクに該当する場合にのみアクセラレーション料金が発生します。例えば、アクセラレーションドメイン名を使用してデータを北京から北京のバケットにアップロードする場合、リンクがアクセラレーションされていないため、このリクエストにアクセラレーション料金は発生しません。
- アクセラレーションドメイン名を使用する場合は、HTTP/HTTPS転送プロトコルを指定することができます。リクエスト情報をプライベートネットワークの専用回線上で転送している場合、COSは、データ転送の安全性確保のためにHTTPSプロトコルで転送を行う必要があるかどうかを、状況に応じて選択します。

その他の内容については、[グローバルアクセラレーションの概要](#)のドキュメントをご参照ください。

グローバルアクセラレーションドメイン名を使用してアクセスしたCOSのパスに `/files/v2/appid/bucketname/` が含まれ、バケットが存在しないと表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

グローバルアクセラレーションドメイン名はCOSバージョンV5の機能です。`/files/v2/`はバージョンV4のフィールドであり、内部でロジックの競合が発生する場合があるため、V5のAPIを正しく使用してグローバルアクセラレーションドメイン名にアクセスしてください。詳細については、[APIの概要](#)をご参照ください。

グローバルアクセラレーションドメイン名は現時点でどのような操作をサポートしていますか。

現時点でグローバルアクセラレーションドメイン名はファイルのアップロードとダウンロード操作のみをサポートしています。次に示すインターフェースの詳細は、アクセラレーションドメイン名をサポートするインターフェースです。

番号	インターフェース	番号	インターフェース
----	----------	----	----------

番号	インターフェース	番号	インターフェース
1	PutObject	7	ListParts
2	PostObject	8	UploadPart
3	GetObject	9	AbortMultipartUpload
4	HeadObject	10	CompleteMultipartUpload
5	OptionsObject	11	ListMultipartUploads
6	InitiateMultipartUpload	-	-

グローバルアクセラレーション機能を使用すると、どのような場合にアクセラレーション料金が発生しますか。

グローバルアクセラレーション機能を有効にしてから、Tencent Cloudデータセンター間の専用回線を使用してデータ転送を行うと、データ転送のアクセラレーション効果が得られ、この際にグローバルアクセラレーショントラフィック料金が発生します。例えば、チベットから北京リージョンのバケットにデータをアップロードする場合は、先に成都データセンターから接続し、専用回線リンクを通じて北京のストレージレイヤーに転送されるため、アクセラレーション料金が必要となります。チベットから成都リージョンのバケットにアップロードする場合は、成都データセンターから直接接続し、データの送信先も成都レイヤーとなるため、アクセラレーション効果はなく、追加料金も発生しません。

カスタムオリジンサーバードメイン名

最終更新日：2022-10-31 15:10:11

独自ドメイン名を使用してオブジェクトにアクセスするにはどうすればよいですか。

カスタムドメイン名をバインドすることで実現できます。詳細については、[カスタムオリジンサーバードメイン名の有効化](#)をご参照ください。

カスタムドメイン名を使用するには、Tencent CloudのICP登録を行う必要がありますか。

状況に応じて判断してください。

- ドメイン名で国内のCDNにアクセスするには、ICP登録が必要です。ただしICP登録はTencent Cloudを通じて行わなくてもよく、アクセスするドメイン名が確実にICP登録されていればアクセスできます。
- ドメイン名で海外のCDNにアクセスする場合は、ICP登録は不要です。

COSのカスタムドメイン名はHTTPSをサポートしていますか。

COSのカスタムドメイン名におけるHTTPS設定機能は現在アップグレード中です。現時点では国内のパブリッククラウドリージョン、シンガポール、シリコンバレーリージョンでホスト証明書をサポートしており、その他の海外リージョンでも順次サポート予定です。未対応のリージョンでは、[カスタムドメイン名の設定によるHTTPSアクセスのサポート](#)のドキュメントを参照し、ドメイン名にリバースプロキシを設定する方法で実現できます。

COSにファイルをアップロードした際に、カスタムドメイン名のアクセスリンクを返すようにするにはどうすればよいですか。

COSは現時点ではファイルのアップロード後にカスタムドメイン名のアクセスリンクを返す設定をサポートしていませんが、ドメイン名のスプライシングによって実現できます。カスタムドメイン名を[デフォルトドメイン名](#)に置き換えて使用するだけです。

カスタムドメイン名を使用してCOSにアクセスするには、CDNを有効にする必要がありますか。

カスタムドメイン名を使用したCOSアクセスは、CDNを有効にしなくても可能です。[COSコンソール](#)にログインし、カスタムオリジンサーバードメイン名を設定できます。詳細な操作については、[カスタムオリジンサーバードメイン名の有効化](#)のドキュメントをご参照ください。

CDNコンソールでオリジンサーバーを変更すると、COSコンソールの元のカスタムドメイン名が消えてしまいましたが、なぜですか。

一度バージョンV5コンソールを使用し、JSONバージョンを有するドメイン名を設定した場合、COS V5コンソールでは新しいドメイン名を表示できなくなります。バケットにJSONドメイン名が設定されているかどうかを確認し、JSONバージョンドメイン名の設定をXMLドメイン名に変更してください。

カスタムドメイン名をCOSバケットにバインドする場合、先に軽量サーバーの解決を削除する必要がありますか。

1つのドメイン名には1つのCNAMEレコードしか設定できないため、先に軽量サーバーの解決関係を削除してから、ドメイン名の解決関係をCOSのバケットにバインドする必要があります。

ドメイン名の解決が有効になっていない、またはCNAMEが有効になっていないと表示された場合は、どうすればよいですか。

ドメイン名の解決またはCNAMEの設定後、有効になるまでには数分間かかります。しばらく待ってから、カスタムオリジンサーバードメイン名を使用してバケットへのアクセスをお試しください。それでも有効にならない場合は、DNSコンソールにログインし、解決関係の設定が正しいかどうか確認することができます。

CDNアクセラレーションドメイン名

最終更新日：2022-11-30 15:58:35

COSでCDNをアクティブ化するにはどうすればよいですか。

詳細については、[カスタムCDNアクセラレーションドメイン名の有効化](#)をご参照ください。

COSはCDNのCOSへのHTTPS back-to-originをサポートしていますか。

はい。具体的な操作方法については[back-to-originの設定](#)のドキュメントをご参照ください。

COSとCDNにはどのような違いがありますか。

COSとCDNは異なる製品です。

Cloud Object Storage (COS) とは、Tencent Cloudが提供する大量のファイルを保存するための分散型ストレージサービスです。複数の形式のファイルのアップロード、ダウンロード、管理が可能で、大量のデータの保存と管理を実現できます。

Content Delivery Network (CDN) は、世界各国に分布する高性能なアクセラレーションノードで構成されます。これらの高性能なサービスノードは一定のキャッシュポリシーに従ってお客様の業務コンテンツを保存しており、お客様のユーザーがある業務コンテンツをリクエストすると、リクエストがユーザーから最も近いサービスノードにスケジューリングされ、サービスノードから直接迅速にレスポンスすることで、ユーザーのアクセス遅延を効果的に低減し、可用性を向上させます。

CDN機能を有効にしなくてもCOSサービスを利用することは可能です。COSでのCDN利用は以下のようなケースに適しています。

- ・ レスポンス遅延およびダウンロード速度に対する要件が比較的厳しいケース。
- ・ 地域、国、大陸を越えて数GBから数TBのデータを転送する必要があるケース。
- ・ 同一のコンテンツを集中的に繰り返しダウンロードする必要があるケース。

その他の説明については、[CDNアクセラレーションの概要](#)をご参照ください。

フロントエンド業務がCDNと一時キー方式によってCOSのコンテンツにアクセスすることは可能ですか。

CDNと一時キー方式によるCOSへのアクセスはサポートしていません。COSにプライベート読み取り/書き込み権限が設定されている状況でCDNアクセスを実現したい場合は、[CDNのback to origin認証](#)をご参照ください。

プライベート読み取り権限が設定されているバケットに、CDNを通じてアクセラレーションアクセスを行うことは可能ですか。

可能ですが、権限承認の関連設定を行う必要があります。具体的な設定については、CDNアクセラレーションの概要についてのドキュメントの[プライベート読み取りバケット](#)のパートをご参照ください。

COSファイルが更新（再アップロードまたは削除）された際、CDNがキャッシュ内容を保存したままのため、オリジンサーバーとの不一致が生じます。COSの更新時にCDNのキャッシュを自動的に更新することは可能ですか。

COS自体はCDNキャッシュの自動更新をサポートしていませんが、Serverless Cloud Function（SCF）を利用してCDNキャッシュの自動更新を設定することはできます。詳細については、[CDNキャッシュ更新の設定](#)のドキュメントをご参照ください。

COSはCDNアクセラレーションドメイン名を使用してファイルをアップロードすることはできますか。

CDNのアクセラレーションドメイン名をカスタムドメイン名として使用し、ファイルアップロードのシーンで使用するということであれば、お勧めしません。CDN自体がアクセラレーションアップロードに使用するものではないからです。COSのグローバルアクセラレーション機能を使用すると、データのアップロードとダウンロードのアクセラレーションが実現できますのでお勧めします。[グローバルアクセラレーションの概要](#)をご参照ください。

COSにはCDN機能が付帯していますか。

COS自体にはCDN機能は付帯していないため、ユーザーがご自身で設定する必要があります。詳細については、[カスタムCDNアクセラレーションドメイン名の有効化](#)をご参照ください。

ドメイン名に関するその他のご質問

最終更新日：2023-05-25 17:46:26

COSはHTTPSアクセスをサポートしていますか。

サポートしています。COSはすべての[アベイラビリティリージョン](#)のアクセスノードでSSL転送をサポートし、なおかつSDKおよびコンソールの両方でデフォルトでHTTPSを有効にしています。**COSはHTTPSを使用して転送のデータリンクを保護することを強く推奨しています。**暗号化されていないHTTPを使用して接続すると、リンクが監視されたり、データがハッキングされたりするリスクが生じます。

コンソールでドメイン名管理を行う際、いつも「使用可能なキーを1つ以上有効にしてください」と表示されますが、どのように対処すればよいですか。

[CAMコンソール](#)にログインし、Tencent Cloud APIキーが有効になっているかどうかを確認してください。

- Tencent Cloud APIキーIDが有効になっていない場合は、キーを作成して有効にしてからドメイン名管理を行ってください。
- Tencent Cloud APIキーIDが有効になっているにもかかわらず表示される場合は、現在操作しているアカウントがサブアカウント（コラボレーターまたはサブユーザー）ではないか確認してください。
 - サブアカウントであれば、ルートアカウントでログインし、Tencent Cloud APIキーが有効になっているかどうかを確認してください。
 - ルートアカウントであれば、ブラウザのキャッシュを更新し、Tencent Cloudアカウントにログインし直してください。

COSのデフォルトドメイン名、カスタムCDNアクセラレーションドメイン名、カスタムオリジンサーバードメイン名の違いは何ですか。

ドメイン名の詳細な説明については、[ドメイン名管理の概要](#)をご参照ください。

- **デフォルトドメイン名**：COSオリジンサーバーのドメイン名であり、バケットの作成時に、システムがバケット名およびリージョンに基づいて自動的に生成するもので、デフォルトのCDNアクセラレーションドメイン名と区別する必要があります。
- **カスタムCDNアクセラレーションドメイン名**：ユーザーはバケットを使用する際、登録済みのカスタムドメイン名をTencent Cloudの国内CDNアクセラレーションプラットフォームにバインドすることで、カスタムドメイン名によってバケット内のオブジェクトにアクセスすることが可能になります。（以前に旧バージョンのCOSコンソールで「カスタムドメイン名」を使用したことがある場合は、新バージョンのコンソールで「カスタムCDNアクセラレーションドメイン名」とは表示されず、「カスタムドメイン名」のままとなります）
- **カスタムオリジンサーバードメイン名**：ユーザーは登録済みのカスタムドメイン名を現在のバケットにバインドすることで、カスタムドメイン名によってバケット内のオブジェクトにアクセスすることが可能になります。

COSのCDNアクセラレーションとグローバルアクセラレーションにはどのような違いがありますか。

1. ユースケースが異なります。**CDNアクセラレーション**は主にバケット内のコンテンツを広範囲にダウンロード、配信するために用いられます。特に同一のコンテンツを繰り返しダウンロードするようなユースケースです。詳細については、[CDNアクセラレーションの概要](#)をご参照ください。**グローバルアクセラレーション**はTencentのグローバルトラフィックスケジューリングのロードバランサシステムにより、ユーザーからのリクエストに対しインテリジェントルーティング解決を行い、最適なネットワークアクセスリンクを選択することで、リクエストの最寄りサーバーへのアクセスを可能にします。COSのグローバルアクセラレーション機能ではその他に、データのアップロードとダウンロードのアクセラレーションも実現可能です。詳細については、[グローバルアクセラレーションの概要](#)をご参照ください。
2. アクセラレーション機能によって発生する料金が異なります。**CDNアクセラレーション**を使用すると、CDNトラフィック料金、CDN back-to-originトラフィック料金が発生し、**グローバルアクセラレーション**機能を使用するとグローバルアクセラレーショントラフィック料金が発生します。COSのトラフィック課金項目の説明については、[トラフィック料金](#)をご参照ください。

COSはドメイン名をバインドして使用する必要がありますか。

COSはユーザーの独自ドメイン名をバインドしなくても、デフォルトドメイン名から直接アクセスできます。COSのデフォルトドメイン名の形式は、<BucketName-APPID>.cos.<Region>.myqcloud.comです。COSドメイン名の詳細な説明については、[リージョンとアクセスドメイン名](#)をご参照ください。独自のドメイン名をバインドしたい場合は、[カスタムオリジンサーバードメイン名の有効化](#)をご参照ください。

同一のリージョンのVPC環境内では、プライベートネットワークの169.254.0.xによってCOSサービスにアクセスできるのはなぜですか。

クライアントとCOSサービスが同一のリージョンにある場合、COSドメイン名はTencent CloudのプライベートネットワークDNSサービスにおいてハイジャック方式で169.254.0.xのIPに強制的に解決されます。ネットワークセグメント169.254.0.xはデフォルトでVPCセグメントと接続しており、内部ルーティングの方法でトラフィックをゲートウェイに流すことにより、COSサービスへのアクセスを実現しています。このため、プライベートネットワーク方式を使用してCOSサービスにアクセスする場合は、プライベートネットワークの解決エラーを防止するため、できる限りDNSサービス設定を変更しないでください。

ファイル操作に関するご質問 アップロードとダウンロード

最終更新日：：2023-04-28 17:51:20

COSではアップロードおよびダウンロードの帯域幅に制限はありますか。

中国大陸パブリッククラウドリージョンでの1バケットのデフォルトの帯域幅は、アップストリーム・ダウンストリーム共有で15Gbit/s、その他のリージョンではアップストリーム・ダウンストリーム共有で10Gbit/sとなります。帯域幅がこの閾値に達すると、リクエストによってトラフィックコントロールがトリガーされます。その他の制限については[仕様と制限](#)をご参照ください。

ファイルをダウンロードせず、直接ブラウザでプレビューするにはどうすればよいですか。

このファイルに正しいContent-Typeヘッダーを指定する必要があります。また、Content-Dispositionのパラメータ値をattachmentとすることはできません。ブラウザが現在のファイル形式をサポートしている場合は、直接ダウンロードではなく、ブラウザでこのファイルを直接開くことができます。操作ガイドについては[カスタムHeaders](#)をご参照ください。

ファイルをプレビューせず、直接ブラウザでダウンロードするにはどうすればよいですか。

[COSコンソール](#)でカスタムHeaders内のContent-Dispositionパラメータ値をattachmentに設定します。操作ガイドについては[カスタムHeaders](#)をご参照ください。

GET Objectインターフェースでリクエストパラメータresponse-content-dispositionの値をattachmentに設定する方法でも、ブラウザでファイルダウンロードのポップアップを表示させることが可能です。参考ドキュメントについては[GET Object](#)をご参照ください。

注意：

リクエストにresponse-*パラメータを使用する必要がある場合、リクエストには署名が必要です。

プライベートネットワークでCOSにアクセスしているかどうかはどのように判断しますか。

Tencent Cloud COSのアクセスドメイン名にはインテリジェントDNS解決を使用しており、インターネットの様々なキャリア環境の下で、お客様のCOSアクセスにとって最適なリンクを検知および指定します。

Tencent Cloud内にデプロイしたCVMサービスをCOSへのプライベートネットワークアクセスに使用している場合は、まずCVMとCOSバケットが同じリージョンに所属していることを確認し、その後CVM上で `nslookup` コマンドを使用してCOSドメイン名を解決します。プライベートIPが返された場合、CVMとCOS間はプライベートネットワークアクセスであり、そうでない場合はパブリックネットワークアクセスであることがわかります。

Tencent Cloud内にデプロイしたCVMサービスのリージョンがCOSバケットの所属リージョンと異なるが、COSのアベイラビリティリージョンの範囲である場合は、COSのプライベートネットワークグローバルアクセラレーションドメイン名によってファイルにアクセスすることで、CVMとCOSのクロスリージョンアクセスを実現することができます。

プライベートネットワークアクセスの判断方法

同一リージョン内でのTencent Cloud製品へのアクセスは、プライベートネットワーク接続によって行うことができ、それによるプライベートネットワークトラフィックには料金が発生しません。このため、Tencent Cloudの製品をお選びになる際は、できるだけ同一のリージョンを選択すると料金の節約になります。

注意：

パブリッククラウドリージョンと金融クラウドリージョン間のプライベートネットワークは相互運用されていません。

プライベートネットワークアクセスかどうかを確認するには、次の方法をご参照ください。

Tencent Cloud Virtual Machine (CVM) のCloud Object Storage (COS) アクセスを例にとると、プライベートネットワークを使用したCOSアクセスかどうかを判定するには、CVM上で `nslookup` コマンドを使用してCOSドメイン名を解決します。プライベートネットワークIPが返された場合、CVMとCOS間はプライベートネットワークアクセスであり、そうでない場合はパブリックネットワークアクセスであることがわかります。

説明：

プライベートIPアドレスの一般的な形式は `10.*.*.*`、`100.*.*.*` であり、VPCネットワークは一般的に `169.254.*.*` などです。

`examplebucket-1250000000.cos.ap-guangzhou.myqcloud.com` がターゲットバケットアドレスだとすると、その下の `Address: 10.148.214.13` がプライベートネットワークからのアクセスであることを表します。

```
nslookup examplebucket-1250000000.cos.ap-guangzhou.myqcloud.com
```

```
Server: 10.138.224.65
```

```
Address: 10.138.224.65 #53
```

```
Name: examplebucket-1250000000.cos.ap-guangzhou.myqcloud.com
```

```
Address: 10.148.214.13
```

```
Name: examplebucket-1250000000.cos.ap-guangzhou.myqcloud.com
Address: 10.148.214.14
```

プライベートネットワークとパブリックネットワークアクセス、接続性テストなどのその他の情報については、[プライベートネットワークとパブリックネットワークアクセス](#)をご参照ください。

Tencent Cloud CVMプライベートネットワークのDNSサーバーアドレスについては、[CVMプライベートネットワークサービス](#)をご参照ください。

注意：

Tencent CloudのBMインスタンスのプライベートIPアドレスとCVMのIPアドレスには違いがあり、一般的な形式は `9.*.*.*` または `10.*.*.*` です。ご不明な点がございましたら[お問い合わせ](#)ください。

フォルダをダウンロードするにはどうすればよいですか。

[COSBrowserツール](#)にログインし、ダウンロードしたいフォルダを選び、**ダウンロード**をクリックすると、フォルダまたはファイル一括でのダウンロードを行うことができます。あるいはCOSCMDツールによってフォルダのダウンロードを実現できます。詳細については、[COSCMDツール](#)をご参照ください。

アップロード、ダウンロードなどの操作を行う際、「403 Forbidden」、権限拒否などのエラーが発生した場合はどのように対処すればよいですか。

[COSへのアクセス時に403エラーコードが返される](#)のドキュメントを参照し、トラブルシューティングを行ってください。

COSでファイルの一括アップロードまたは一括ダウンロードを行うにはどうすればよいですか。

COSではコンソール、API/SDK、ツールなどの複数の方式でファイルの一括アップロードまたは一括ダウンロードを行うことができます。

- コンソール方式：操作手順については、[オブジェクトのアップロード](#)、[オブジェクトのダウンロード](#)をご参照ください。
- API/SDK方式：COSではプログラミングによってAPIまたはSDKインターフェースを複数回呼び出す方式でファイルのバッチ操作を行うことができます。詳細については、[オブジェクトのアップロード/ダウンロード API インターフェース](#)および[SDKの概要](#)をご参照ください。
- ツール方式：[COSBrowser](#)、[COSCMD](#)、[COSCLI](#)などのツールを使用してバッチ操作を実現できます。

ファイルをバケットにアップロードする際、同名のファイルが存在した場合は直接上書きされますか。それとも別バージョンのファイルが新規作成されますか。

COSではバージョン管理機能をサポートしています。バケットでバージョン管理機能を有効にしていない場合は、同名のファイルをバケットにアップロードすると、既存の同名ファイルに直接上書きされます。バケットで

バージョン管理機能を有効にしている場合は、同じ名前のファイルをバケットにアップロードすると、そのオブジェクトの複数のバージョンが同時に存在することになります。

COSのマルチパートアップロード方式では、最小のパートサイズはどれくらいの大きさですか。

1パートは最小で1MBとなります。詳細については、[仕様と制限](#)のドキュメントをご参照ください。

大容量ファイルのマルチパートアップロード中に署名が失効した場合、署名を切り替えてパートのアップロードを継続することはできますか。

できます。

COS内のファイルに対してワнтаムURLを生成するにはどうすればよいですか。

具体的な操作については、[署名付きURLによるダウンロード権限承認](#)をご参照ください。

署名の有効期限を指定しているのに、署名が期限切れとなってもファイルがダウンロードできるのはなぜですか。

デフォルトでは、ブラウザは正常にロードしたファイルをキャッシュします。そのため、同一のURLを使用している場合、ブラウザはサーバーに再度リクエストは行わず、キャッシュした結果を返します。ユーザーがファイルをアップロードする際は、Cache-Control: no-cacheヘッダーを指定してブラウザキャッシュを防止することをお勧めします。さらに詳しくお知りになりたい場合は、[PUT Object](#)または[Initiate Multipart Upload](#)のドキュメントをご参照ください。また、ファイルをダウンロードする際にresponse-cache-control=no-cacheリクエストパラメータを指定してブラウザキャッシュを防止することもできます。さらに詳しくお知りになりたい場合は、[GET Object](#)のドキュメントをご参照ください。

コンソールでファイルをアップロードすると、「アップロードに失敗しました。ネットワークに問題があります」と表示されましたが、どうすればよいですか。

このエラーはローカルネットワーク環境が不安定な場合に発生します。ネットワーク環境を変更してから再度アップロードを行うことをお勧めします。

第三者によるCOSファイルのダウンロードを防止するにはどうすればよいですか。

バケットをプライベート読み取り/書き込みに設定することができます。詳細については、[アクセス権限の設定](#)のドキュメントをご参照ください。また、リンク不正アクセス防止機能によってホワイトリスト制限を設定し、リスト以外のドメイン名によるバケットのデフォルトアクセスアドレスへのアクセスを制限することもできます。詳細については、[リンク不正アクセス防止の設定](#)のドキュメントをご参照ください。

ファイルのダウンロードURLを、大文字と小文字を区別しないように設定することは可能ですか。

この操作はCOSではサポートしていません。COSファイル名はアルファベットの大文字と小文字を区別しており、URLからのファイルアクセスも同様にアルファベットの大文字と小文字を区別する必要があります。バケットでCDNアクセラレーション機能を有効にしている場合、CDNコンソールで大文字と小文字を区別しないキャッ

シュ設定を有効にすることで、ヒット率を一定程度向上させることができます。詳細については、[大文字と小文字を区別しないキャッシュ設定](#)をご参照ください。

ファイルのアップロードやバケット作成などの操作を行う際に、「**your policy or acl has reached the limit (Status Code: 400; Error Code: PolicyFull)**」というエラーが発生しましたが、どのように対処すればよいですか。

COSの各ルートアカウント下のバケットACLルールのは最大1000個までです。設定したバケットACLが1000個を超えるとこのエラーが発生します。このため、不要なバケットACLルールは削除することをお勧めします。

説明：

オブジェクトレベルのACLまたはPolicyの使用はお勧めしません。APIまたはSDKを呼び出す際、ファイルに対して特別なACL制御を必要としない場合は、ACLの関連パラメータ（x-cos-acl、ACLなど）を空にし、バケットの権限をそのまま引き継いでください。

データ管理

最終更新日：2022-10-11 12:08:53

削除に関するご質問

コンソールでバケットを削除できず、「ディレクトリが空ではありません」または「バケット内の有効なデータを削除してください」と表示されましたが、どうすればよいですか。

1. 使用しているコンソールのバージョンがV4かV5かを確認し、バージョンV4であれば[チケット](#)を提出し、バージョンV5のコンソールへのアップグレードを申請してください。
2. COSの[バージョンV5コンソール](#)にログインし、削除したいバケットに進み、[アップロード未完了](#)管理項目をクリックしてファイルフラグメントを削除します。
3. バケットリストに戻り、対応するバケットを削除します。

バケット内のファイルを誤って削除してしまいましたが、復元は可能ですか。

現時点では、人為的に誤って削除されたファイルの復元はサポートしていません。バケットのバージョン管理機能を有効にしてから、バケットに同名のオブジェクトをアップロードすると、そのオブジェクトの複数のバージョンを保存でき、指定したバージョンのオブジェクトを検索、削除または復元できるようになります。ユーザーが誤って削除したデータや、アプリケーションプログラムの障害によって消失したデータの回復に役立ちます。詳細については、[バージョン管理の設定](#)をご参照ください。

ファイルフラグメント

ファイルフラグメントはどのように発生するのですか。ダウンロードは可能ですか。

ファイルフラグメントはオブジェクトをアップロードする過程で、アップロードを一時停止またはキャンセルした際に発生します。COSは5GBを超える大容量ファイルをマルチパートアップロード方式でアップロードします。その原理は、大容量ファイルを分割し、小さなパートになるよう処理してからアップロードするものです。マルチパートアップロードタスクにおいてAbort Multipart UploadまたはComplete Multipart Uploadインターフェースを呼び出さなかった場合、アップロード済みのパートはファイルフラグメントとして保存されます。ファイルフラグメントのダウンロードはサポートしていません。

ファイルフラグメントはストレージ容量を占有しますか。料金は発生しますか。

ファイルフラグメントは通常のオブジェクトと同じようにストレージ容量を占有しますので、ストレージ容量料金が発生します。

ファイルフラグメントを（定期的に）クリーンアップするにはどうすればよいですか。

COSコンソール上でファイルフラグメントを直接削除することができます。操作方法については、[ファイルフラグメントの削除](#)をご参照ください。[ライフサイクルの設定によるファイルフラグメントの定期的なクリーンアップ](#)によって行うこともできます。

ファイルフラグメントのクリーンアップは他の完全なアップロードファイルに影響しますか。

ファイルフラグメントのクリーンアップはアップロードに成功しなかったファイルを削除するものであり、すでにアップロードが完了している他のファイルに影響はありません。

静的ウェブサイト

静的ウェブサイト機能を有効にしているのに、画像を表示することができません。

ブラウザ、CDNキャッシュの有無をチェックしてください。ブラウザキャッシュの防止はcurl、wgetコマンドによって行うことができます。CDNドメイン名を使用してアクセスする場合は、[CDNコンソール](#)でキャッシュ更新操作を行うことができます。

設定した静的ウェブサイトでCDNドメイン名を使用してアクセスできない場合はどうすればよいですか。

次の手順に従ってCDNアクセラレーションドメイン名設定のトラブルシューティングと確認を行ってください。

1. オリジンサーバーのタイプについて、静的ウェブサイトを実地サーバーとして選択しているかに注意してください。
2. back-to-origin認証、CDNサービス権限認証はバケットの権限に基づき、それに応じた設定を行う必要があります。
 - バケットの権限がプライベート読み取りの場合は、CDNサービス権限を承認し、back-to-origin認証を有効にする必要があります。
 - バケットの権限がパブリック読み取りの場合は、CDNサービス権限を承認してback-to-origin認証を有効にする必要はありません。
3. CDN認証はバケットの権限に基づき、それに応じた設定を行う必要があります。

a. バケットの権限がプライベート読み取りの場合：

CDN認証設定	CDNアクセラレーションドメイン名アクセス	COSドメイン名アクセス	一般的なケース
---------	-----------------------	--------------	---------

CDN認証設定	CDNアクセラレーションドメイン名アクセス	COSドメイン名アクセス	一般的なケース
無効（デフォルト）	アクセス不可	COSを使用した認証が必要	CDNドメイン名に直接アクセス可能、オリジンサーバーデータ保護
有効	URLを使用した認証が必要	COSを使用した認証が必要	全リンクのアクセスを保護、CDN認証リンク不正アクセス防止をサポート

b. バケットの権限がパブリック読み取りの場合：

CDN認証設定	CDNアクセラレーションドメイン名アクセス	COSドメイン名アクセス	一般的なケース
無効（デフォルト）	アクセス可	アクセス可	全サーバーでパブリックアクセス許可、CDNとオリジンサーバーどちらからのアクセスも可
有効	URLを使用した認証が必要	アクセス可	CDNアクセスに対してはリンク不正アクセス防止が有効、ただしオリジンサーバーアクセスは保護されないため非推奨

4. 上記の設定に誤りがないことを確認した後、CDNアクセラレーションドメイン名へのアクセスに使用するプロトコルおよび静的ウェブサイトの**強制HTTPS**設定を確認してください。

- CDNアクセラレーションドメイン名へのアクセスにHTTPプロトコルを使用している場合は、**強制HTTPSオプションを有効にしないでください**。
- CDNアクセラレーションドメイン名へのアクセスにHTTPSプロトコルを使用している場合は、CDNアクセラレーションドメイン名に対し**back-to-originの301/302リダイレクトを有効にする**よう設定することをお勧めします。参考ドキュメント：[back-to-originの301/302リダイレクト設定](#)。

5. 上記の手順に従ってトラブルシューティングを行っても問題を解決できない場合は、[チケットを提出](#)してご連絡いただければ、さらなるトラブルシューティングを実施することができます。

クロスドメイン設定

クロスドメインアクセスとは何ですか。どのように設定しますか。

クロスドメインアクセスとはHTTPリクエストによって、1つのドメインから別のドメインのリソースをリクエストすることであり、プロトコル、ドメイン名、ポートのうちいずれかが異なる場合は、すべて異なるドメインとみなされます。コンソールでの操作手順については、[クロスドメインアクセスの設定](#)または[クロスドメインアクセスのベストプラクティスドキュメント](#)をご参照ください。

バケット内のファイルのheadersが「Access-Control-Allow-Origin:*」を返すように設定するにはどうすればよいですか。

クロスドメインの設定を行い、Originを * に設定します。詳細については、[クロスドメインアクセスの設定](#)のベストプラクティスドキュメントをご参照ください。

アップロードの際に「get ETag error, please add "ETag" to CORS ExposeHeader setting.」というエラーが表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

下図に従ってクロスドメインルールを設定し、ブラウザの切り替えを試し、実行可能かどうかのテストを行ってください。詳細については、[クロスドメインアクセスの設定](#)をご参照ください。

Add CORS Rule ×

Origin *

*

Domain begins with http:// or https://. One domain per line. Up to one wildcard character * is allowed in a line

Allow-Methods *

☒ PUT ☒ GET ☒ POST ☒ DELETE ☒ HEAD

Allow-Headers

*

Expose-Headers

Etag

Max-age *

300

Submit

Cancel

Tencent Cloud COSとCDNを同時に使用すると、COSのクロスドメインが正常に動作しないのですが、どのように対処すればよいですか。

使用しているドメイン名がCDNアクセラレーションドメイン名の場合は、CDNコンソールでクロスドメインの設定を行ってください。詳細については、CDNの[カスタマイズレスポンスヘッダーの設定](#)のドキュメントをご参照ください。

クロスドメイン設定はソースOriginのあいまい一致をサポートしていますか。

バージョンV5（XML）のコンソールはセカンドレベルドメイン名のあいまい一致をサポートしています。バージョンV4（JSON）のコンソールはセカンドレベルワイルドカードドメイン名の設定をサポートしていません。

カスタムHeaders

オブジェクトヘッダー（Headers）の一括カスタマイズをサポートしていますか。

COSはヘッダーの一括カスタマイズをサポートしています。詳細については、[カスタムHeaders](#)をご覧ください。

back-to-origin設定

back-to-originアドレスの役割は何ですか。

データの移行を行います。COSにユーザーがリクエストしたリソースがない場合は、back-to-originアドレスによってリソースをリアルタイムでプルします。

back-to-originを設定した時点で、COS上にback-to-originアドレスに対応するリソースまたはパスが存在しない場合、COSはユーザーの初回アクセス後に自動的にディレクトリを作成しますか。

はい。COSは自動的にディレクトリをプルして作成します。

その他の機能

COSはコールバックの設定をサポートしていますか。例えば、アップロードした画像ごとにサムネイルを作成し、別のバケットに保存することなどは可能ですか。

COSとSCFを組み合わせて設定することができます。関連する実践ドキュメントは、[COS上の画像を取得してサムネイルを作成](#)をご参照ください。

COSは特定のフォルダのサイズの集計をサポートしていますか。

COSは現在のフォルダのオブジェクト数およびオブジェクトが占有する容量サイズの確認をサポートしています。詳細については、[フォルダの詳細確認](#)をご参照ください。

COS内のオブジェクトを前のバージョンに戻す設定を行うことは可能ですか。

バケットの[バージョン管理](#)機能を有効にすると、バケット内にオブジェクトの複数のバージョンを保存でき、なおかつ指定したバージョンのオブジェクトを検索、削除または復元できるようになります。詳細については、[バージョン管理の設定](#)のドキュメントをご参照ください。

COS内の特定のタイプのファイルの数（画像ファイルの数など）を確認するにはどうすればよいですか。

リスト機能をアクティブ化し、生成したリストファイルに基づいて確認することができます。詳細については、[リスト機能のアクティブ化](#)のドキュメントをご参照ください。

ストレージタイプ

最終更新日：2022-06-28 16:14:31

INTELLIGENT_TIERINGストレージはどのように課金されますか。

INTELLIGENT_TIERINGストレージには**INTELLIGENT_TIERINGストレージ容量料金**と**INTELLIGENT_TIERINGオブジェクト監視料金**が含まれます。その内容は次のとおりです。

1. INTELLIGENT_TIERINGストレージ容量料金は、ファイルの存在するストレージ層によって金額が異なります。

- ファイルが高頻度層にある場合は、標準ストレージ容量料金に従って課金されます。
- ファイルが低頻度層にある場合は、低頻度ストレージ容量料金に従って課金されます。

説明：

- 標準ストレージと低頻度ストレージは、パブリッククラウドが属するリージョンによって、容量料金が異なります。具体的な価格については、[製品価格](#)をご参照ください。
- ファイルのアップロードおよびダウンロードでは、さらにリクエスト料金とトラフィック料金が発生します。これらの料金の計算例については、[トラフィック課金例](#)および[リクエスト課金例](#)をご参照ください。

2. INTELLIGENT_TIERINGオブジェクト監視の料金は、保存されているファイル数に基づいて計算されます。ファイルが64KB未満の場合、課金されません。オブジェクト10000個あたりの監視料金は一か月0.025米ドルです。

事例

ある企業に1TBのファイルがあり、1ファイルあたりのサイズは10MB、ファイル数は計100000ファイルで、データはINTELLIGENT_TIERINGストレージタイプとして北京リージョンに保存されているとします。毎月20%のファイル（すなわち20000個のファイル）が低頻度層に移行すると仮定した場合、1か月あたりのオブジェクト監視料金およびストレージ料金は下表のとおりとなります。

ストレージ月	オブジェクト監視料金 (米ドル)	INTELLIGENT_TIERINGストレージ料金 (米ドル)	標準ストレージ料金 (米ドル)
1	0.25	$1024 \times 0.024 = 24.58$	$1024 \times 0.024 = 24.58$

ストレージ月	オブジェクト監視料金 (米ドル)	INTELLIGENT_TIERINGストレージ料金 (米ドル)	標準ストレージ料金 (米ドル)
2	0.25	$819.2 \times 0.024 + 204.8 \times 0.018 = 23.35$	$1024 \times 0.024 = 24.58$
3	0.25	$655.36 \times 0.024 + 368.64 \times 0.018 = 22.36$	$1024 \times 0.024 = 24.58$
4	0.25	$524.288 \times 0.024 + 499.712 \times 0.018 = 21.58$	$1024 \times 0.024 = 24.58$
5	0.25	$419.4304 \times 0.024 + 604.5696 \times 0.018 = 20.95$	$1024 \times 0.024 = 24.58$
6	0.25	$335.54432 \times 0.024 + 688.45568 \times 0.018 = 20.45$	$1024 \times 0.024 = 24.58$

このように、保存期間が長くなるにつれて、毎月少額の監視料金を支払うだけで、それ以外のコストが明らかに低下することがわかります。

INTELLIGENT_TIERINGストレージはどのような種類のファイルに適しますか。

INTELLIGENT_TIERINGストレージはオーディオビデオ、ログなどの、平均ファイルサイズが比較的大きく、かつアクセスパターンが固定されていないファイルに適しています。平均ファイル容量が大きくなると、ファイル1GBにつき支払う必要がある監視料金は安くなります。業務上、アクセスパターンが比較的固定されている場合は、ライフサイクル設定によって、低頻度ストレージに移行する時間を指定しておけばよく、INTELLIGENT_TIERINGストレージを使用する必要はありません。

ファイルをINTELLIGENT_TIERINGストレージとして保存するにはどうすればよいですか。

次の2つの方法で、ファイルをINTELLIGENT_TIERINGストレージとして保存することができます。

- 増分ファイル：アップロードの際にストレージタイプをINTELLIGENT_TIERINGストレージに指定するだけで、ファイルをINTELLIGENT_TIERINGストレージとして保存することができます。
- 既存ファイル：インターフェースをCOPYすることで、ファイルのストレージタイプをINTELLIGENT_TIERINGストレージタイプに変更することができます。あるいはライフサイクル機能により、標準ストレージ、低頻度ストレージタイプをINTELLIGENT_TIERINGストレージタイプに移行することができます。

注意：

INTELLIGENT_TIERING系の64KB未満のファイルは、常に標準層に保存されます。そのため、コストダウンのために、必要に応じて、64KB未満のファイルを標準/低頻度/アーカイブ/ディープアーカイブなどのス

ストレージタイプで直接アップロードすることをお勧めします。

INTELLIGENT_TIERINGストレージ設定を無効化するにはどうすればよいですか。

INTELLIGENT_TIERINGストレージは有効にすると**無効化することはできません**。ファイルを INTELLIGENT_TIERINGストレージとして保存する必要がある場合は、ファイルのアップロード時に、ファイルストレージタイプを標準ストレージ、低頻度ストレージ、アーカイブストレージ、ディープアーカイブストレージなどの、INTELLIGENT_TIERINGではないストレージタイプを指定してください。

権限管理に関するご質問

最終更新日：2023-04-27 15:36:02

キーに関するご質問

APPID、SecretId、SecretKeyなどのキー情報を確認するにはどうすればよいですか。

バケット名の後半部分がAPPID情報です。[COSコンソール](#)にログインすると確認できます。SecretId、SecretKeyなどの情報は、CAMコンソールの[APIキー管理](#)にログインすると確認できます。

一時キーの有効期間はどれくらいですか。

一時キーは現時点ではルートアカウントで最長2時間（7200秒）、サブアカウントで最長36時間（129600秒）であり、デフォルト値は30分（1800秒）です。期限切れとなった一時キーを含むリクエストは拒否されます。一時キーに関する説明は、[一時キーの生成および使用ガイド](#)をご参照ください。

SecretId、SecretKeyなどのキーに関する情報が漏洩した場合は、どのように対処すればよいですか。

ユーザーは漏洩したキーを削除し、新たなキーを作成することができます。詳細については、[アクセスキー](#)をご参照ください。

プライベート読み取り/書き込み権限が設定されたファイルに対し、時間制限のあるアクセスリンクを生成するにはどうすればよいですか。

[一時キーの生成および使用ガイド](#)のドキュメントを参照し、キーの有効期間を設定してください。

権限に関するご質問

COSではサブアカウントの指定フォルダへのアクセス権限をどのように承認しますか。

[フォルダの権限の設定](#)を参照し、サブアカウントの指定フォルダへのアクセス権限を承認することができます。サブアカウントに対しより高度な権限承認を行う場合は、[権限設定の関連事例](#)を参照することができます。

COSから403エラーが返されましたが、どのように対処すればよいですか。

COSチームが開発者向けに提供している[セルフ診断ツール](#)をご利用ください。セルフ診断ツールはリクエストのRequestIdによって、操作の異常に対する診断をサポートすることができます。はい

1. BucketName、APPID、Region、SecretId、SecretKeyなどの設定情報が正しいかどうかチェックしてください。

2. 上記の情報の正確性が確認されているという前提の下で、サブアカウントを使用して操作を行っていないかをチェックしてください。サブアカウントを使用している場合は、ルートアカウントがサブアカウントの権限を承認しているかをチェックしてください。承認していない場合は、先にルートアカウントでログインし、サブアカウントの権限を承認してください。
3. 権限承認の詳細については、[権限設定の関連事例](#)をご参照ください。
4. 一時キーを使用して操作を行っている場合は、現在の操作が一時キーの取得時に設定したPolicyに含まれるかどうかをチェックしてください。含まれない場合は関連のPolicy設定を変更してください。

COSでAccessDeniedのエラーが発生しましたが、どのように対処すればよいですか。

AccessDeniedは一般的に、権限が承認されていないか、権限が不足しているために起こるエラーです。次の手順に従って、順次トラブルシューティングを実施してください。

1. BucketName、APPID、Region、SecretId、SecretKeyなどの設定情報が正しいかどうかチェックしてください。スペースが入っていないかどうか特に注意してください。
2. 上記の情報の正確性が確認されているという前提の下で、サブアカウントを使用して操作を行っていないかをチェックしてください。サブアカウントを使用している場合は、ルートアカウントがサブアカウントの権限を承認しているかをチェックしてください。承認していない場合は、先にルートアカウントでログインし、サブアカウントの権限を承認してください。権限承認操作については、[アクセス管理権限設定の関連事例](#)をご参照ください。
3. 一時キーを使用して操作を行っている場合は、現在の操作が一時キーの取得時に設定したPolicyに含まれるかどうかをチェックしてください。含まれない場合は関連のPolicy設定を変更してください。詳細については、[一時キーの生成および使用ガイド](#)をご参照ください。

COSチームは開発者向けに[セルフ診断ツール](#)をご提供しています。セルフ診断ツールはリクエストのRequestIdによって、操作の異常に対する診断をサポートすることができます。

バケットのアクセス権限が上限に達しましたが、どうすればよいですか。

各ルートアカウント（すなわち同一のAPPID）の、バケットACLルールのは数は最大1000個までです。設定したバケットACLが1000個を超えるとこのエラーが発生します。このため、不要なACLルールは削除することをお勧めします。

説明：

ファイルレベルのACLまたはPolicyの使用はお勧めしません。APIまたはSDKを呼び出す際、ファイルに対して特別なACL制御を必要としない場合は、ACLの関連パラメータ（x-cos-acl、ACLなど）を空にし、バケットの権限をそのまま引き継いでください。

バケットの作成でエラーが発生しましたが、どうすればよいですか。

バケットの作成エラーで考えられる原因

1. 作成したバケットについて、そのバケット名がすでに存在している場合。その場合はその他のバケット名を付ける必要があります。
2. 現在のバケットにパブリック読み取り/プライベート書き込み、あるいはパブリック読み取り/書き込み権限を設定しすぎており、かつ、ルートアカウントのACLルール数が上限に達している場合、バケット新規作成時にバケットACL数の上限の調整ができないため、エラーが発生しています。

次の2つの対処方法を参考までにご提供します。

方法1：現在のバケットのアクセス権限をプライベート読み取り/書き込みに変更できます。詳細については、[バケットアクセス権限の設定](#)をご参照ください。その後、バケットの新規作成をもう一度お試しください。

方法2：**Policy**権限設定のポリシーの追加で、対応するアクセス権限を設定できます。詳細については、[バケットポリシーの追加](#)をご参照ください。

署名リンクを使用してパブリック読み取りファイルにアクセスしている場合、署名が期限切れとなってもファイルにアクセスすることはできますか。

期限切れの署名リンクを使用してパブリック読み取りファイルにアクセスした場合、COSは権限の状況を優先的にチェックし、リンクの期限切れ後のアクセスを拒否する判断を行います。

アップロード、ダウンロードなどの操作を行う際、「403 Forbidden」「権限拒否」などのエラーが発生した場合はどのように対処すればよいですか。

次の手順に従って、順次トラブルシューティングを実施してください。

1. BucketName、APPID、Region、SecretId、SecretKeyなどの設定情報が正しいかどうかチェックしてください。
2. 上記の情報の正確性が確認されているという前提の下で、サブアカウントを使用して操作を行っていないかをチェックしてください。サブアカウントを使用している場合は、ルートアカウントがサブアカウントの権限を承認しているかをチェックしてください。承認していない場合は、先にルートアカウントでログインし、サブアカウントの権限を承認してください。権限承認操作については、[アクセス管理権限設定の関連事例](#)をご参照ください。
3. 一時キーを使用して操作を行っている場合は、現在の操作が一時キーの取得時に設定したPolicyに含まれるかどうかをチェックしてください。含まれない場合は関連のPolicy設定を変更してください。詳細については、[一時キーの生成および使用ガイド](#)をご参照ください。

COSチームは開発者向けに[セルフ診断ツール](#)をご提供しています。セルフ診断ツールはリクエストのRequestIdによって、操作の異常に対する診断をサポートすることができます。

COSでは第三者がファイルをローカルにダウンロードするのをどのように制限しますか。

第三者によるローカルへのファイルダウンロードを制限したい場合は、次のいくつかのケースを区別する必要があります。

1. サブアカウントによるデータダウンロードを制限する場合は、[サブアカウントのCOSアクセス権限の承認](#)を参照することができます。
2. 匿名ユーザーによるデータダウンロードを制限する場合は、バケットをプライベート読み取り/書き込みに設定するか、またはバケットポリシーに `deny anyone Get Object` 操作を設定することができます。

COSではその他アカウントのサブアカウントに権限をどのようにして設定しますか。

ルートアカウントAの名前のバケットが、ルートアカウントBのサブアカウントB0に対し操作権限の承認を行う必要があると仮定した場合、まずルートアカウントBに対し、A名のバケットの操作権限を承認してから、ルートアカウントBを通じてサブアカウントB0に対し、A名のバケットの操作権限を承認する必要があります。詳細な操作については、[他のルートアカウント下のサブアカウント操作名のバケットへの権限付与](#)を参照することができます。

COSで、サブアカウント/コラボレーターがファイルのアップロードのみ可能で、削除はできないように設定するにはどうすればよいですか。

[CAMコンソール](#)でカスタムポリシーを作成し、サブユーザーに対し特定の権限を設定できます。詳細な操作手順については、[カスタムポリシーの作成](#)を参照することができます。

説明：

カスタムポリシーを作成する際は、読み取り操作の権限を承認し、書き込み操作はアップロードの権限のみを選択する必要があります。[関連する権限の削除](#)を選択しないでください。

Visual Policy Generator JSON

▼ COS(0 actions)

Effect *

☒ Allow ☐ Deny

Service *

COS (cos)

Action *

Select actions

☐ All actions (cos:*)

Action Type

☒ Read (35 selected) ▶

☐ Write ▼

Select Action

Filter Actions

☐ Action Name

Description

☐ AbortMultipartU...

☐ AppendObject

☐ CompleteMultip...

☐ CreateJob

Create a COS Bat...

☐ DeleteBucket

☐ DeleteBucketCORS

DeleteBucketCORS

Support for holding shift key down for multiple selection

バケットのデフォルトドメイン名を使用してパブリック読み取りバケットにアクセスすると、ファイルリストが返されますが、ファイルリストの情報を隠すにはどうすればよいですか。

対応するバケットにdeny anyoneのGet Bucket権限を設定することができます。操作手順は次のとおりです。

[COSコンソール](#)にログインし、バケットリストを選択し、対応するバケットの**権限管理**ページに進みます。

方法1：

1. **Policy**権限設定項目を見つけ、**グラフィック設定のポリシーの追加**をクリックします。

2. 下図に従って対応する操作権限を追加し、**OK**をクリックして保存します。

Add Policy

When dealing with authorizations, it is recommended that you strictly comply to [principles of least privilege](#). You can authorize the user to perform restricted operations (such as only authorize read operations) and access only the resources with specified prefix, to avoid data security risks due to excessive permissions and operations that you don't mean to authorize.

Effect *

☐ Allow

☒ Deny

User *

User Type	Account ID	Operation
Add User		

Resource *

☒ The whole bucket

☐ Specific resources

Resource path *

examplebucket-1251****

Operation *

Action Name	Operation
<div>GetBucket</div>	Delete
Add Action	

Condition

Name	Operator	Value ⓘ	Operation
Add Condition			

OK

Cancel

方法2：

Policy権限設定項目を見つけ、**ポリシー構文 > 編集**をクリックし、次の表現を入力します。

```
{
  "Statement": [
    {
      "Action": [
        "name/cos:GetBucket",
        "name/cos:GetBucketObjectVersions"
      ],
      "Effect": "Deny",
      "Principal": {
        "qcs": [
          "qcs::cam::anyone:anyone"
        ]
      },
      "Resource": [
        "qcs::cos:ap-beijing:uid/1250000000:examplebucket-1250000000/*"
      ]
    }
  ],
  "version": "2.0"
}
```

注意：

`qcs::cos:ap-beijing:uid/1250000000:examplebucket-1250000000/*` 中の関連情報を次のように置き換えてください。

- “ap-beijing”をご自身のバケットの所在リージョンに置き換えます。
- “1250000000”をご自身のAPPID情報に置き換えます。
- “examplebucket-1250000000”をご自身のバケット名に置き換えます。

このうち、APPIDはバケット名の後半部分です。バケット名は[COSコンソール](#)で確認できます。

COSのACL制限はバケットとアカウントのどちらに対してのものですか。ファイルをアップロードする際に権限を指定することはできますか。

ACLはアカウントに対する制限です。ファイルレベルのACLまたはPolicyの使用はお勧めしません。APIまたはSDKを呼び出す際、ファイルに対して特別なACL制御を必要としない場合は、ACLの関連パラメータ（x-cos-acl、ACLなど）を空にし、バケットの権限をそのまま継承してください。

コラボレーターに対し指定のバケットへのアクセス権限を承認するにはどうすればよいですか。

コラボレーターアカウントは一種の特殊なサブアカウントです。詳細については、[アクセスポリシーの言語概要](#)をご参照ください。

複数の業務でバケットを操作する必要がありますが、バケットまたはその他の次元で権限を分離することはできますか。

[CAMコンソール](#)にログインし、ユーザー管理ページに進み、業務ごとにサブアカウントを有効化し、それぞれに権限を付与する操作を行うことができます。

子会社または従業員のサブアカウントを作成し、特定のバケットへのアクセス権限を承認するにはどうすればよいですか。

詳細については、[サブアカウントのCOSアクセス権限の承認](#)を参照し、サブアカウントを作成して権限承認を行ってください。

特定のサブアカウントに対し、あるバケットの操作権限のみを承認するにはどうすればよいですか。

サブアカウントに対し特定のバケットの操作権限のみを持たせたい場合は、ルートアカウントよりサブアカウントにバケットポリシーを追加することができます。詳細については、[バケットポリシーの追加](#)をご参照ください。

Ranger認証に関するよくあるご質問

詳細については、[Ranger認証に関するよくあるご質問](#)をご参照ください。

その他の問題

COSのリソースアクセスに異常が発生しましたが、どのように対処すればよいですか。

[リソースアクセス異常](#)のドキュメントを参照し、トラブルシューティングを行ってください。

CDNドメイン名を使用したCOSへのアクセス時にHTTP ERROR 403が返される場合は、どのように対処すればよいですか。

CDNアクセラレーションドメイン名が無効になっているために起こった可能性があります。[CDNドメイン名を使用したCOSへのアクセス時にHTTP ERROR 403が返される](#)のドキュメントを参照して対処してください。

CDNドメイン名を使用してCOSにアクセスすると旧ファイルにアクセスしてしまいます。どのように対処すればよいですか。

キャッシュの存在が原因の可能性があります。[同一リンクからアクセスしたファイルの異常](#)のドキュメントを参照し、更新操作を行ってください。

フロントエンド業務がCDNと一時キー方式によってCOSのコンテンツにアクセスすることは可能ですか。

COSにプライベート読み取り/書き込み権限が設定されている状況で、CDNがオリジンサーバーをCOSに戻す際の認証を実現したい場合は、[CDNのback to origin認証](#)をご参照ください。

データ処理に関するご質問 関数の計算

最終更新日：：2022-04-26 17:04:35

COSはファイル解凍をサポートしていますか。

ファイル解凍機能はTencent CloudのCloud Object Storage（COS）が[Serverless Cloud Function（SCF）](#)をベースにして提供するデータ処理ソリューションです。詳細については、[ファイル解凍設定](#)をご参照ください。

COSのファイル解凍機能は第2階層ディレクトリ下の圧縮ファイルの解凍をサポートしていますか。

現在のファイル解凍機能では、第2階層ディレクトリ下の圧縮パッケージを解凍することはできません。このケースはご自身で関数のロジックを調整することで実現できます。

COSはアップロード時のファイル自動圧縮をサポートしていますか。

サポートしません。

COSはCDNの自動更新設定をサポートしていますか。

[Serverless Cloud Function（SCF）](#)によって自動更新を設定できます。詳細については、[CDNキャッシュ更新の設定](#)をご参照ください。

クラウドデータベースのデータをCOSにバックアップすることは可能ですか。

[Serverless Cloud Function（SCF）](#)によってデータベースバックアップ機能を設定することができます。ユーザーが指定のバケット内にバックアップ関数ルールを設定すると、SCFはデータベースバックアップファイルを定期的にスキャンし、ファイルをバケット内に転送して保存します。詳細については、[クラウドデータベースバックアップの設定](#)をご参照ください。

データセキュリティに関するご質問

最終更新日：2023-01-06 16:33:02

バージョン管理に関するご質問

誤って削除したデータを元に戻すことはできますか。

人為的に誤って削除されたファイルの復元は現時点ではサポートしていません。バケットのバージョン管理機能を有効にすると、バケット内にオブジェクトの複数のバージョンを保存でき、なおかつ指定したバージョンのオブジェクトを検索、削除または復元できるようになります。ユーザーが誤って削除したデータや、アプリケーションプログラムの障害によって消失したデータの回復に役立ちます。詳細については、[バージョン管理の設定](#)をご参照ください。

COSではデータ障害復旧の問題をどのように解決していますか。

COSは次の方法で障害復旧を実現できます。

1. [バージョン管理](#)を有効にします。バージョン管理は同一のバケット内に同一オブジェクトの複数のバージョンを保存するために用いられます。バージョン管理の設定方法については、[バージョン管理の設定](#)をご参照ください。
2. [バケットのコピー](#)を使用してリモートディザスタリカバリを実現できます。詳細については、[バケットコピーの設定](#)をご参照ください。
3. [マルチAZの特性](#)を使用することで、マルチAZストレージアーキテクチャによってユーザーデータにデータセンターレベルの障害復旧機能を提供することが可能です。

説明：

1. COSのマルチAZ特性は現時点では広州、上海、北京リージョンでのみサポートしています。その他のパブリッククラウドリージョンでも順次サポート予定です。
2. COSのマルチAZ特性を使用する場合、ストレージ容量料金が相対的に高くなります。詳細については、[製品価格](#)をご参照ください。

COSバケットでバージョン管理を有効にした後、過去のバージョンのデータを削除するにはどうすればよいですか。

過去のバージョンのファイルを削除するには、[ライフサイクルの設定](#)で過去バージョンオブジェクト管理オプションを有効にすることで、過去のバージョンのオブジェクトを移行または削除することができます。

COSで同名のファイルをアップロードしても上書きされないように設定することは可能ですか。

COSで同名のファイルをアップロードすると、デフォルトでは上書きされます。バケットの[バージョン管理機能](#)を有効にすると、バケット内にオブジェクトの複数のバージョンを保存できるようになります。バージョン管理に関するその他の説明については、[バージョン管理の概要](#)をご参照ください。

COSで指定したバージョンのファイルをダウンロードするにはどうすればよいですか。

APIインターフェースまたはSDKを使用してファイルをダウンロードする場合は、リクエストパラメータversionIdを追加することで実現できます。APIの詳細な操作については、[GET Object](#)のドキュメントをご確認ください。

コンソールからファイルをダウンロードする場合は、上部のナビゲーションバーで過去のバージョンのステータスを[表示する](#)に設定すると、必要なファイルをダウンロードすることができます。

COSで過去のバージョンのファイルを一括削除するにはどうすればよいですか。

COSBrowserツールを使用すると、バケット内の過去のバージョンのファイルをワンクリックで削除することができます。詳細については、[COSBrowserのデスクトップでの使い方](#)をご参照ください。

また、[ライフサイクルポリシーの設定](#)によって実現することもできます。ライフサイクルポリシーを設定する際は、現在のバージョンのファイル管理を無効にし、過去のバージョンのファイル管理を有効にし、ファイルを変更から1日後に削除するよう設定します。

地域間コピーに関するご質問

COSで地域間コピーを有効にした場合、コピーする際に使用するのはプライベートネットワークとパブリックネットワークのどちらですか。

COSの地域間コピー機能はデフォルトでプライベートネットワークを使用してコピーを行います。

説明：

地域間コピー機能を使用すると、それに応じた地域間コピートラフィック料金が発生します。現時点では対応するリソースパックはなく、発生した料金は翌日0時に決済され、アカウント残高から差し引かれます。

2つのリージョンのCOSリソースを同期することは可能ですか。

同一アカウントの2つのリージョンのCOSリソースを、地域間コピー機能によって増分コピーすることが可能です。詳細については、[地域間コピーの設定](#)をご参照ください。

あるアカウントのCOSリソースを別のアカウントのCOSにすばやく移行（またはコピー）するにはどうすればよいですか。

データマイグレーションについては、COSMigrationツールによってバケット間の移行が実現できます。[COS Migrationツール](#)をご参照ください。あるいは地域間コピーを設定することでバケット間のリソースコピーを実現す

ることもできます。[バケットコピーの設定](#)をご参照ください。

地域間コピー機能は既存データのコピーをサポートしていますか。

地域間コピー機能は既存データのコピーをサポートしていません。既存データをコピーしたい場合は、[バッチ処理](#)のドキュメントを参照し、既存データの一括コピーを行うことができます。

バケットのコピー機能を有効にすると、ソースバケットでファイルを削除した場合、ターゲットバケットで操作が同期されますか。

バケットのコピー機能を有効にしたソースバケットにおいて、COSは次のコンテンツをコピーします。

- ・バケットコピールールを追加した後に、ユーザーがソースバケットに新たにアップロードしたあらゆるオブジェクト。
- ・オブジェクトのメタデータおよびバージョンIDなどのオブジェクトの属性情報。
- ・オブジェクトの操作に関する情報。新たに追加された同名のオブジェクト（新規追加オブジェクト）、削除されたオブジェクトなど。

説明：

- ・ソースバケット内で特定のオブジェクトのバージョンを削除するよう指定（バージョンIDを指定）した場合、その操作はコピーされません。
- ・ソースバケットに、例えばライフサイクルルールのような、バケットレベルの設定を追加している場合、これらの設定によって発生したオブジェクトの操作もターゲットバケットにはコピーされません。

その他の説明については、ドキュメント[コピーアクションの説明](#)をご参照ください。

データ暗号化に関するご質問

COSはファイルの暗号化をサポートしていますか。

COSはバケットの暗号化、オブジェクトの暗号化などのファイル暗号化方式をサポートしています。バケット暗号化の操作ガイドについては[バケット暗号化の設定](#)のドキュメントを、オブジェクトの暗号化については[オブジェクト暗号化の設定](#)のドキュメントをそれぞれご参照ください。

COSファイルの暗号化はパフォーマンスに影響しますか。

ファイルの暗号化には、お客様側のキー、またはCOSホスティングキー、またはKMSキーを使用してファイルの内容を暗号文にすることが必要です。そのためある程度のパフォーマンスロスが発生し、それは主にアクセス遅延

の増加として表れます。この遅延の増加は大容量ファイルの読み取り/書き込みではあまり目立ちませんが、小容量ファイルの読み取り/書き込みにはある程度の影響を及ぼします。

暗号化されたファイルを取得するにはどうすればよいですか。

ファイルがすでに暗号化されている場合、ファイルを取得するには、ファイルを読み取る際に暗号化ヘッダーを挿入する必要があります。暗号化ヘッダーは暗号化アルゴリズムによって異なります。具体的な説明は、[サーバーの暗号化ヘッダー](#)をご参照ください。

コンテンツセキュリティに関するご質問

私のCOS内から不正なファイルが発見されたのはなぜですか。

データをCOSに保存し、かつデータのアクセス権限がパブリック読み取り権限である場合、これらのデータにパブリックネットワークからアクセスし伝送する場合、関連する法律および法令の要件に準拠する必要があります。これらのデータ内のコンテンツが法律や規則に違反していることが判明した場合、Tencent Cloudコンプライアンスチームはそれを処理します。処理後のファイルはCOSコンソールの[違反リスト](#)に表示されます。

COSのコンテンツ審査機能を有効にしても違反通知が来るのはなぜですか。

次のいくつかの原因が考えられます。

1. コンテンツ審査機能が正しく設定されていない場合です。例えば次のような可能性があります。
 - 自動凍結を設定していない、または審査による違反結果に対し速やかにデータの処理（ファイルの削除など）を行っていない。
 - 設定したデータ凍結スコアが高すぎるため、スコアが比較的低い違反ファイルが凍結にまで至らない。
 - 一部の違反画像が過去の画像であり、審査されていない。過去データ全体に対し一度審査を行い、バケット全体のクリーンアップを行うことをお勧めします。
2. 審査の設定は正しく行われているのに審査結果が正常となる場合は、違反データが比較的に見つかりにくいものであり、既存の審査モデルでは正しく審査できないことが原因の場合が多いです。Tencentのバックエンドでは類似の審査エラーサンプルを定期的に収集し、継続的な最適化を行っています。また、[チケット](#)を提出してご連絡いただければ、オーダーメイドの審査サービスのご提供も可能です。

その他の問題

COSの標準ストレージ、低頻度ストレージ、アーカイブストレージデータにはすべてバックアップがありますか。

COSのデータはマルチレプリカまたはイレージャーコーディング方式によって下層で保存されます。分散型ストレージエンジンが1つのリージョンの複数のアベイラビリティゾーンに分散することで、**99.999999999%**の信頼性を実現します。マルチレプリカおよびイレージャーコーディングストレージは下層のロジックのため、ユーザーには見えません。

SDKクラスに関するご質問

最終更新日：2023-03-14 15:17:20

SDKに関する一般的なご質問

指定のファイルストリームまたはファイルハンドラ方式によってアップロードを行うと、実際にアップロードされたコンテンツが分割されたり、サイズが0になったりしますが、どのように対処すればよいですか。

ファイルストリームまたはファイルハンドラ等の方式を使用してアップロードする場合、それらのストリームまたはハンドラには通常、オフセットポインタが含まれます。COSによってアップロードを行う前にこれらのストリームまたはハンドラを使用した場合、そのオフセットポインタはファイルの開始位置を指していない可能性があります。SDKはアップロードの際にデフォルトでこのオフセットポインタの位置からコンテンツを読み取るため、コンテンツが分割されたり、空ファイルがそのままアップロードされたりする可能性があります。オフセットをチェックし、必要に応じてオフセットポインタを開始位置に合わせることをお勧めします。

アップロード完了後にファイルのURLを取得するにはどうすればよいですか。

COSのオブジェクトアクセスアドレス（ファイルURL）を、固定された形式を使用してスプライシングします。さらに詳しくお知りになりたい場合は、[オブジェクトの概要- オブジェクトアクセスアドレス](#)をご参照ください。

ファイルをアップロードする際に「一時キーの期限切れ」エラーが発生しましたが、どのように対処すればよいですか。

次の手順に従って、トラブルシューティングを実施してください。

1. 現在の実行プログラムのマシン時刻が正確かどうかをチェックし、もし正確でなければ、マシン時刻を正確な時刻に修正してください。
2. 設定した有効期限（expirationDate）が現在の時刻より前の場合は、現在時刻が有効期限を過ぎると署名が期限切れとなるため、有効期限を変更して一時キーを再度生成する必要があります。
3. iOS SDKは初期化の際にQCloudSignatureProviderとQCloudCredentialFenceQueueDelegateという2つのプロトコルを使用します。一方、QCloudCredentialFenceQueueのスキュアールディングは、一時キーに対しキャッシュと再利用を行うため、credentialFenceQueueインスタンスを再度初期化してキャッシュを更新することで、期限切れの一時キーの使用を避けることができます。詳細なガイドについては、[iOS SDKによるCOSサービスインスタンスの作成](#)をご参照ください。

ファイルのアップロードが成功したことを確認するにはどうすればよいですか。

COS内の各オブジェクトにはそれぞれにEtag値が対応しており、ファイルのアップロードに成功すると、StringタイプのEtag値が返されます。アップロード成功後に返されるEtagはNULLではないため、判断条件を追加すること

で、ファイルのアップロードが成功したかどうかを確認することができます。

リンク不正アクセス防止を設定していますが、Appでリンク不正アクセス防止設定済みのオブジェクトをリクエストするにはどうすればよいですか。

リクエスト送信時に指定のrefererを含むHeaderを追加することで、オブジェクトを正常にリクエストすることができます。

署名付きリンクを生成するとネットワークリクエストおよび料金が発生しますか。遅延は発生しますか。

署名付きリンクの生成はローカルロジックであり、ネットワークリクエストは発生しません。そのため、余計なネットワーク遅延は発生せず、追加料金が発生することはありません。署名付きリンクを取得する必要がある場合は、いつでもSDKのインターフェースを呼び出して生成することができます。

COSの署名付きURLをカスタムドメイン名のURLにするにはどうすればよいですか。

署名付きURLのメソッドは固定されたデフォルトのドメイン名となります。ご自身でエンコードを行って切り替える必要があります。

COS SDKでディレクトリを作成するにはどうすればよいですか。

COSのディレクトリは仮想ディレクトリであり、実際には/で終わる1つのオブジェクトです。オブジェクトアップロードインターフェースを呼び出し、/で終わるオブジェクトキーを作成してディレクトリとすることができます。[ミニプログラムSDKによるディレクトリ作成の例](#)をご参照ください。

COS SDKを使用してObjectListを取得すると、プレフィックスルールとデータ構造が同じでも異なる結果が返されてしまいます。

COSはユーザーの使用上の習慣に沿って、**コンソール**、**COSbrowser**などのグラフィックツールで「フォルダ」または「ディレクトリ」という表示方法を疑似的に再現しています。具体的には、キー値がproject/、内容が空のオブジェクトを作成することで、従来のフォルダを模した表示方法を実現します。このため、SDKによって取得するObjectListには、オブジェクト名が「/」で終わる空のオブジェクトが含まれる場合があります。

SDKに関するよくあるご質問

- [Android SDKに関するよくあるご質問](#)
- [C SDKに関するよくあるご質問](#)
- [.NET \(C#\) SDKに関するよくあるご質問](#)
- [Go SDKに関するよくあるご質問](#)
- [iOS SDKに関するよくあるご質問](#)
- [Java SDKに関するよくあるご質問](#)

- [JavaScript SDKに関するよくあるご質問](#)
- [PHP SDKに関するよくあるご質問](#)
- [Python SDKに関するよくあるご質問](#)
- [ミニプログラムSDKに関するよくあるご質問](#)

ツール類に関するご質問

COSBrowserツール

最終更新日：：2022-06-28 16:08:23

COSBrowserツールとは何ですか。

COSBrowserはTencent Cloud Object Storage (COS)がリリースした視覚化インターフェースツールです。より簡単なインタラクションの使用を可能にし、COSリソースの確認、転送および管理を手軽に実現できます。現時点でCOSBrowserはデスクトップ端末(Windows、macOS、Linux)およびモバイル端末(Android、iOS)向けにご提供しています。詳細な説明については、[COSBrowserの概要](#)をご参照ください。

COSBrowserツールをダウンロードするにはどうすればよいですか。

ダウンロードアドレスおよび使用説明については、[COSBrowserの概要](#)をご参照ください。

COSBrowserにログインするにはどうすればよいですか？

詳細な説明については、[デスクトップ端末の使用説明](#)または[モバイル端末の使用説明](#)をご参照ください。

デスクトップ端末へのログイン

COSBrowserデスクトップ端末へのログインと使用にはクラウドAPIキーしか使えません。

パラメータの説明：

1. APIキーsecretIDおよびsecretKey：CAMコンソールの[APIキー管理](#)ページにアクセスして取得します。ログインに成功すると、キーは履歴キーに保存されるため、次回も使用できます。
2. バケット/アクセスパス：メインアカウントでログインする場合は入力しないことができますが、サブアカウントでログインする場合は許可されたパスを入力してください。例：`example-1250000000/test/`。

注意：

COSBrowserは、プロジェクトキーでのログインをサポートしていません。

モバイル端末へのログイン

COSBrowserモバイル端末では、次の3つのログイン方法がサポートされています。

- **WeChatクイックログイン**：WeChatで作成または関連付けられたTencent Cloudアカウントから、WeChatクイックログインを使用してCOSBrowserに素早くログインすることができます。

- **メールボックスログイン**：メールボックスから作成され、または指定のメールボックスに関連付けられた Tencent Cloud アカウントは、メールボックスアカウントとパスワードを入力することでログインできます。
- **キーによる永続的なログイン**：ユーザーは、クラウド API キー SecretId および SecretKey（プロジェクトキーはサポートされていません）を使用してログインできます。このキーは、CAM コンソールの [API キー管理](#) ページにアクセスして取得できます。ログイン後は、このアカウントのログイン状態が永続的に維持されます。

説明：

- ユーザーの Tencent Cloud アカウントが QQ アカウントのために作成された場合、WeChat のショートカット ログイン方式を使用してログインすることができ、ジャンプする WeChat ミニプログラム画面で「QQ ログイン」を選択してください。
- サブアカウントのユーザーはキーまたは WeChat のショートカット ログイン方式を使ってログインでき、WeChat ログインを選択するにはジャンプする WeChat のミニプログラム画面でサブアカウントを選択してください。

詳細については、[COSBrowser の概要](#)をご参照ください。

サブアカウントで COSBrowser にログインすると、ストレージパスが表示されないのはなぜですか。

1. サブアカウントに COS アクセスに関する権限があるかどうか確認してください。関連ドキュメントは [サブアカウントの COS アクセス権限の承認](#) をご参照ください。
2. サブアカウントに特定のバケットまたはバケット内の特定のディレクトリの権限のみが設定されている場合は、サブアカウントで COSBrowser ツールにログインする際、ストレージパスの追加とバケットの所在リージョンの選択を手動で行う必要があります。ストレージパスの形式は Bucket または Bucket/Object-prefix で、例

例えばexamplebucket-1250000000のようになります。

Key Login

[Advanced Setting >](#)

SecretID

AKID7wXsRnJIAI8G7

SecretKey

.....

Buckets/Access Path ⓘ

examplebucket-1250000000/

Region

ap-chengdu ▼

Remark

Not required, Add remark

Login

[Get SecretKey](#) [History key](#) [Local Logs](#)

COSBrowserツールは一時キーを使用したログインをサポートしていますか？

一時キーログインはサポートされていません。

COSBrowserツール体験版へどのようにアクセスしますか？

体験に関する注意事項

アプリケーション体験のルール：

- アプリの体験版に入ると、COSBrowserが自動的に一時アカウントを生成してログインします。一時アカウントは使い捨てで、ログアウトすると自動的に削除してすべてのデータを消去します。
- 一時的なアカウントの有効期限は24時間ですが、有効期限が切れた後も体験を続ける場合は、このページから再度体験をクリックしてください。

アプリケーション体験の制限：

体験版では、ファイルのアップロード、ファイルのダウンロード、リンクの共有など、基本的なデータ管理機能のみを提供しています。その他の機能については、個人アカウントでログインしてください。詳細については、[COSBrowser クイックスタート](#)のドキュメントをご参照ください。

CentOSのグラフィックインターフェースではダブルクリックしてもCOSBrowserのクライアントが起動しません。

端末で `./cosbrowser.AppImage --no-sandbox` コマンドを実行するとクライアントを起動することができます。

COSBrowserツールをインストールするためのシステム要件はありますか？

現在、COSBrowserにはデスクトップ端末とモバイル端末の2種類があります：

デスクトップ端末

- **Windowsシステム要件：**Windows 7 32/64ビット以上、Windows Server 2008 R2 64ビット以上
- **macOSシステム要件：**macOS 10.13以上
- **Linuxシステム要件：**グラフィカルインターフェースとAppImage形式のサポートが必要です

モバイル端末

- **Androidシステム要件：**Android 4.4以上
- **iOSシステム要件：**iOS 11以上

ダウンロードアドレスと詳細については、[COSBrowserダウンロードアドレス](#)をご参照ください。

COSBrowserファイル同期機能

COSBrowserデスクトップ版の**ファイル同期機能**を使用すると、指定したローカルフォルダのファイルを自動的にリアルタイムでバケットにアップロードできます。詳細については、[デスクトップ端末の使用方法](#)のファイル同期機能をご参照ください。

COSBrowserのファイルリストプレビューを一度にすべて表示できますか？

COSBrowserでは、すべてのファイルの直接プレビューがサポートされていません。

COSBrowserモバイル端末にバケットリストをなぜ3つしか表示しないのですか？

COSBrowserのモバイル端末の一覧ページには、デフォルトで3つのバケットリストが表示されていますが、この一覧ページを下にスクロールして、さらにバケットリストを表示することができます。

COSBrowserツールは、低頻度ストレージタイプのオブジェクトを直接アップロードできますか？

COSBrowserはデフォルトで標準ストレージタイプとしてアップロードされ、オブジェクトのアップロード時にストレージタイプとアクセス権を手動で選択できます。

大量のファイルがある場合に転送速度を上げるにはどうすればよいですか。

Windows版のCOSBrowserツールを例にとると、高度な設定に進み、アップロード、ダウンロードファイルの同時実行数とパート数を調整することで転送速度を上げることができます。

COSBrowserでファイルのリンクをコピーするにはどうすればいいですか？

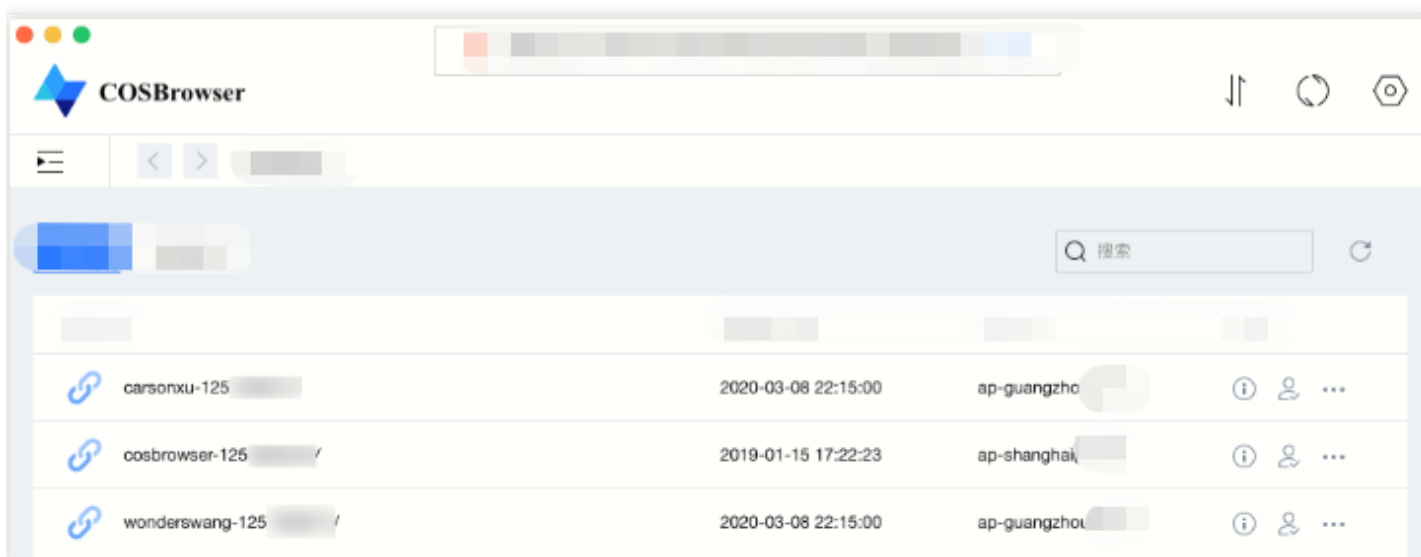
次の方法でファイルリンクをコピーします。

1. ファイルのリストからファイルを選択し、「リンクのコピー」を右クリックして「リンクのコピーをカスタマイズ」ウィンドウを開きます。
2. ファイルのリストで「詳細」をクリックして「ファイル詳細」ウィンドウを開き、「オブジェクトアドレス」を直接コピーするか、または「一時リンクを作成」します。

説明：

- ファイルがパブリック読み取り権限を持っている場合、アクセスのために、署名なしのリンクである「オブジェクトアドレス」を使用でき、オブジェクトアドレスは永続的に有効になります。
- ファイルがプライベート読み取り権限を持っている場合、アクセスのために、署名付きリンクを使用する必要があります。「リンクのコピーをカスタマイズ」ウィンドウでリンクの有効期間をカスタマイズできます。デフォルトの有効期間は2時間です。

システムがmacOSですが、COSBrowserで「更新に失敗しました。権限が拒否されました」という表示がポップアップしました。どのように対処すればよいですか。



エラーの原因

/Users/username/Library/Caches/ ディレクトリに、com.tencent.cosbrowser およ

び `com.tencent.cosbrowser.ShipIt` という2つのファイルがあります。これらのファイルの所有者がそれぞれrootユーザーとuserユーザーになっている場合、権限の問題によって更新に失敗したと考えられます。

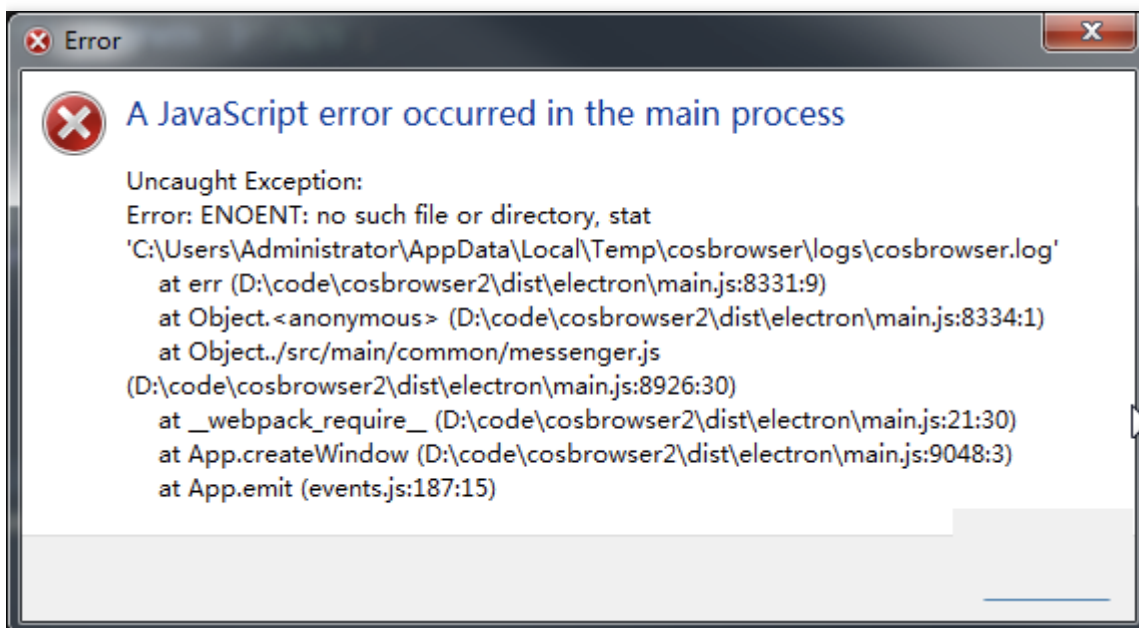
解決方法

Mac端末で次のコマンドラインを実行します。

```
sudo chown $USER ~/Library/Caches/com.tencent.cosbrowser.ShipIt/
```

エラー “no such file or directory, stat

`'C:\Users\XXX\AppData\Local\Temp\cosbrowser\logs\cosbrowser.log'`がポップアップし、アプリケーションも使用できないのですが、どうすればよいですか。



解決方法：バージョン2.1.x以上のバージョンをダウンロードすることをお勧めします。

cosbrowser.exeインストールパッケージの実行中にインストールが中止されましたが、どうすればよいですか？

エラーの原因

以前にCOSBrowserをインストールしたことがあり、システム内にこのアプリケーションが存在し、その後アプリケーションを手動で削除したがシステムトレースを消去していなかったため、再度インストールを実行した際にプログラムがトレースを発見し、実際にはアプリケーションが存在しないのにインストールを中止したことが原因です。

対処方法

COSBrowserアプリケーションのインストールトレースを手動で消去するか、またはクリーンアップツール（例えばTencent Securityのソフトウェア管理など）を使用してアンインストールと消去を行います。

COSBrowserツールがファイルリストに入ったときに、ドメイン名解決エラーが表示されました。 どうすればよいですか？

このエラーはドメイン名解決の問題です。ローカルネットワークではCOSドメイン名を解決できない場合があります。ローカルDNSを114.114.114.114などのパブリックDNSに変更して再試行するか、ネットワーク環境を変更してテストすることをお勧めします。

COS Migration ツール

最終更新日：2023-01-06 16:31:20

マイグレーションツールが途中で異常終了した場合はどうすればよいですか。

ツールはアップロード時の中断からの再開をサポートしています。大容量ファイルについては、途中で終了した場合やサービスの障害があった場合、ツールを再実行して、アップロードが完了していないファイルのアップロードを再開することができます。

移行に成功したファイルについて、ユーザーがコンソールまたはその他の方法でCOS上のファイルを削除した場合、マイグレーションツールはこれらのファイルを再アップロードしますか。

しません。その理由は、移行に成功したファイルはすべてdbに記録され、マイグレーションツールの実行前にdbディレクトリをスキャンして、記録があるファイルについては再アップロードを行わないためです。具体的な理由については、[移行のメカニズムとフロー](#)をご参照ください。

移行に失敗し、ログに403 Access Denyと表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

キー情報、Bucket情報、Region情報が正しいかどうか、なおかつ操作権限があるかどうかを確認してください。サブアカウントの場合は、親アカウントから対応する権限の承認を受けてください。ローカルからの移行および他のクラウドストレージからの移行の場合は、Bucketに対するデータ書き込みおよび読み取り権限が必要です。Bucket copyの場合は、ソースBucketに対するデータ読み取り権限も必要です。

他のクラウドストレージからCOSへの移行に失敗し、Read timed outと表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

一般的に、このような失敗はネットワーク帯域幅の不足により、他のクラウドストレージからのデータダウンロードがタイムアウトとなることによるものです。例えば、AWSの海外データをCOSに移行する場合、データをローカルにダウンロードする際に、帯域幅能力の不足により高遅延となり、read time outが発生する場合があります。このため、対処方法としてはマシンのネットワーク帯域幅能力を増強することになります。移行の前にwgetを使用してダウンロード速度のテストを行うことをお勧めします。

移行に失敗し、ログに503 Slow Downと表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

これは頻度制御がトリガーされたことによるものです。COSは現時点で1つのアカウントに対し毎秒30000QPSの操作制限を行っています。小・中容量ファイルの同時実行数を低く設定しなおすことをお勧めします。その上でツールを再実行すると、失敗したものを再実行することができます。

移行に失敗し、ログに404 NoSuchBucketと表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

キー情報、Bucket情報、Region情報が正しいかどうか確認してください。

動作異常が発生し、次のようなメッセージが表示されましたが、どうすればよいですか。

```
Exception in thread "main" java.lang.ExceptionInInitializerError
    at org.rocksdb.RocksDB.loadLibrary(RocksDB.java:64)
    at org.rocksdb.RocksDB.<clinit>(RocksDB.java:35)
    at org.rocksdb.Options.<clinit>(Options.java:25)
    at com.qcloud.cos_migrate_tool.record.RecordDb.init(RecordDb.java:43)
    at com.qcloud.cos_migrate_tool.task.TaskExecutor.initRecord(TaskExecutor.java:94)
    at com.qcloud.cos_migrate_tool.task.TaskExecutor.run(TaskExecutor.java:146)
    at com.qcloud.cos_migrate_tool.app.App.main(App.java:60)
Caused by: java.lang.UnsupportedOperationException: Cannot determine JNI library name for ARCH='x86' OS='windows 10' name='rocksdb'
    at org.rocksdb.util.Environment.getJniLibraryName(Environment.java:78)
    at org.rocksdb.NativeLibraryLoader.<clinit>(NativeLibraryLoader.java:19)
    ... 7 more
```

この問題は、ツールがrocksdbを使用しているために発生したものです。64ビットのJDKを使用する場合は、JDKのバージョンがX64のJDKかどうかをチェックしてください。

Windows環境下でrocksdbのjniライブラリが見つからないと表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

Windows環境下では、ツールはMicrosoft Visual Studio 2015環境下でコンパイルする必要があります。上記のエラーが発生した場合は、[Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2015](#)をインストールする必要があります。

ログレベルを変更するにはどうすればよいですか。

ファイルsrc/main/resources/log4j.propertiesを変更し、log4j.rootLoggerの値に、DEBUG、INFO、ERRORなどの対応するログレベルのものをコピーします。

Linux環境下で、/tmp/librocksdbjnixxx.so: ELF file OS ABI invalidというエラーが発生しましたが、どのように対処すればよいですか。

Linux環境下では、ツールはIFUNCのサポートが必要です。実行環境のbinutilsのバージョンをチェックし、2.20以降のバージョンであることを確認してください。

タスクの実行が完了していない状態で、error.logにjavaの異常"java.nio.file.FileSystemLoopException"が存在する場合はどのように対処すればよいですか。

error.logの異常情報は次のようなものです。

```
2022-XX-XX XX:XX:XX [ERROR] [main:xxx] [com.qcloud.cos_migrate_tool.task.MigrateLocalTaskExecutor:] [MigrateLocalTaskExecutor.java:183]
walk file tree error
java.nio.file.FileSystemLoopException: /dataseal/xx1/file1
at java.nio.file.FileTreeWalker.visit(FileTreeWalker.java:294)
at java.nio.file.FileTreeWalker.next(FileTreeWalker.java:372)
at java.nio.file.Files.walkFileTree(Files.java:2706)
at com.qcloud.cos_migrate_tool.task.MigrateLocalTaskExecutor.buildTask(MigrateLocalTaskExecutor.java:183)
```

```
alTaskExecutor.java:176)
at com.qcloud.cos_migrate_tool.task.TaskExecutor.run(TaskExecutor.java:244)
at com.qcloud.cos_migrate_tool.app.App.main(App.java:135)
```

移行対象のファイル"/dataseal/xx1/file1"が1つのソフトリンクであり、その親ディレクトリ内のリソースを指していることが原因の可能性があります。次のコマンドで確認できます

```
[root@TENCENT64 /dataseal/cos_migrate_tool_v5-master/log]# ll /dataseal/xx1/file1
lrwxrwxrwx 1 xx xx xx xx x xxxx /dataseal/xx1/file1 -> ../xx1/
```

上記のように、ソフトリンクファイル"/dataseal/xx1/file1"が親ディレクトリ内の"/dataseal/xx1/"を指している場合、トラバーサルが無限ループに陥り、移行タスクが自動的に中止します。

この種のファイルを事前に削除しておくことをお勧めします（注意：設定項目「**excludes**」でこの種のファイルを除外する方法は無効です）。

そのほかに問題がありましたら、マイグレーションツールの再実行を試してください。それでも失敗する場合は、設定情報（キー情報は隠してください）とログディレクトリをパッケージングし、[お問い合わせ](#)ください。

COSCMDツール

最終更新日：2022-07-07 15:34:19

COSCMDツールが使用できないのですが、どのように操作すればよいですか。

次の質問の条件をすべて満たしているかどうかをご確認ください。

1. OSはWindows、Linux、macOSシステムですか。
2. ローカル文字形式はUTF-8ですか。UTF-8でない場合、中国語版ファイルの操作に異常が生じる場合があります。
3. マシン時刻を国際標準時に合わせていますか。誤差が大きすぎると正常に使用できなくなります。

その他の詳細については、[COSCMDツール](#)をご参照ください。

COSCMDツールは正規表現をサポートしていますか。

サポートしません。

COSCMDツールを使用して、大文字を含むバケットの作成に成功しましたが、その他の操作を行う際に大文字を使用するとエラーが発生しました。

COSCMDツールは大文字を自動的に小文字に変換しています。バケット名は小文字アルファベット、数字、ダッシュおよびそれらの組み合わせのみをサポートしており、文字数は最大50文字までです。その他の制限情報については、[仕様と制限](#)のドキュメントをご参照ください。

COSCMDツールを使用してルートディレクトリファイルをアップロード/ダウンロードする場合、特定のディレクトリを除外することはできますか。

できます。 `--ignore /folder/*` パラメータを使用する必要があります。

例えば、`folder`ディレクトリを除外する場合は、`coscmd download --ignore /folder/*` コマンドを使用してフィルタリングすることができます。あるタイプの拡張子を見捨てる場合は、最後に `,` を入力するか、`"` を加える必要があります。

大量のファイルを転送したい場合、転送速度を上げるにはどうすればよいですか。

`MAX_THREAD`パラメータ値を適宜調整することができます。デフォルトでは5に設定されています。スレッド数はマシン性能によって異なりますが、通常は30に設定すると、帯域幅をフルに使用することができます。例えば、同時実行スレッド数を30に調整し、コマンドラインで次のように実行します。

```
coscmd config -m 30
```

COSCMDツールは*番号を使用して特定のプレフィックスのオブジェクトをダウンロードすることができますか。

できません。次のコマンド形式に従ってダウンロードする必要があります。

```
coscmd download prefix/ localpath/ -r
```

COSCMD listはファイルのアップロード時間ごとにファイルをリストアップすることができますか。

ファイルのアップロード時間ごとにファイルをリストアップすることはできません。指定のプレフィックスによってリストアップすることは可能です。詳細については、[COSCMDツールのドキュメント](#)をご参照ください。

COSCMDは異なるアカウントのバケットを同時に管理することができますか。

cos.conf設定ファイルを使用して設定できるのは1つのアカウントのバケットのみです。異なるアカウントのバケットを管理したい場合は、次のコマンドを参照して設定を切り替えてから管理操作を行うことができます。

```
coscmd config -a SecretID -s SecretKey -b BucketName-APPID -r region
```

SecretIDとSecretKeyは[CAMコンソール](#)から取得できます。BucketName-APPIDはバケット名、regionはバケットの所在リージョンです。

COSCMDは設定ファイル内で複数のbucketを指定することができますか。

COSCMD設定ファイルは1つのbucketの操作のみをサポートしています。異なるバケットに対して操作を実行する必要がある場合は、COSCMDコマンドでバケット名と所属リージョンを指定することができます。

- `-b <bucketname-appid>` パラメータでバケット名を指定します。バケットの命名形式はBucketName-APPIDです。ここに入力するバケット名は、この形式でなければなりません。
- `-r <region>` でRegionを指定すると、バケットの所属リージョンを指定することができます。

COSCMDはファイルのアップロードの際にリネームのチェックをサポートしていますか。

COSCMDを使用して同名のファイルをアップロードすると、古い同名のファイルは上書きされます。同名のファイルが存在するかどうかをチェックする機能はサポートしていません。

COSCMDツールを使用して大量のファイルを転送する場合、転送速度を上げるにはどうすればよいですか。

MAX_THREADパラメータ値を適宜調整することができます。デフォルトでは5に設定されています。スレッド数はマシン性能によって異なりますが、通常は30に設定すると、帯域幅をフルに使用することができます。例えば、同時実行スレッド数を30に調整し、コマンドラインで次のように実行します。

```
coscmd config -m 30
```

COSCMDツールを使用してファイルをアップロードする場合、ファイル内容の検証は行われますか。

内容の検証は行いません。デフォルトでは上書きでアップロードします。すでに存在するファイルをスキップしたい場合は`-rs`パラメータを追加する必要があります。

COSCMDでファイルをアップロードする場合、すでに存在するファイルをスキップするにはどうすればよいですか。

COSCMDでのアップロードの際に`-rs`パラメータを追加すると、md5の同一のファイルをスキップします。詳細については、[COSCMDツールドキュメントのフォルダのアップロード](#)の例をご参照ください。

COSCMDツールを使用してダウンロードする際に、同一のファイルをスキップするにはどうすればよいですか。

`-s`または`--sync`パラメータを使用すると、フォルダをダウンロードする際に、すでにローカルに存在する同一ファイルをスキップすることができます（ただし、ダウンロードするファイルがCOSCMDのuploadインターフェース経由でアップロードされたもので、そのファイルに`x-cos-meta-md5`ヘッダーが含まれることが前提条件です）。完全なコマンドの例は `coscmd download -rs --skipmd5 cos_path local_path` です。

COSCMDは複数のフォルダの同時アップロードをサポートしていますか。

複数のフォルダの同時アップロードはサポートしていません。1回につき1つのフォルダのみアップロードできます。アップロードしたい複数のフォルダを1つのフォルダ内に一括保存してアップロードすることはできますが、ローカルでファイルをコピーする際に時間がかかります。

FTP Serverツール

最終更新日：2023-10-18 15:57:53

FTP機能をアクティブ化するにはどうすればよいですか。

COSはWeb方式のリクエストをサポートする永続ストレージであり、ネイティブのFTPアクセス方式はご提供していません。FTPプロトコルを使用するには中継が必要です。**Tencent Cloud公式サイトで提供するFTP Serverツール**を基に、ご自身でサービスを構築し使用することをお勧めします。

FTPプロトコルは旧式のプロトコルのため、データの完全性のチェックや伝送セキュリティの保障ができず、CAM権限システムとの連結もできないため、FTPプロトコルを使用したアクセスを継続することは強く非推奨とします。Tencent Cloudが今後FTPプロトコルおよび中継ソフトウェアをサポートすることはありません。データを同期する必要がある場合は、**COS Migrationツール**または**COSCMDツール**を直接使用することをお勧めします。

設定ファイルの中のmasquerade_addressというオプションにはどのような役割がありますか。masquerade_addressはどんなときに設定する必要がありますか。

masquerade_addressはクライアントに提供するサーバーアドレスを設定するためのものです。FTP serverをNATによってパブリックIPにマッピングされたホスト上で実行する場合は、masquerade_addressオプションを、クライアントがアクセスできるFTP ServerパブリックIPに設定することで、このIPとサーバーを使用してデータ通信を完了するようクライアントに通知することができます。

例えば、FTPサーバーを運用するマシン上で ifconfig を実行すると、パブリックネットワークにマッピングされたネットワークカードIPは10.xxx.xxx.xxxとなり、マッピングしたパブリックネットワークIPは119.xxx.xxx.xxxとみなされます。この際、FTPサーバーが明示的にmasquerade_address をパブリックネットワークIP

(119.xxx.xxx.xxx) として設定しない場合、FTPサーバーはPassiveモードでプライベートネットワークアドレス(10.xxx.xxx.xxx)を使用してクライアントにパケットを返すことがあります。この場合、クライアントはFTPサーバーに接続できますが、クライアントにデータパケットを正しく返すことができないという状況が発生します。

したがって通常は、クライアントがサーバーに接続する際に使用するIPアドレスと同じmasquerade_addressにすべて設定することをお勧めします。

masquerade_addressオプションを正しく設定すると、ftp serverには正常にログインできましたが、FTPコマンド：listまたはgetなどのデータ取得コマンドを実行すると、「サーバーがルーティングできないアドレスを返します」または「ftp: connect: No route to host」などのエラーが表示されます。どのように対処すればよいですか。

このケースの大半は、ftp serverマシンのiptablesまたはファイアウォールポリシーがすべてのICMPプロトコルパケットをrejectまたはdropしていることが原因です。一方、FTPクライアントはFTP Serverがパッシブモードで返

すデータを取得してIP接続した後、最初にICMPパケットを送信してIPの接続性を検出しようとしています。このため、クライアントには「サーバーがルーティングできないアドレスを返します」などのエラーが表示されます。

推奨する対処方法は、`iptables`ポリシーを必要に応じて、制限したいICMPパケットのタイプのみを`reject`または`drop`するように設定することです。外部のpingタイプのICMPパケットのみを禁止したい場合は、ポリシーを `iptables -A INPUT -p icmp --icmp-type 8 -s 0/0 -j [REJECT/DROP]` に変更することができます。

あるいは、アクセスが必要なftp serverのクライアントIPのみを単独で開放することもできます。

大容量ファイルをアップロードする際、途中でキャンセルしましたが、COSにアップロード済みのファイルが残っているのはなぜですか。

COSの最新バージョンに対応したFTP Serverは完全なストリーミングアップロード機能を提供しており、ユーザーのファイルアップロードがキャンセルまたは中断されると、大容量ファイルのアップロード完了操作がトリガーされるとともに、すでにアップロードされたデータを1つの完全なファイルとして構成します。ユーザーが再アップロードしたい場合は、元のファイル名に上書きしてアップロードするか、または不完全なファイルを手動で削除してから再アップロードすることができます。

アップロードしたファイルが上限を超えた場合はどうなりますか。

実際にアップロードされた単一ファイルのサイズが設定ファイルの制限を超えた場合、システムはIOErrorを返し、ログにエラー情報を表示します。

そのほかに問題がありましたら、[お問い合わせ](#)ください。その際、完全な `cos_v5.log` ログを添付していただければ、問題の調査と解決に役立ちます。

COS FTP Serverの設定において、アップロードできるファイルの上限を設定する必要があるのはなぜですか。

COSのマルチパートアップロード数は最大10000パートまでで、なおかつ各パートのサイズは1MB～5GBに制限されています。ここでアップロードファイルの最大サイズを設定するのは、1つのアップロードパートのサイズを適切に計算するためです。

FTP Serverはデフォルトでは200GB以内の単一ファイルのアップロードをサポートしていますが、ユーザーが大きすぎるサイズを設定することはお勧めしません。単一ファイルサイズの設定が大きくなるほど、アップロード時のパートのバッファもそれに応じて増大し、ユーザーのメモリリソースを浪費する可能性があるからです。このため、ご自身の実際の状況に応じて、単一ファイルサイズの制限を適切に設定することをお勧めします。

Hadoopツール

最終更新日：2023-03-14 15:17:20

使用/問い合わせに関するご質問

Hadoop-COSツールとは何ですか。

Hadoop-COSはApache Hadoop、Spark、Tezなどのビッグデータコンピューティングフレームワークの統合をサポートし、HDFSにアクセスする場合と同じように、Tencent Cloud COSに保存されたデータの読み取り/書き込みを行うことができます。また、Druidなどの照会および分析エンジンのDeep Storageとすることも可能です。

自作のHadoopでHadoop-COS jarパッケージを使用するにはどうすればよいですか。

Hadoop-COS pomファイルを変更する場合はバージョンをHadoopのバージョンと同一のままにしてコンパイルした後、Hadoop-COS jarパッケージとCOS JAVA SDK jarパッケージをhadoop/share/hadoop/common/libディレクトリ下に入れます。具体的な設定については、[Hadoopツール](#)のドキュメントをご参照ください。

Hadoop-COSツールにはごみ箱の仕組みはありますか。

HDFSのごみ箱機能はCOSには適用されません。Hadoop-COSを使用し、`hdfs fs` コマンドによってCOSデータを削除すると、データはcosn://user/\${user.name}/.Trashディレクトリ下に移動しますが、実際の削除行為は発生せず、データはCOS上に残ったままです。また、`-skipTrash` パラメータを使用してごみ箱機能をスキップし、データを直接削除することもできます。HDFSのごみ箱機能のように、データの定期的な削除という目的を実現したい場合は、オブジェクトプレフィックスが `/user/${user.name}/.Trash/` のオブジェクトに対するライフサイクルルールを設定してください。設定ガイドについては[ライフサイクルルールの設定](#)をご参照ください。

クラスCosFileSystemが見つからないことに関するご質問

ロードの際に、クラスCosFileSystemが見つからないと表示されます。Error: `java.lang.RuntimeException: java.lang.ClassNotFoundException: Class org.apache.hadoop.fs.CosFileSystem not found`と表示されます。

考えられる原因1

設定は正しくロードされているが、hadoop classpathにHadoop-COS jarパッケージの位置情報が含まれていない。

対処方法

ロードしたHadoop-COS jarパッケージをhadoop classpathに位置付けます。

考えられる原因2

設定ファイルmapred-site.xml内のmapreduce.application.classpathにHadoop-COS jarパッケージの位置情報が含まれていない。

対処方法

設定ファイルmapred-site.xml内で、mapreduce.application.classpathにcosn jarが存在するパスを追加し、サービスを再起動します。

The screenshot shows the Tencent Cloud console interface for configuring MapReduce2. On the left, a sidebar lists various services, with 'MapReduce2' selected. The main panel displays the 'Advanced' settings for 'Advanced mapred-site'. The 'mapreduce.application.classpath' configuration item is highlighted with a red box, and a red arrow points to it. The value entered in the field is: `p.version} jar:/etc/hadoop/conf/secure:/usr/hdp/current/ext/hadoop/*:/usr/hdp/share/cosn/*`. Another red arrow points to the 'cosn' part of the path.

公式のHadoopを使用していますが、クラスCosFileSystemが見つからないと表示されました。

Hadoop-COSはHadoopの公式バージョンとHadoop-COSバージョンをメンテナンスしており、対応するfs.cosn.implとfs.AbstractFileSystem.cosn.implの設定が異なります。

- 公式Hadoopの設定：

```
<property>
<name>fs.cosn.impl</name>
<value>org.apache.hadoop.fs.cosn.CosNFileSystem</value>
</property>
<property>
<name>fs.AbstractFileSystem.cosn.impl</name>
<value>org.apache.hadoop.fs.cosn.CosN</value>
</property>
```

- tencent cosの設定：

```
<property>
<name>fs.cosn.impl</name>
<value>org.apache.hadoop.fs.CosFileSystem</value>
</property>
<property>
<name>fs.AbstractFileSystem.cosn.impl</name>
<value>org.apache.hadoop.fs.CosN</value>
</property>
```

頻度管理と帯域幅に関するご質問

503エラーが発生するのはなぜですか。

ビッグデータのシーンの、同時実行性が比較的高い状況では、COSの頻度管理がトリガーされ、503 Reduce your request rateエラーがスローされる場合があります。fs.cosn.maxRetriesパラメータを設定することで、エラーになったリクエストをリトライすることができます。このパラメータはデフォルトでは200回です。

帯域幅の速度制限を設定しましたが、有効にならないのはなぜですか。

新バージョンでは速度制限設定fs.cosn.traffic.limit(b/s)をサポートしています。この設定はtagが5.8.3およびそれ以降のバージョンでのみサポートされます。[Githubリポジトリ](#)で確認できます。

パート分割に関するご質問

Hadoop-COSにアップロードするパートのサイズを適切に設定するにはどうすればよいですか。

Hadoop-COSの内部ではパート分割の同時実行によって大容量ファイル进行处理し、fs.cosn.upload.part.size(Byte)の設定によってCOSにアップロードするパートのサイズを制御しています。

COSのマルチパートアップロードでは最大10,000ブロックまでしかサポートできないため、使用できる最大1ファイルサイズを推定する必要があります。例えば、`block size`が8MBの場合、最大で78GBの単一ファイルのアップロードに対応します。`block size`は最大2GBまで対応可能で、1ファイルあたり最大19TBまで対応できます。10,000ブロックを超えるとエラー400がスローされます。この設定が正しいかどうかをチェックすることで確認できます。

比較的大容量のファイルをアップロードする際にCOS上のファイルを確認すると、遅延の可能性があるとのことですが、リアルタイムで表示することはできませんか。

Hadoop-COSは大容量ファイル、すなわち1つの`blockSize` (`fs.cosn.upload.part.size`)を超えるファイルについてはマルチパートアップロードを使用しており、すべてのパートがCOSにアップロードされてからでなければファイルを見ることができません。Hadoop-COSは現時点ではAppend操作をサポートしていません。

Bufferに関するご質問

アップロードのBufferタイプはどのように選択すればよいですか。これらの違いは何ですか。

Hadoop-COSアップロードではbufferのタイプを選択し、`fs.cosn.upload.buffer`パラメータを使用して設定を行うことができます。次の3つのうち1つを設定できます。

- `mapped_disk`はデフォルトの設定です。タスクの実行時にディスクが一杯になることを避けるため、`fs.cosn.tmp.dir`は十分な容量があるディレクトリに設定する必要があります。
- `direct_memory` : JVMオフヒープメモリを使用します（この部分はJVMのコントロールを受けないため、設定は推奨しません）。
- `non_direct_memory` : JVMヒープメモリを使用します。128Mに設定することをお勧めします。

bufferタイプがmapped_diskの場合にbufferの作成に失敗したと表示されました。表示内容は `create buffer failed. buffer type: mapped_disk, buffer factory:org.apache.hadoop.fs.buffer.CosNMappedBufferFactory` です。

考えられる原因

現在のユーザーがHadoop-COSの使用する一時ディレクトリに対して読み取り/書き込みおよびアクセス権限を持っていないことです。Hadoop-COSがデフォルトで使用する一時ディレクトリは`/tmp/hadoop_cos`です。あるいはユーザーが`fs.cosn.tmp.dir`を設定して指定することもできます。

対処方法

現在のユーザーに`/tmp/hadoop_cos`を付与するか、または`fs.cosn.tmp.dir`の指定する一時ファイルディレクトリの読み取り/書き込み権限を付与します。

動作異常に関するご質問

コンピューティングタスクの実行中に、エラーメッセージ **java.net.ConnectException: Cannot assign requested address (connect failed) (state=42000,code=40000)** がスローされましたが、どのように対処すればよいですか。

Cannot assign requested addressのエラーが発生するのは、一般的にユーザーが短時間のうちに大量のTCP短時間接続を確立する一方、接続を閉じた後にローカルポートがすぐには回収されず、デフォルトで60秒のタイムアウト時間経過後となるため、クライアントはこの時間中、Server側とのSocket接続の確立に使用できるポートがないことによるものです。

解決方法

/etc/sysctl.conf ファイルを変更し、次のカーネルパラメータを調整することで回避します。

```
net.ipv4.tcp_timestamps = 1 #TCPタイムスタンプのサポートを有効化
net.ipv4.tcp_tw_reuse = 1 #TIME_WAIT状態にあるsocketを新たなTCP接続に用いることをサポート
net.ipv4.tcp_tw_recycle = 1 #TIME-WAIT状態にあるsocketの迅速回収を有効化
net.ipv4.tcp_syncookies=1 #SYN Cookiesが有効であることを表します。SYN待機キューのオーバーフローが発生した際は、cookieを有効にして処理することで、少量のSYN攻撃を防ぐことができます。デフォルトでは0です
net.ipv4.tcp_fin_timeout = 10 #ポート開放後の待機時間
net.ipv4.tcp_keepalive_time = 1200 #TCPがKeepAliveメッセージを送信する頻度。デフォルトでは2時間ですが、20分に変更します
net.ipv4.ip_local_port_range = 1024 65000 #外部と接続するポートの範囲。デフォルトでは32768から61000ですが、1024から65000に変更します
net.ipv4.tcp_max_tw_buckets = 10240 #TIME_WAIT状態のSocketの数を制限し、この数を超過すると、新たなTIME_WAITソケットは直接開放されます。デフォルト値は180000です。このパラメータを適切に低下させることで、TIME_WAIT状態にあるSocketの数を減らすことができます
```

ファイルのアップロード時にエラー**java.lang.Thread.State: TIME_WAITING (parking)**があり、具体的なスタックには**org.apache.hadoop.fs.BufferPoll.getBuffer**および**java.util.concurrent.locks.LockedBlockingQueue.poll**のロックされた状況が含まれます。

考えられる原因

ファイルのアップロード時にbufferを複数回初期化したが、実際の書き込み操作がトリガーされなかった。

解決方法

設定を次のように変更できます。

```
<property>
<name>fs.cosn.upload.buffer</name>
<value>mapped_disk</value>
</property>
<property>
```

```
<name>fs.cosn.upload.buffer.size</name>  
<value>-1</value>  
</property>
```


APIクラスに関するご質問

最終更新日：2022-04-26 17:04:35

COS APIはS3プロトコルをサポートしていますか。

COSはAWS S3互換性を有するAPIを提供しています。詳細については、[AWS S3 SDKを使用したCOSアクセス](#)をご参照ください。

APIインターフェースを呼び出した際、「Request has expired」などのエラーメッセージが表示されますが、どのように対処すればよいですか。

この表示が出た場合は、2つの可能性が考えられます。

- 1つ目は、リクエストの送信時間が署名の有効期間を過ぎていた場合です。
- 2つ目は、ローカルのシステム時刻が所在リージョンの時刻と一致していない場合です。

1つ目の可能性については、有効なリクエスト署名を再度取得してからAPIの操作を行うことをお勧めします。2つ目の可能性の場合は、ローカルのシステム時刻を所在リージョンの時刻に合わせて修正してください。

アップロードが完了していないファイルを、APIを呼び出して削除するにはどうすればよいですか。

まず初めにListMultipartUploadsインターフェースを呼び出して、アップロードが完了していないファイルをリストアップした後、Abort Multipart uploadを呼び出してマルチパートアップロードを破棄し、アップロード済みのパートを削除します。

一括削除インターフェースを呼び出すと正しく返されますが、実際にはファイルの削除に失敗している場合はどうすればよいですか。

削除するファイルのパスをチェックしてください。ファイルパスは / で始める必要はありません。

COSのマルチパートアップロードで、UploadPartリクエストの際にNoSuchUploadと返されます。

渡すuploadIdとpartNumberがすべて同じ場合、後から渡したパートがその前に渡されたパートを上書きします。uploadIdが存在しない場合は「404エラー、NoSuchUpload」と返されます。詳細については、[Upload Part](#)のドキュメントをご参照ください。

APIによってオブジェクトストレージタイプを変更するにはどうすればよいですか。

ユーザーはPUT Object - Copyインターフェースを呼び出してx-cos-storage-classパラメータを変更することで、オブジェクトのストレージタイプを変更できます。詳細については、[PUT Object - Copy](#)をご参照ください。

COSで署名を永続的に有効に設定するにはどうすればよいですか。

COSの署名はタイムスタンプを使用してリクエストが期限切れでないかどうかを判断するものであり、永続的に有効に設定することはできません。ユーザーがパーマネントキーを使用して署名を生成している場合、署名を長期的に有効にしたいのであれば、例えば有効期限を現在の時間から+50年とするなど、長期間のタイムスタンプを設定することができます。ユーザーが一時キーを使用して署名を生成している場合、一時キーの有効期間は最長で2時間のため、生成された署名の有効期間も2時間以内となります。

COSはAPIによる請求書照会をサポートしていますか。

COSは請求書を照会するAPIを提供していません。コンソールの[請求書明細](#)でご確認ください。APIで請求書の明細データを照会したい場合は、[請求書明細データの照会](#)の課金に関するドキュメントをご参照ください。

APIを使用したストレージオブジェクトサイズの照会をサポートしていますか。

[GET Bucket \(List Objects\)](#) インターフェースでオブジェクトのサイズを照会できます。

APIによってオブジェクト名を変更するにはどうすればよいですか。

[PUT Object - Copy](#)を使用してオブジェクトをコピーし、オブジェクト名を指定してリネームすることができます。

APIによってバケットドメイン名を取得するにはどうすればよいですか。

[HEAD Bucket](#) インターフェースによってバケットドメイン名を取得します。レスポンスヘッダーの中の「x-cos-bucket-region」パラメータの値がバケットの所在リージョンを表します。

APIによってバケットのサイズを取得するにはどうすればよいですか。

COSにはバケットのサイズを直接取得できるAPIはありません。[BCMインターフェース](#)からバケット内の各ストレージタイプのストレージ量を取得した後、それらを累計してバケットのストレージ量を算出することをお勧めします。

APIによって使用量明細を照会するにはどうすればよいですか。

次の方法をご参照ください。

1. [APIリクエストツール](#)を直接使用して照会を行います。

COSにはディレクトリ操作のAPIインターフェースがありますか。

COS自体にはフォルダやディレクトリ概念がありません。コンソールに表示されるフォルダは、実際には/で終わる空のオブジェクトです。

APIによってディレクトリ/フォルダを作成するにはどうすればよいですか。

[PUT Object](#)を呼び出して行います。アップロードファイル名が「/」で終わる空ファイルにすることで、ディレクトリの形式を生成することができます。

説明：

COS自体にはフォルダやディレクトリの概念がありません。ユーザーの使用上の習慣に沿って、COSはコンソール、COS browserなどのグラフィックツールで「フォルダ」または「ディレクトリ」という表示方法を疑似的に再現しています。具体的には、ファイル名が「/」で終わり、内容が空のオブジェクトを作成することで、従来のフォルダを模した表示方法を実現します。

APIを使用してディレクトリ/フォルダを削除するにはどうすればよいですか。

COS APIは単一ファイルの削除のみをサポートしています。ディレクトリ全体を削除したい場合は、[GET Bucket \(List Objects\)](#) インターフェースを使用して、プレフィックス（prefixパラメータ）を指定して全ファイルを取得してから、[DELETE Object](#)を使用して削除を実行する必要があります。

COS INTELLIGENT_TIERINGストレージは、Objectのストレージレイヤーをどのように区分していますか。

[オブジェクトのメタデータの照会](#)インターフェースが返すx-cos-storage-tierによって、オブジェクトが存在するストレージレイヤーを取得します。

COSではAPIを使用してどのようにオブジェクトの検索を行いますか。

[HEAD Object](#)インターフェースを使用すると、そのオブジェクトが存在するかどうかを判断することができます。特定のオブジェクトを検索したい場合は、[Get Bucket](#)インターフェースでバケット内のすべてのオブジェクトを取得してから判断できます。

COSでGET Objectインターフェースを使用する際、返される内容を添付ファイル形式でダウンロードするかどうかを動的に指定できますか。

GET Objectインターフェースを使用すると、urlにresponse-content-dispositionパラメータが含まれます。添付ファイルとしてダウンロードしたい場合は指定値をattachmentとします。このタイプのGET Objectリクエストには必ず署名が含まれなければなりません。署名はCOS署名ツールを使用して生成できます。

COSのputObjectCopyを呼び出すと、NoSuchKeyと表示されましたが、どのように対処すればよいですか。

ソースファイルが存在するかどうかをチェックしてください。ソースファイルが存在する場合は、一般的にフォルダの後に「/」が追加されていないことがエラーの原因です。「/」を追加してから再度操作をお試しください。

APIによって特定のobjectのrequest回数を取得することはできますか。

COSには、特定のObjectのrequest回数取得をサポートするAPIはありませんが、ログを分析することで操作を行います。先にこちらの[ログ管理機能の有効化](#)を行ってください。そうすれば、ログを分析して取得できるようになります。